

目 次

はじめに	1
共通科目講義スケジュール	2
医科学概論・特論（実技指導セミナー）開講講座	3
科目表	4
【共通科目】	
医科学概論	8
医科学特論	9
希少糖科学特論	10
研究・生命倫理	11
【専門科目】	
ライフサイエンス科目群	12
トランスレーショナル科目群	49
臨床医・メディカルスタッフ養成科目群	89
がんプロフェッショナル養成科目群	127
【課題研究】	
課題研究	144
学位論文審査の流れ	145
学生生活支援について	146

はじめに

この冊子は、大学院医学系研究科博士課程の授業科目の履修方法及び内容の一部を示したものです。

授業科目の履修方法は、「香川大学大学院学則」及び「香川大学大学院医学系研究科規程」に定められております。

なお、博士課程を修了するための要件の概要は、4年（標準）以上在学し、本医学系研究科規程「別表第2」に従い、授業科目を履修し、30単位以上を修得の上、博士論文を提出し、論文審査に合格することです。

入学年度に履修科目登録を行いますので、所定の期日までに「履修届」を提出してください。履修届の提出がなく履修した科目の修得単位は、原則的に認められませんので注意してください。

次に、科目区分による修得単位数及び授業時間数の概要を説明します。

【共通科目（必修科目）】6単位

必修科目であり、医学系研究科（博士課程）の共通科目として6単位修得しなければなりません。共通科目の履修については出席及びレポートで評価します。

- ・医科学概論 2単位
4月4日・5日・6日の集中講義20時間のうち15時間以上と実技セミナーを1講座受講
- ・医科学特論 2単位
4月6日18時からの講義24時間のうち15時間以上と実技セミナーを1講座受講
- ・希少糖科学特論 1単位と研究・生命倫理 1単位は集中講義で行います。

【専門科目（選択科目）】16単位以上

選択科目は、研究テーマおよび博士論文テーマ等を基に研究を進めるための学習です。

4つの科目群から主科目を選択し、8単位以上（主指導教員の開講する科目を1科目以上含む。但し、がんプロフェッショナル養成コースは除く。）、副科目（主科目以外のすべての科目の履修が可能で、コースを越えて履修可）から4単位、主科目・副科目に関わらず全ての開講科目から4単位以上を履修する。

※がんプロフェッショナル養成コース選択者は、がんプロフェッショナル養成科目群の共通コアカリキュラム及びがん専門共通科目は必修とする。

【課題研究】8単位 指導教員による論文指導

以上、【共通科目】6単位、【専門科目】16単位以上、【課題研究】8単位の合計30単位以上の単位を修得した上で、博士論文の審査を受けることができます。

**平成29年度香川大学大学院（博士課程）
共通科目講義スケジュール**

【医科学概論】

場所：講義棟1階大講義室A

月日	9:00-9:50	9:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50	18:00-19:30
4月4日 (火)		(ガイダンス) ※1	大学院とは (副医学部長) 研究者倫理 <2時間>	動物実験に関する教育訓練 (星野、宮下) 医科学概論 <4時間>	動物実験施設の役割と実験動物使用の倫理 (徳田) 医科学概論 <2時間>		
4月5日 (水)				実験実習機器部門の役割とその利用 (神鳥、西) 医科学概論 <4時間>	RIの特徴と研究への利用 (中村) 医科学概論 <2時間>	医療情報学 (横井) 医科学概論 <2時間>	
4月6日 (木)				図書館情報と研究 (医学部分館長) 医科学概論 ※2 <4時間>			

※1 ガイダンスで学生証をお渡しします。履修届等の提出書類について説明します。

※2 図書館情報と研究は9時から看護学科棟2階のマルチメディア実習室で行います。

医科学概論と医科学特論は15時間以上受講が必要です

【医科学特論】

場所：臨床講義棟1階

	18:00-19:30 (2時間)	19:40-21:10 (2時間)
4月6日 (木)	臨床研究について (薬理学:西山) <2時間>	トランスレーショナル・リサーチの実際 (薬理学:西山) <2時間>
4月7日 (金)	形態学・組織細胞化学アップデート (組織細胞生物学:荒木) <2時間>	癌個別化医療に利用される解析技術 (泌尿器科学:箕ノ張) <2時間>
4月13日 (木)	成長因子、生体内吸収材料を応用した再生医療 (呼吸器・乳腺内分泌外科学:呉) <2時間>	細胞シグナル伝達解析技術： 蛋白質リン酸化とカルシウムシグナル (自律機能生理学:平野) <2時間>
4月14日 (金)	ヒトゲノムプロジェクト、他生物ゲノム プロジェクトの動向とその意義 (総合生命科学研究センター 遺伝子研究部門:竹崎) <2時間>	タンパク質の3次元構造解析とその応用 (総合生命科学研究センター 分子構造解析研究部門:神鳥) <2時間>
4月20日 (木)	高速液体クロマトグラフ法： ビリルビン分析を中心とした (小児科学:岡田) <2時間>	遺伝子治療と機能解析 (呼吸器・乳腺内分泌外科学:横見瀬/劉) <2時間>
4月21日 (金)	蛋白質機能解析技術 (自律機能生理学:平野/山下) <2時間>	研究手法としての形態学形態学の基礎・ 組織定量・免疫組織化学 (神経機能形態学:三木) <2時間>

医学部学務室 大学院・入学試験係

平成29年度医科学概論・特論(実技指導セミナー)開講講座

【 実技指導セミナー】

日時・場所については、指導教員の指示による。

専攻	講座	テーマ	主たる実験手法	指導教員	
医学専攻	神経機能形態学	STEREOLOGYによる形態計測	組織標本(2次元)にStereologyを適応して、3次元の立体で粒子の数(例えば細胞数)を評価する方法を紹介する。	教授 助教	三木崇範 鈴木辰吾 太田健一
	分子神経生物学	神経変性疾患の病態解析用モデル動物の作成と利用	各種精神神経疾患・神経変性疾患モデルの作成と解析	教授	山本 融
	耳鼻咽喉科学	細胞のイオン輸送をリアルタイムで定量するパッチクランプ法	パッチクランプ法	准教授	宮下武憲
	炎症病理学	電子顕微鏡を使った実験の進め方	電子顕微鏡を使い、細胞の超微形態を観察する	教授	上野正樹
	皮膚科学	皮膚の組織化学	免疫組織化学染色、蛍光抗体直接法	教授 講師	窪田泰夫 中井浩三
	呼吸器・乳腺内分泌外科学	siRNAによるノックダウン	細胞核にsiRNAを導入し、ターゲット遺伝子の発現をノックダウンする実験について、講義と実習を行う。	教授 助教	横見瀬裕保 劉 大革
	小児科学	HPLCの臨床応用	高速液体クロマトグラフィーを用いて、内因性及び外因性物質を分析する。	講師	岡田 仁
		近赤外分光法の臨床応用	近赤外分光法を用いて脳および他の臓器の循環・代謝を評価する。	教授	日下 隆
	細胞情報生理学	マイクロアレイを用いた遺伝子発現プロファイルの解析(mRNAの発現比較解析)	遺伝子発現を比較したいサンプルからRNAを抽出し、マイクロアレイにて遺伝子発現を比較する。得られたデータをコンピュータを用いたBioinformatics手法で解析する。サンプルは当講座で準備または参加者に各自の大学院研究テーマに密接に関するものを準備してもらう(実習の都合上、使用するサンプルを1種類にしぼる。希望多数の場合、実習で使用可能なサンプルから公平に選ぶ)。	教授 准教授	徳田雅明 山口文徳
	生化学	脂質代謝酵素の性状解析	蛋白定量及びウェスタン・ブロッティング	教授 学内講師	上田夏生 宇山 徹
	総合生命科学研究センター	3次元分子モデリングの手法を用いたタンパク質・リガンド相互作用の解析	1 タンパク質X線結晶解析によって3次元構造が決定されていく過程をコンピューター上で観察する。 2 タンパク質・リガンド複合体の3次元分子モデリングをコンピューター上で行い、分子力学・動力学計算により複合体構造を評価・解析を行う。	教授 准教授	神鳥成弘 吉田裕美
		DNA塩基配列データ解析	DNA塩基配列データのデータベースからの収集、解析方法をコンピューターを用いて実際に行う	教授 准教授	竹崎直子 岩間久和
	薬理学	In Vivo イメージングによる病態解析	Two-photon Microscopy を駆使し、動物の各組織のリアルタイムイメージングを行う。	教授 助教	西山 成人 見浩史 中野大介
	消化器神経内科	消化器癌における細胞周期	免疫組織学的検討	教授 学内講師 学内講師	正木 勉 米山弘人 森下朝洋
	泌尿器科学	CD-DST法による抗がん剤感受性試験	コラーゲン・ゲル・ドロップ培養法で抗癌剤感受性を評価する	教授 助教	笥 善行 張 霞
	眼科	網膜虚血および緑内障モデルの作成	緑内障モデルの作成	准教授	廣岡一行
先端医療・臨床検査医学	細胞への遺伝子導入法	細胞への遺伝子導入は分子生物学的実験の基本となっている。今回は、実際の細胞、プラスミドを使用し、導入効率も含め一貫した遺伝子導入法のプロセスの説明をおこないたい。	教授 准教授	村尾孝児 井町仁美	
免疫学	フローサイトメトリーの原理と実際	フローサイトメトリーを用いた細胞表面抗原の評価	教授 助教	星野克明 仁木敏朗 財賀大行	
公衆衛生学	生物統計学への招待	研究で使用する基本的統計処理手法について解説し、サンプルデータを用いた実技指導を行なう。	教授 准教授	平尾智広 宮武伸行	

医学系研究科博士課程 科目表

科目区分	授業科目の名称	年次	単位数		担当教員(所属)
			必修	選択	
共通科目	医科学概論	1前	2		三木崇範(神経機能形態学) 他
	医科学特論	1前	2		三木崇範(神経機能形態学) 他
	希少糖科学特論	1後	1		徳田雅明・山口文徳(細胞情報生理学) 村尾孝児(内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学)
	研究・生命倫理	1前	1		三木崇範(神経機能形態学)・西山 成(薬理学)
	小計		6		
専門科目 基礎臨床研究医・生命科学研究者育成コース ①ライフサイエンス科目群	希少糖の機能	1・2通		4	徳田雅明・山口文徳(細胞情報生理学)
	発達神経科学	1・2通		4	三木崇範(神経機能形態学)・日下 隆(小児科学)
	分子形態学特論	1・2通		2	荒木伸一(組織細胞生物学)・横平政直(腫瘍病理学)
	組織細胞科学特論	1・2通		4	荒木伸一(組織細胞生物学)・横平政直(腫瘍病理学)
	神経細胞生物学特論	1・2通		4	山本 融(分子神経生物学)・宮下信泉(動物実験部門)
	神経生理学	1・2通		4	徳田雅明・山口文徳(細胞情報生理学)
	呼吸循環生理学	1・2通		4	平野勝也(自律機能生理学)・山下洋一(心臓血管外科学)
	循環生理シグナル伝達学	1・2通		4	平野勝也(自律機能生理学)・野間貴久(循環器内科)
	薬理学特論	1・2通		4	西山 成(薬理学)・岡田仁(小児科学)
	脂質生物学	1・2通		4	上田夏生・大西 平(生化学)
	酵素学実験法	1・2通		4	上田夏生・大西 平(生化学)
	医用有機化学特論	1通		4	和田健司(医用化学)
	医用分析化学特論	2通		4	和田健司(医用化学)
	分子内分泌学	1・2通		4	中村隆範(分子細胞機能学)・西 望(実験実習機器部門)
	核医学画像解析	1・2通		2	久富信之(医用物理学)
	毒性病理学	1・2通		2	今井田克己・横平政直(腫瘍病理学)
	分子神経病理学	1・2通		4	三木崇範(神経機能形態学)・上野正樹・千葉陽一(炎症病理学)
	免疫組織化学	1・2通		4	上野正樹・千葉陽一(炎症病理学)
	免疫制御学	1・2通		4	星野克明(免疫学)
	寄生虫学特論	1・2通		2	新井明治(国際医動物学)
	衛生動物学特論	1・2通		2	新井明治(国際医動物学)
	微生物ゲノム科学	1・2通		2	桑原知巳(分子微生物学)
	生活習慣病予防論	1・2通		2	宮武伸行(衛生学)
	臨床疫学	1前		1	平尾智広・依田健志(公衆衛生学)
	生物統計学	1前		1	平尾智広・依田健志(公衆衛生学)
	医療管理学	1後		1	平尾智広・依田健志(公衆衛生学)
	健康危機管理論	2前		1	平尾智広・依田健志(公衆衛生学)
	国際保健論	2後		1	平尾智広・依田健志(公衆衛生学)
	法医学特論	1・2通		2	木下博之(法医学)
	医学教育学特論	1・2通		2	岡田宏基・坂東修二(医学教育学)
	遺伝情報解析学	1・2通		4	竹崎直子・岩間久和(総合生命科学研究センター)
	疾患ゲノム情報学	1・2通		4	竹崎直子・岩間久和(総合生命科学研究センター)
	生体分子立体構造学	1・2通		2	神島成弘・吉田裕美(総合生命科学研究センター)
実験動物学・動物遺伝学	1・2通		2	宮下信泉(動物実験部門)	
糖鎖構造解析	1・2通		2	中北慎一(糖鎖機能解析研究部門)	
小計			101		

医学系研究科博士課程 科目表

科目区分	授業科目の名称	年次	単位数		担当教員(所属)		
			必修	選択			
専 門 科 目	基礎臨床研究医・生命科学研究者育成コース ②トランスレーショナルリサーチ科目群	希少糖と生活習慣病	1・2通		2	徳田雅明・山口文徳(細胞情報生理学)	
		バイオイメーjing技術の開発・応用	1通		2	荒木伸一(組織細胞生物学)・横平政直(腫瘍病理学)	
		中耳・内耳バイオイメーjing	2通		2	星川広史・宮下武憲(耳鼻咽喉科学)	
		形成外科におけるバイオイメーjing	1・2通		2	永竿智久(形成外科学)・久富信之(医用物理学)	
		細胞シグナル伝達学に基づくトランスレーショナルリサーチ	1・2通		4	平野勝也(自律機能生理学)・西望(実験実習機器部門)	
		生活習慣病診断・治療の前臨床開発	1・2通		4	西山成(薬理学)・宮武伸行(衛生学)	
		iPS細胞の応用	1・2通		2	西山成(薬理学)・三宅啓介(脳神経外科学)	
		糖鎖情報と臨床応用	1・2通		4	中村隆範(分子細胞機能学)・西望(実験実習機器部門)	
		発がん機構	1・2通		2	今井田克己・横平政直(腫瘍病理学)	
		免疫機能を調整する薬剤の開発	1・2通		4	星野克明(免疫学)	
		微生物共生システムと応用	1・2通		2	桑原知己(分子微生物学)	
		健康測定・アセスメント	1・2通		2	宮武伸行(衛生学)	
		医療経済・テクノロジーアセスメント	1前		1	平尾智広・依田健志(公衆衛生学)	
		医療政策論	1後		1	平尾智広・依田健志(公衆衛生学)	
		死因究明技術の開発	1・2通		2	木下博之(法医学)	
		タンパク質分子設計	1・2通		2	神鳥成弘・吉田裕美(総合生命科学研究センター)	
		精神神経疾患の創薬科学	1・2通		4	山本融(分子神経生物学)・宮下信泉(動物実験部門)	
		臨床アウトカムとしてのQOL評価の応用	1前		1	窪田泰夫(皮膚科学)	
		臨床アウトカムとしての画像解析システム	1後		1	窪田泰夫(皮膚科学)	
		睡眠(終夜脳波システム)の臨床開発	1・2通		4	中村祐・角徳文(精神神経医学)・安藤延男(精神科神経科)	
		認知症診断の技術研究	1・2通		4	中村祐・角徳文(精神神経医学)・安藤延男(精神科神経科)	
		脂質異常症と心血管病	1・2通		4	南野哲男(循環器・腎臓・脳卒中内科学)・野間貴久(循環器内科)	
		食塩感受性高血圧モデルの臨床応用	1・2通		2	南野哲男(循環器・腎臓・脳卒中内科学)・野間貴久(循環器内科)	
		周産期の脳発達と子供の健康	1通		4	三木崇範(神経機能形態学)・日下隆(小児科学)	
		高速液体クロマトグラフィーの臨床応用	2通		2	日下隆・岡田仁(小児科学)	
		近赤外線分光法を用いた臨床研究	2通		2	日下隆・岡田仁(小児科学)	
		骨軟部腫瘍研究の臨床応用	1・2通		4	山本哲司・真柴賛(整形外科)	
		前立腺がんの新規マーカーの開発	1通		2	箕善行(泌尿器科学)	
		低侵襲手術式の開発	2通		2	箕善行(泌尿器科学)	
		癌とマイクロRNA	1通		2	正木勉・出口一志(消化器・神経内科学)	
		癌と遺伝子異常	2通		2	正木勉・出口一志(消化器・神経内科学)	
		分子イメーjingの臨床応用	1・2通		4	西山佳宏・山本由佳(放射線医学)	
		動脈硬化症への遺伝子治療	1・2通		4	村尾孝児・井町仁美(内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学)	
		病理診断学の臨床応用	1・2通		4	羽場礼次(病理診断科)	
		神経保護薬の臨床開発	1・2通		4	廣岡一行(眼科学)	
		医工融合による医療機器開発	1・2通		1	永竿智久(形成外科学)・久富信之(医用物理学)	
		救急・生体侵襲制御	1・2通		2	黒田泰弘(救急災害医学)	
		臨床栄養・微生物学	1・2通		4	下野隆一(小児外科学)	
		小計			101		
			希少糖医学	1前		1	星川広史(耳鼻咽喉科学)
			地域医療学	1後		1	舛形尚(総合内科)

医学系研究科博士課程 科目表

科目区分	授業科目の名称	年次	単位数		担当教員(所属)		
			必修	選択			
専 門 科 目	③ 臨床 医 ・ メ デ イ カ ル ス タ ツ フ 養 成 科 目 群	高齢者医療学	1前		1	松原修司 (地域医療教育支援センター)	
		医療倫理	1前		1	三木崇範 (神経機能形態学)・岡田宏基 (医学教育学)	
		生活習慣病学	1後		1	村尾孝児 (内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学)	
		災害医療・災害医学	1後		1	黒田泰弘 (救急災害医学)	
		神経病学	1・2通		2	中村 祐・角 徳文 (精神神経医学)・出口一志 (消化器・神経内科学)	
		脳神経外科学	1・2通		2	田宮 隆・三宅啓介 (脳神経外科学)	
		運動器病学	1・2通		2	山本哲司・真柴 賛 (整形外科学)	
		精神病学	1・2通		4	中村 祐・角 徳文 (精神神経医学)	
		腎・泌尿器病学	1・2通		4	西山 成 (薬理学)・南野哲男 (循環器・腎臓・脳卒中内科学)・杉元幹史 (泌尿器・副腎・腎移植外科)	
		感染症学	1・2通		2	岡田宏基 (医学教育学)	
		血液病学 (血液・造血器・リンパ)	1・2通		2	門脇則光 (血液免疫呼吸器内科学)・岡田宏基 (医学教育学)	
		免疫・アレルギー疾患学	1・2通		2	門脇則光 (血液免疫呼吸器内科学)	
		呼吸器病学	1・2通		4	門脇則光 (血液免疫呼吸器内科学)・横見瀬裕保 (呼吸器乳腺内分泌外科学)・呉 哲彦 (呼吸器外科)	
		乳腺内分泌外科学	1・2通		2	紺谷圭一 (呼吸器乳腺内分泌外科学)	
		消化器病学	1・2通		2	正木 勉・出口一志 (消化器・神経内科学)・鈴木康之 (消化器外科学)・	
		循環器病学	1・2通		2	堀井泰浩・山田洋一 (心臓血管外科学)・南野哲男 (循環器・腎臓・脳卒中内科学)・野間貴久 (循環器内科)	
		母子周産期医学	1・2通		2	秦 利之・田中宏和 (周産期学婦人科学)	
		皮膚病学	1・2通		2	窪田泰夫 (皮膚科学)	
		眼病学	1・2通		2	廣岡一行 (眼科学)	
		口腔病学	1・2通		2	三宅 実・大林由美子 (歯科口腔外科学)	
		頭頸部病学	1通		2	星川広史・宮下武憲 (耳鼻咽喉科学)	
		耳鼻咽喉疾患学	2通		2	星川広史・宮下武憲 (耳鼻咽喉科学)	
		放射線医学	1・2通		2	西山佳宏・山本由佳 (放射線医学)	
		痛み学	1通		2	白神豪太郎 (麻酔学)	
		呼吸循環制御学	2通		2	白神豪太郎 (麻酔学)	
		小児科学	1・2通		2	日下 隆・岡田 仁 (小児科学)	
		内分泌代謝学	1通		2	村尾孝児・井町仁美 (内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学)	
		糖尿病学	2通		2	村尾孝児・井町仁美 (内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学)	
		救急救命医学	1・2通		2	黒田泰弘 (救急災害医学)	
		形態機能学	1・2通		2	永竿智久 (形成外科学)・真柴 賛 (整形外科学)	
		薬学	1・2通		2	芳地 一 (薬剤部)	
		小児外科学	1・2通		4	下野隆一 (小児外科学)	
		小計				70	
④ がん プロ フェ ッ シ ョ ナ ル 養 成 科 目 群	共通 コア カリ キュ ラム	研究方法論応用	1	1前			
		・ がん疫学論					
		・ 臨床研究論					
		・ 医療統計学	1	1後		4	
		悪性腫瘍の管理と治療					
		・ 検査、診断法概論					
		・ 治療法概論					
・ 治療合併症、支持療法、緩和治療							

医学系研究科博士課程 科目表

科目区分	授業科目の名称			年次	単位数		担当教員(所属)		
					必修	選択			
専 門 科 目	高度医療人育成コース	④がんプロフェッショナル養成科目群	共通 コア カリ キュ ラム	・老年腫瘍学			e-learning外		
				・がんの心理社会的側面					
			医療倫理学・医療経済学	0.5	1・2通				
			医療対話学	0.5	1・2通				
			がんチーム医療実習	0.5	1・2通				
			医療情報学(腫瘍学における情報システム)	0.5	1・2通				
			が 共 通 専 科 目	がんのベーシックサイエンス、臨床薬理学	1	2通		4	
				臨床検査、病理、放射線診断学	0.5	2通			
				臓器別がん治療各論	2	2通			
				がん緩和治療	0.5	2通			
			が 選 択 専 科 目	放射線治療法		2通		1	柴田 徹 (放射線腫瘍学)
				臨床腫瘍学		2・3通		2	辻 晃仁 (臨床腫瘍学)
				放射線腫瘍学		2・3通		2	柴田 徹 (放射線腫瘍学)
			小計					13	
課題研究				3・4通	8				

(履修方法)

(1) 共通科目6単位、専門科目16単位以上、課題研究8単位の計30単位以上とする。

(2) 専門科目は16単位以上のうち、

4つの科目群から主科目を選択し8単位以上(主指導教員の開講する科目を1科目以上含む。但し、がんプロフェッショナル養成コースは除く。)、副科目(主科目以外の3つの科目の履修が可能で、コースを越えてよい)から4単位、主科目・副科目に関わらず全ての開講科目から4単位以上を履修する。

※がんプロフェッショナル養成コース選択者は、がんプロフェッショナル養成科目群の共通コアカリキュラム及びがん専門共通科目は必修とする。

共通科目一覽

医科学概論	8
医科学特論	9
希少糖科学特論	10
研究・生命倫理	11

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
医科学概論	必修科目	2	前期		987180
講義題目	関連授業課目				
医科学概論	医科学特論				
担当教員名	履修推奨科目				
三木崇範 他	医科学特論				
授業の概要					
<p>医学系大学院で研究を始めるにあたり、医学系研究者としての基盤知識や研究に対する姿勢について、オムニバス方式で講義が行われる。また実践的研究手法の授業として、代表的研究手法をテーマに演習・実技指導が行われる。</p>					
授業の目的・達成目標					
<p>医学研究の意義の理解と研究のための基本的手技を修得する。</p>					
授業及び学習の方法					
<p>授業は講義と演習の形態で行われる。研究に関する概略を研究総論として講義形式で行う。また、実践的実験手技指導はセミナー形式で行われる。</p>					
成績評価の方法と基準					
<p>出席状況とレポート提出等で総合的に評価する。</p>					
授業計画					
<p>1回 イントロダクション・大学院の社会的責務と将来 2－3回 実験動物に関する教育訓練・動物実験施設の役割と実験動物利用の倫理 4回 大学院の国際競争 5－6回 実験機器の役割と利用 7回 R I の特性と研究応用 8回 医療情報学 9－11回 図書館情報と研究 12－15回 以下の実験手技セミナーを選択科目として受講 1) STEREOLOGY による形態計測 2) 神経変性疾患の病態解析用モデル動物の作成と利用 3) 細胞のイオン輸送をリアルタイムで定量するーパッチクランプ法ー 4) 電子顕微鏡を使った実験の進め方 5) 皮膚の組織化学 6) siRNA によるノックダウン 7) HPLC の臨床応用・近赤外分光法の臨床応用 8) マイクロアレイを用いた遺伝子発現プロファイルの解析 (mRNA の発現比較解析) 9) 脂質代謝酵素の性状解析 10) 3次元分子モデリングの手法を用いたタンパク質・リガンド相互作用の解析 11) DNA 塩基配列データ解析 12) in Vivo イメージングによる病態解析 13) 消化器癌における細胞周期 14) CD-DST 法による抗がん剤感受性試験 15) 網膜虚血および緑内障モデルの作成 16) 細胞への遺伝子導入法 17) フローサイトメトリーの原理と実際 18) 生物統計学への招待</p>					
教科書					
<p>特別には定めないが、担当教員が適宜紹介する。</p>					
参考書					
<p>特別には定めないが、担当教員が適宜紹介する。</p>					
オフィスアワー					
<p>担当教員と直接アポイントメントを取り。</p>					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail : mikit@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
医科学特論	必修科目	2	前期		987181
講義題目	関連授業課目				
	医科学概論				
担当教員名	履修推奨科目				
三木崇範 他	医科学概論				
授業の概要					
大学院博士課程の共通科目として開講され、医学研究の基本的ストラテジーを幅広い研究領域でカバーして医科学特論授業が行われる（研究ストラテジー講義、基礎研究・橋渡し研究・臨床研究の演習及び実習）。そのストラテジーを実践する具体的研究手法として演習・実技指導セミナーと関連講義が行われる。					
授業の目的・達成目標					
研究目的に合致した手法やその実践法との関連性を理解し、実研究に役立つ速戦的知識や研究手法を修得する。					
授業及び学習の方法					
授業は、講義と演習で行われる。 1) 研究ストラテジーは講義形式 2) 実践的実験手技指導は演習・セミナー形式で行われる（医科学概論参照）。					
成績評価の方法と基準					
出席状況とレポート提出等で総合的に評価する。					
授業計画					
医科学特論講義（第1－12回）					
1) 癌個別化医療に利用される解析技術					
2) 遺伝子治療と機能解析					
3) 形態学・組織細胞化学アップデート					
4) 研究手法としての形態学形態学の基礎・組織定量・免疫組織化学					
5) 臨床研究について					
6) トランスレーショナル・リサーチの実際					
7) 酸素と生命、生理学					
8) タンパク質の機能を調べる					
9) ヒトゲノムプロジェクト、他生物ゲノムプロジェクトの動向とその意義					
10) 高速液体クロマトグラフ法：ビリルビン分析を中心とした					
11) 成長因子、生体内吸収材料を応用した再生医療					
12) タンパク質の3次元構造解析とその応用					
併せて、実験手技指導セミナー（選択）が開催される（3回分に充当）					
1) STEREOLOGYによる形態計測 2) 神経変性疾患の病態解析用モデル動物の作成と利用 3) 細胞のイオン輸送をリアルタイムで定量する－パッチクランプ法－ 4) 電子顕微鏡を使った実験の進め方 5) 皮膚の組織化学 6) siRNAによるノックダウン 7) HPLCの臨床応用・近赤外分光法の臨床応用 8) マイクロアレイを用いた遺伝子発現プロファイルの解析(mRNAの発現比較解析) 9) 脂質代謝酵素の性状解析 10) 3次元分子モデリングの手法を用いたタンパク質・リガンド相互作用の解析 11) DNA塩基配列データ解析 12) in Vivoイメージングによる病態解析 13) 消化器癌における細胞周期 14) CD-DST法による抗がん剤感受性試験 15) 網膜虚血および緑内障モデルの作成 16) 細胞への遺伝子導入法 17) フローサイトメトリーの原理と実際 18) 生物統計学への招待					
教科書					
特別には定めませんが、担当教員が適宜紹介する。					
参考書					
特別には定めませんが、担当教員が適宜紹介する。					
オフィスアワー					
担当教員と直接アポイントメントを取ること。					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail : mikit@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
希少糖科学特論	必修科目	1	後期		987182
講義題目	関連授業課目				
	希少糖の機能 希少糖と生活習慣病 希少糖医学				
担当教員名	履修推奨科目				
徳田 雅明、村尾 孝児、山口 文徳					
授業の概要					
<p>希少糖は自然界に微量にしか存在しない単糖（およびその誘導体）として定義される。存在量は少ないが、種類は50種類以上と多い。香川大学の何森教授らはこの希少糖を40年前から研究し、果糖からD-プシコースの大量生産する酵素を発見した。そして最終的に「イズモリング」と呼ばれる希少糖生産戦略図の完成に至る。希少糖の大量生産により、昆虫、植物、動物、ヒトなどへの機能の解析が進んだ。さらにそれらの機能を応用して食品や農薬、医薬品のほか、幅広い機能性が期待されている。香川県が世界の希少糖拠点となっている現状を、希少糖の生い立ちから、その生産、機能および応用について学習することを通して理解する。希少糖が地域の活性化にどのように役立つか、特に地域の健康（生活習慣病予防）への貢献の可能性について考える。</p>					
授業の目的・達成目標					
<p>「希少糖」はなぜ香川で生まれたのか、希少糖の諸性質・諸機能について知る。また産学官連携による希少糖産業の振興について、香川県内、日本国内さらに世界でどのような趨勢であるかを知る。そして希少糖の未来、今後の展開について考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 希少糖とは何か、そしてなぜ香川大学で生まれたか。 2. 希少糖の基礎研究から応用研究の現状についての知識を得る。 3. 産学官連携プロジェクトとしての希少糖プロジェクトについて学習する。 4. 希少糖の未来への展開・展望を考える。 					
授業及び学習の方法					
集中講義形式で行う。					
成績評価の方法と基準					
出席およびレポートで評価する。一部自主的な学習を求める。					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> (1) 希少糖とは (2) 希少糖の生産とイズモリング (3) 希少糖の諸性質（物理化学的性質） (4) 希少糖の機能1（植物） (5) 希少糖の機能2（動物：D-プシコース） (6) 希少糖の機能3（動物：D-アロース） (7) 希少糖の機能4（動物：その他の希少糖） (8) 希少糖の産学連携と事業化 <p>その他関連の論文や総説を提供し読んでもらい、与えられたテーマでレポートを作成する。 希少糖に関するイベントに参加することも紹介する。</p>					
教科書					
特に定めない					
参考書					
希少糖秘話（何森健著） 香川発希少糖の軌跡（松崎隆司著）					
オフィスアワー					
随時受け付ける。徳田（tokuda@med.kagawa-u.ac.jp）までメールで連絡をすること。					
履修上の注意					
未定					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~physiol1/index.html および http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~kishoto/index.html					
E-Mail : tokuda@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
研究・生命倫理	必修科目	1	前期		987183
講義題目	関連授業課目				
生命科学と倫理	医科学概論、医科学特論				
担当教員名	履修推奨科目				
三木 崇範、西山 成	医科学特論（トランスレーショナル・リサーチの実際				
授業の概要					
生命科学や医学研究に必要な倫理教育（CITI Japan の活用及び倫理委員会の教育訓練含む）を講義形式（講演会形式含む）で、定期的に行う。					
授業の目的・達成目標					
研究の医学的意義が認められるには、研究倫理・生命倫理が担保されていることがベースとなる。研究の根幹となる倫理性に対する十分な理解と見識を深めることを目標とする。また、本授業では倫理意識・規範を継続的に持つことができるように、定期的に講演会等に参加することが求められている。					
授業及び学習の方法					
講義形式（一部講演会への出席で充当）で行われる。					
成績評価の方法と基準					
出席状況等で総合的に評価する					
授業計画					
研究・倫理教育は大学院課程のみならず、医学研究にあたる全ての研究者にとって重要な項目であることから、香川大学医学部倫理委員会が主催となって、セミナー、E-Learning による教育訓練（CITI Japan の活用含む）、講演会（年間 3-4 回）定期的で開催している。これらにも参加して、継続的に倫理意識の向上に努められるプログラムを用意している。また、大学院の共通科目の 医科学概論 や 医科学特論 でも 研究・生命倫理 を扱っている。					
1) 倫理委員会主催の講演会（年間 4 回以上開催予定） 4 コマ 2) E-Learning による CITI Japan 倫理教育受講 4 コマ(充当)					
教科書					
特別には定めないが、担当教員が適宜紹介する。					
参考書					
特別には定めないが、担当教員が適宜紹介する。					
オフィスアワー					
担当教員と直接アポイントメントを取ること。 講演会の開催告知のアナウンスに留意すること。					
履修上の注意					
出席を重視する。					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail : mikit@med.kagawa-u.ac.jp					

専門科目一覧

① ライフサイエンス科目群

希少糖の機能	12
発達神経科学	13
分子形態学特論	14
組織細胞科学特論	15
神経細胞生物学特論	16
神経生理学	17
呼吸循環生理学	18
循環生理シグナル伝達学	20
薬理学特論	22
脂質生物学	23
酵素学実験法	24
医用有機化学特論	25
医用分析化学特論	26
分子内分泌学	27
核医学画像解析	28
毒性病理学	29
分子神経病理学	30
免疫組織化学	31
免疫制御学	32
寄生虫学特論	33
衛生動物学特論	34
微生物ゲノム科学	35
生活習慣病予防論	36
臨床疫学	37
生物統計学	38
医療管理学	39
健康危機管理論	40
国際保健論	41
法医学特論	42
医学教育学特論	43
遺伝情報解析学	44
疾患ゲノム情報学	45
生体分子立体構造学	46
実験動物学・動物遺伝学	47
糖鎖構造解析	48

② トランスレーショナルリサーチ科目群

希少糖と生活習慣病	49
バイオイメージング技術の開発・応用	50
中耳・内耳バイオイメージング	51
形成外科におけるバイオイメージング	52
細胞シグナル伝達学に基づくトランスレーショナルリサーチ	53
生活習慣病診断・治療の前臨床開発	55
iPS細胞の応用	56
糖鎖情報と臨床応用	57
発がん機構	58
免疫機能を調整する薬剤の開発	59
微生物共生システムと応用	60
健康測定・アセスメント	61
医療経済・テクノロジーアセスメント	62
医療政策論	63
死因究明技術の開発	64
タンパク質分子設計	65
精神神経疾患の創薬科学	66
臨床アウトカムとしてのQOL評価の応用	67
臨床アウトカムとしての画像解析システム	68
睡眠（終夜脳波システム）の臨床開発	69
認知症診断の技術研究	70
脂質異常症と心血管病	71
食塩感受性高血圧モデルの臨床応用	72
周産期の脳発達と子供の健康	73
高速液体クロマトグラフィーの臨床応用	74
近赤外線分光法を用いた臨床研究	75
骨軟部腫瘍研究の臨床応用	76
前立腺がんの新規マーカーの開発	77
低侵襲手術術式の開発	78
癌とマイクロRNA	79
癌と遺伝子異常	80
分子イメージング	81
動脈硬化症への遺伝子治療	82
病理診断学の臨床応用	83
神経保護薬の臨床開発	85
医工融合による医療機器開発	86
救急・生体侵襲制御	87
臨床栄養・微生物学	88

③ 臨床医・メディカルスタッフ養成科目群

希少糖医学	89
地域医療学	90
高齢者医療学	91
医療倫理	92
生活習慣病学	93
災害医療・災害医学	94
神経病学	95
脳神経外科学	96
運動器病学	97
精神病学	98
腎・泌尿器病学	100
感染症学	101
血液病学（血液・造血器・リンパ）	103
免疫・アレルギー疾患学	104
呼吸器病学	105
乳腺内分泌外科学	106
消化器病学	107
循環器病学	109
母子周産期医学	111
皮膚病学	112
眼病学	113
口腔病学	114
頭頸部病学	115
耳鼻咽喉疾患学	116
放射線医学	117
痛み学	118
呼吸循環制御学	119
小児科学	120
内分泌代謝学	121
糖尿病学	122
救急救命医学	123
形態機能学	124
薬学	125
小児外科学	126

④ がんプロフェッショナル養成科目群

共通コアカリキュラム	
研究方法論応用	127
悪性腫瘍の管理と治療	128
医療倫理学・医療経済学	129
医療対話学	130
がんチーム医療実習	131
医療情報学（腫瘍学における情報システム）	132
がん専門共通科目	
がんのベーシックサイエンス、臨床薬理学	133
臨床検査、病理、放射線診断学	135
臓器別がん治療各論	136
がん緩和治療	140
放射線治療法	141
臨床腫瘍学	142
放射線腫瘍学	143

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
希少糖の機能	選択科目	4	通年		987191
講義題目	関連授業課目				
希少糖の機能 講義・演習	希少糖と生活習慣病 希少糖医学				
担当教員名	履修推奨科目				
徳田雅明 山口文徳					
授業の概要					
<p>糖は我々が生きていくのに欠くことのできない栄養素であったり有効物質の構成成分であり重要な役割を果たしている。しかし一方では、糖は過剰摂取による糖尿病や肥満など病気を作り出す原因にもなっている。こうした糖の医学的分野における功罪について勉強するとともに、医薬の世界における利用についても理解する。また希少糖の研究が進み、さまざまな生理活性が示されている。こうした研究について見聞し、希少糖の医薬品としての将来性について考察する。特にD-アロースとD-プシコースという2種類の希少糖の生理機能について学習する。</p>					
授業の目的・達成目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品としての糖質の役割について理解する。また希少糖の医薬品としての可能性をサポートする生理活性について理解する。 2. 基礎研究から応用研究につながるトランスレーショナルリサーチについて勉強する。 3. 産学官連携プロジェクトとしての希少糖プロジェクトについて学習する。 					
授業及び学習の方法					
<p>受講生と連絡を取り、集中講義形式で行う。 書籍や論文を紹介もしくは提供するので熟読しレポートを作成する。 事業化については、企業の立場からの知見の紹介や、企業見学を行う。 希少糖の動物実験やヒト試験などの方法について見学・理解する。</p>					
成績評価の方法と基準					
<p>出席およびレポートで評価する。 一部自主的な学習を求めるので、積極的に参加していることを評価する。</p>					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> (1) 希少糖の生理機能概説 (2) 希少糖の生理作用の解析方法 (3) ～(6) 希少糖D-プシコースの機能 (7) ～(10) 希少糖D-アロースの機能 (10) ～(12) 希少糖の事業化 (13) ～(15) 希少糖企業見学 (16) ～(20) D-プシコースの動物への効果 (演習) (20) ～(24) D-アロースやD-タガトースの効果 (演習) (25) ～(29) 自主学習 (レポート作成) (30) 発表 					
教科書					
特に定めない					
参考書					
希少糖秘話 (何森健著) 香川発希少糖の軌跡 (松崎隆司著)					
オフィスアワー					
随時受け付ける。徳田 (tokuda@med.kagawa-u.ac.jp) までメールで連絡をすること。					
履修上の注意					
未定					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~physiol1/index.html 及び http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~kishoto/index.html					
E-Mail : tokuda@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
発達神経科学	選択科目	4	通年		987192
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
三木 崇範、日下 隆					
授業の概要					
<p>神経系を構成する基本単位は、神経細胞 neuronと神経膠（グリア）細胞 glial cellである。これらの細胞が神経系の機能を司るとともに、これらの細胞の相互作用 interactionも機能の発現に重要な役割を果たしている。神経化学は神経系の働きを化学の視点から捉えようとするものである。</p> <p>まず、神経系の構造をマクロからミクロのレベルまで理解する。特に、神経化学においては、情報伝達の間となるシナプスの微細構造と、情報伝達される過程の分子機構を理解することは大変重要である。古典的神経伝達物質に加えてサイトカイン・ホルモン・神経栄養因子などについて最新の知見をふまえた授業を行う。あわせて、シナプスの可塑性にわたる分子機構・分子基盤に関する知識を深める。これらを通して、神経系の作用や機能を化学物質のダイナミックな動きとして概観できる神経化学の知識を提供する。さらに、神経化学的観点から疾患の原因や治療法についての知識を深める</p>					
授業の目的・達成目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経系の構造をマクロレベル・ミクロレベルで理解する。 2. 神経伝達の間となるシナプスの微細構造と、神経伝達メカニズムの分子機構を理解する。 3. 神経機能に関与する、神経伝達物質・サイトカイン・神経栄養因子などについての分子基盤を理解する。 4. 神経細胞－グリア細胞相互作用における分子基盤と神経機能発現機構を理解する。 5. 神経系の複雑多岐にわたる機能を、化学物質の動きで理解する。 					
授業及び学習の方法					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経系の構造を、光学顕微鏡レベル、更に電子顕微鏡レベルで分析的観察を行う。 2. 指定した図書を minimum requirementとした学習を行う。 3. 神経伝達の分子機構の最新の知見を集約的に取り入れた学習を行う。 					
成績評価の方法と基準					
出席状況に及び、提出されたレポートをあわせて総合評価する。					
授業計画					
第 1－2回 神経系の構造1（マクロレベル）					
第 3－5回 神経系の構造2（光学顕微鏡・電子顕微鏡レベル）					
第 6－9回 シナプスと神経伝達の分子基盤					
第10－14回 神経機能とサイトカインの分子基盤；小児神経発達と脳機能の獲得					
第15－20回 神経機能と神経栄養因子の分子基盤；小児神経発達と脳機能の獲得					
第21－25回 神経機能と神経薬理学；小児神経発達と脳機能の獲得					
第26－28回 神経の可塑的变化と神経細胞－グリア細胞相互作用の分子基盤					
第29－30回 まとめ 化学物質で統合される脳機能					
教科書					
脳神経科学 イラストレイテッド 森寿ら編 羊土社 Volpe's Neurology of the Newborn, Elsevier; 6版					
参考書					
分子生物学 講義中継 Part 1－3 井出 利憲著 羊土社 分子脳神経機能解剖学 遠山 正彌 金芳堂 適宜文献を紹介する					
オフィスアワー					
随時質問・相談の時間を設ける（Eメールによる質問も可）					
履修上の注意					
特になし					
URL: http://www.med.kagawa-u.ac.jp/faculty/center/igaku_kouza/shinkei_kinou1/					
E-Mail: mikit@med.kagawa-u.ac.jp、 kusaka@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
分子形態学特論	選択科目	2	通年		987193
講義題目	関連授業課目 組織細胞学特論、バイオイメージング技術の開発・応用				
担当教員名	履修推奨科目				
荒木 伸一、横平 政直					
授業の概要					
細胞組織の形態と機能の理解、形態学的研究の基礎についての講義と最近の形態学研究の紹介を行う。特に最新の光学顕微鏡技術、電子顕微鏡技術とそこから得られる情報、エンドサイトーシスに関する細胞生物学的知見について講義、解説を行う。					
授業の目的・達成目標					
細胞組織の微細構造と機能を理解する。形態学的研究理論を理解し、形態学の論文を読むことができる。光学顕微鏡画像、電子顕微鏡画像を読むことができる。					
授業及び学習の方法					
講義、論文の紹介など					
成績評価の方法と基準					
レポート、出席状況での総合的判定					
授業計画					
(1) 細胞の機能と微細構造: 細胞膜 (2) 細胞の機能と微細構造: 細胞小器官 (3) 細胞の機能と微細構造: 細胞骨格系 (4) 光学顕微鏡でみた細胞: 蛍光顕微鏡 (5) 光学顕微鏡でみた細胞: 超解像顕微鏡 (6) 電子顕微鏡でみた細胞: 透過型 (7) 電子顕微鏡でみた細胞: 走査型 (8) エンドサイトーシスと細胞内輸送経路: メンブレントラフィック (9) エンドサイトーシスと細胞内輸送経路: レセプター介在性エンドサイトーシス (10) エンドサイトーシスと細胞内輸送経路: ファゴサイトーシス (11) エンドサイトーシスと細胞内輸送経路: マクロパイノサイトーシス (12) 細胞内小胞の形と大きさの理論: 膜輸送 (13) 細胞内小胞の形と大きさの理論: 液相 (14) 細胞内小胞の形と大きさの理論: 膜融合 (15) 細胞内小胞の形と大きさの理論: 膜曲率と管状構造					
教科書					
特になし					
参考書					
オフィスアワー					
随時可能。メールで事前予約を取ってください。					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~anatomy2/index.html					
E-Mail : anatomy2@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード																														
組織細胞科学特論	選択科目	4	通年		987194																														
講義題目	関連授業課目																																		
	分子形態学特論、バイオイメージング技術の開発・応用																																		
担当教員名	履修推奨科目																																		
荒木 伸一、横平 政直																																			
授業の概要																																			
形態学研究のストラテジーとして組織細胞化学染色の原理と応用、バイオイメージング技術の理論と実際について解説する。最新の技術として、GFPを用いたライブイメージング法のメリットや蛍光画像の画像演算、画像解析、及びそれらのデータのプレゼンテーション方法を説明する。																																			
授業の目的・達成目標																																			
バイオイメージング、組織化学染色の基礎的理論を理解する。 生体機能を可視化するバイオイメージングが実際の研究でどのように利用されるかを理解する。																																			
授業及び学習の方法																																			
講義、最近の研究の紹介																																			
成績評価の方法と基準																																			
レポートおよび出席状況により評価する																																			
授業計画																																			
<table border="0"> <tr> <td>(1) 形態学研究のストラテジー</td> <td>(16) ライブセルイメージング応用の実際①</td> </tr> <tr> <td>(2) 組織細胞化学とは</td> <td>(17) ライブセルイメージング応用の実際②</td> </tr> <tr> <td>(3) 組織細胞化学の実践</td> <td>(18) ライブセルイメージング応用の実際③</td> </tr> <tr> <td>(4) 組織化学染色技法 蛍光抗体</td> <td>(19) 透過型電子顕微鏡観察の実際①</td> </tr> <tr> <td>(5) 組織化学染色技法 その他</td> <td>(20) 透過型電子顕微鏡観察の実際②</td> </tr> <tr> <td>(6) 顕微鏡の種類と原理</td> <td>(21) 走査型電子顕微鏡観察の実際①</td> </tr> <tr> <td>(7) 顕微鏡技術の進歩</td> <td>(22) 走査型電子顕微鏡観察の実際②</td> </tr> <tr> <td>(8) バイオイメージングとは</td> <td>(23) イメージングソフト</td> </tr> <tr> <td>(9) バイオイメージング技法：装置</td> <td>(24) イメージングソフトによる画像処理</td> </tr> <tr> <td>(10) バイオイメージング技法：GFP融合蛋白</td> <td>(25) イメージングソフトによる画像演算①</td> </tr> <tr> <td>(11) 画像演算と画像処理：レシオ画像</td> <td>(26) イメージングソフトによる画像演算②</td> </tr> <tr> <td>(12) 画像演算と画像処理：定量</td> <td>(27) 画像定量化と解析①</td> </tr> <tr> <td>(13) 動画解析</td> <td>(28) 画像定量化と解析②</td> </tr> <tr> <td>(14) プレゼンテーション方法</td> <td>(29) 動画作成法</td> </tr> <tr> <td>(15) プレゼンテーション方法</td> <td>(30) 動画作成編集と圧縮</td> </tr> </table>						(1) 形態学研究のストラテジー	(16) ライブセルイメージング応用の実際①	(2) 組織細胞化学とは	(17) ライブセルイメージング応用の実際②	(3) 組織細胞化学の実践	(18) ライブセルイメージング応用の実際③	(4) 組織化学染色技法 蛍光抗体	(19) 透過型電子顕微鏡観察の実際①	(5) 組織化学染色技法 その他	(20) 透過型電子顕微鏡観察の実際②	(6) 顕微鏡の種類と原理	(21) 走査型電子顕微鏡観察の実際①	(7) 顕微鏡技術の進歩	(22) 走査型電子顕微鏡観察の実際②	(8) バイオイメージングとは	(23) イメージングソフト	(9) バイオイメージング技法：装置	(24) イメージングソフトによる画像処理	(10) バイオイメージング技法：GFP融合蛋白	(25) イメージングソフトによる画像演算①	(11) 画像演算と画像処理：レシオ画像	(26) イメージングソフトによる画像演算②	(12) 画像演算と画像処理：定量	(27) 画像定量化と解析①	(13) 動画解析	(28) 画像定量化と解析②	(14) プレゼンテーション方法	(29) 動画作成法	(15) プレゼンテーション方法	(30) 動画作成編集と圧縮
(1) 形態学研究のストラテジー	(16) ライブセルイメージング応用の実際①																																		
(2) 組織細胞化学とは	(17) ライブセルイメージング応用の実際②																																		
(3) 組織細胞化学の実践	(18) ライブセルイメージング応用の実際③																																		
(4) 組織化学染色技法 蛍光抗体	(19) 透過型電子顕微鏡観察の実際①																																		
(5) 組織化学染色技法 その他	(20) 透過型電子顕微鏡観察の実際②																																		
(6) 顕微鏡の種類と原理	(21) 走査型電子顕微鏡観察の実際①																																		
(7) 顕微鏡技術の進歩	(22) 走査型電子顕微鏡観察の実際②																																		
(8) バイオイメージングとは	(23) イメージングソフト																																		
(9) バイオイメージング技法：装置	(24) イメージングソフトによる画像処理																																		
(10) バイオイメージング技法：GFP融合蛋白	(25) イメージングソフトによる画像演算①																																		
(11) 画像演算と画像処理：レシオ画像	(26) イメージングソフトによる画像演算②																																		
(12) 画像演算と画像処理：定量	(27) 画像定量化と解析①																																		
(13) 動画解析	(28) 画像定量化と解析②																																		
(14) プレゼンテーション方法	(29) 動画作成法																																		
(15) プレゼンテーション方法	(30) 動画作成編集と圧縮																																		
教科書																																			
なし																																			
参考書																																			
顕微鏡の使い方ノート 野島 博 羊土社 GFPとバイオイメージング 宮脇 敦史 羊土社																																			
オフィスアワー																																			
随時可能。事前に、メールでアポイントメントをとること。																																			
履修上の注意																																			
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/																																			
E-Mail : anatomy2@med.kagawa-u.ac.jp																																			

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
神経細胞生物学特論	選択科目	4	通年		987195
講義題目	関連授業課目				
	精神神経疾患の創薬科学				
担当教員名	履修推奨科目				
山本 融、宮下 信泉	特になし				
授業の概要					
<p>知の座である脳の機能を担っている神経細胞には、長大な樹状突起や軸索を有すること・電気的な興奮性が極めて高いこと・他の神経細胞群とシナプス結合を形成することなどの、他の臓器・組織を構成する細胞群には見られない顕著な形態的・機能的特徴が存在する。本特論では、こうした神経細胞の特徴的な機能を実現させている分子の実態とその制御機構について講述する。さらに、このような知見が得られるに至った過程について実際の実験事実に基づいて理解するとともに、論文に基づいて最新の知見を自ら把握する力を育む。</p>					
授業の目的・達成目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経細胞の形態・機能的な特徴とその生理的意義を説明できる。 2. 神経細胞に認められる顕著な特徴について、それを可能としているメカニズムを分子レベルで説明できる。 3. 神経系の細胞レベルでの機能解析がどのように進められているかを理解できる。 4. 上記の理解に基づいて論文の内容を正しく把握し、紹介することができる。 					
授業及び学習の方法					
講義・試問および論文講読とプレゼンテーションによる。					
成績評価の方法と基準					
出席・試問・プレゼンテーション等を総合的に判断する。					
授業計画					
<p>第1回～第3回 細胞生物学・総論（細胞骨格・極性・形態形成制御） 第4回～第6回 神経細胞の形態と機能 第7回～第9回 小胞輸送・高速軸索輸送とその制御 第10回～第12回 イオンチャンネルの構造と機能 第13回～第15回 神経の興奮と伝達 第16回～第18回 シナプス伝達と伝達物質 第19回～第20回 神経・筋節合部の構造と機能 第21回～第23回 シナプスの形成と維持の分子機構 第24回～第27回 シナプス機能の修飾 第24回～第27回 神経栄養因子と神経細胞死 第28回～第30回 神経機能の障害と疾患</p>					
教科書					
特に定めませんが、下記参考書記載の図版を随時利用する。					
参考書					
<ul style="list-style-type: none"> ・Molecular Biology of the Cell (Garland Science) ・Principles of Neural Science (McGraw-Hill) 					
オフィスアワー					
随時受け付けるので、電子メール等であらかじめ在室を確認されたい。					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail : tohru@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名 神経生理学	科目区分 選択科目	単位数 4	開講時期等 通年	時間割	授業コード 987196
講義題目	関連授業課目 希少糖の機能				
担当教員名 徳田雅明 山口文徳	履修推奨科目				
授業の概要					
<p>神経系は可塑性(plasticity)によりその機能をダイナミックに果たしていることが判ってきている。それは神経系の分化、発達はもとより、記憶や睡眠や精神活動など脳の高次機能においても可塑性が関与している。可塑性を支えている細胞内のシグナリング機構についての研究が進んできた。こうした分子メカニズムについても理解する。また、病態における可塑性やシグナル伝達の破綻についても学ぶ。</p> <p>神経系の機能に対する希少糖の効果について、香川大学の研究成果を紹介する。</p>					
授業の目的・達成目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経の可塑性について理解する。 2. 神経系におけるシグナリング機構について理解する。 3. 高次神経機能の最近の展開について理解する。 4. 神経機能と酸化ストレスについて理解する。 5. 神経機能と希少糖のトピックスについて理解する。 					
授業及び学習の方法					
<p>講義形式での学習を行う。</p> <p>論文を渡すのでそれを読みまとめて、レポートを作成するとともに、発表を行う。</p> <p>神経系の細胞を培養し、神経分化について学習する</p>					
成績評価の方法と基準					
<p>講義への出席とレポートにより評価する。</p> <p>発表についても評価する。</p>					
授業計画					
<p>(1)～(5) 神経の可塑性の基盤 (論文の学習を含む)</p> <p>(6)～(10) 神経細胞内シグナリング機構 (論文の学習を含む)</p> <p>(11)～(14) 高次神経機能の最近の展開 (論文の学習を含む)</p> <p>(15) 中間まとめ、発表</p> <p>(16)～(19) 神経機能と酸化ストレス (論文の学習を含む)</p> <p>(20)～(24) 神経細胞の分化 (演習)</p> <p>(25)～(28) 神経機能と希少糖 (論文の学習を含む)</p> <p>(29)～(30) 最終発表</p>					
教科書					
特に定めない					
参考書					
特に定めない					
オフィスアワー					
随時受け付けるので 徳田 (tokuda@med .kagawa-u. ac. jp) に連絡を取る。					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~physiol1/index.html					
E-Mail : tokuda@med .kagawa-u. ac. jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
呼吸循環生理学	選択科目	4	通年		987197
講義題目	関連授業課目				
	循環生理シグナル伝達学 細胞シグナル伝達学に基づくトランスレショナルリサーチ				
担当教員名	履修推奨科目				
平野 勝也、山下 洋一					
授業の概要					
<p>生体の内部環境は、外部環境の変動に対して、精巧、柔軟かつ頑強に一定に維持される。これを恒常性の維持、ホメオスタシスと呼ぶ。内部環境とは細胞を取り巻く細胞外液を指し、酸素分圧、イオン濃度、pH、栄養素濃度、温度などのパラメーターが、自律的に動的平衡を保って調節されている。本授業では、生体の酸素の運搬、消費に関わる呼吸器と循環器の生理機能とその制御機構を学ぶ。</p>					
授業の目的・達成目標					
<p>呼吸器の生理機能とその制御機構を説明できる。細胞内呼吸の仕組みとその制御機構を説明できる。 循環器系の生理機能とその制御機構を説明できる。</p>					
授業及び学習の方法					
30回の講義から成る。					
成績評価の方法と基準					
<p>講義出席点とレポート点により評価する 60点未満は不合格とする</p>					
授業計画					
<p>第1回：生理学の基礎① 恒常性の維持 第2回：生理学の基礎② 生理機能の交感神経制御 第3回：生理学の基礎③ 生理機能の副交感神経制御 第4回：生理学の基礎④ 生理機能の体液性制御 第5回：呼吸生理学① 呼吸機能の指標 第6回：呼吸生理学② 呼吸機能の評価 第7回：呼吸生理学③ 呼吸筋と換気運動 第8回：呼吸生理学④ 呼吸の神経性調節 第9回：呼吸生理学⑤ 肺胞ガス交換 第10回：呼吸生理学⑥ 酸素の運搬 第11回：呼吸生理学⑦ 二酸化炭素の運搬 第12回：呼吸生理学⑧ 呼吸による酸塩基平衡 第13回：呼吸生理学⑨ 細胞内呼吸とミトコンドリア 第14回：循環生理学① 心臓の電気的活動① 固有心筋の活動電位 第15回：循環生理学② 心臓の電気的活動② 刺激伝導系 第16回：循環生理学③ 心臓の電気的活動③ 歩調取り機能と心拍数調節 第17回：循環生理学④ 心臓の興奮収縮連関① カルシウムシグナルの発生 第18回：循環生理学⑤ 心臓の興奮収縮連関② 収縮蛋白質のカルシウム制御 第19回：循環生理学⑥ 心臓の機械的活動① 心周期 第20回：循環生理学⑦ 心臓の機械的活動② 自律神経による調節 第21回：循環生理学⑧ 血管平滑筋収縮機構① カルシウム依存性機構 第22回：循環生理学⑨ 血管平滑筋収縮機構② 収縮装置のカルシウム感受性調節 第23回：循環生理学⑩ 血管内皮細胞機能① 血管緊張調節 第24回：循環生理学⑪ 血管内皮細胞機能② バリアー機能とその破たん 第25回：循環生理学⑫ 血管内皮細胞機能③ 凝固線溶系の調節 第26回：循環生理学⑬ 血圧の成因と制御 第27回：循環生理学⑭ 心拍出量調節① 内因性調節機構 第28回：循環生理学⑮ 心拍出量調節② 外因性調節機構 第29回：循環生理学⑯ 心筋虚血の生理学① 心筋代謝の特徴 第30回：循環生理学⑰ 心筋虚血の生理学② 冠血流量の調節</p>					
教科書					
<p>ギャノン生理学 原著24版 2014、丸善出版 ISBN: 978-4-621-08717-6 Ganong's Review of Medical Physiology 25th ed. 2015, McGraw-Hill Education, ISBN: 978-0071825108 Guyton and Hall Textbook of Medical Physiology 13th ed. 2015, Saunders, ISBN: 978-1455770052</p>					

参考書
オフィスアワー
随時(事前にメール、電話にて訪問日程を調整することが望ましい)
履修上の注意
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~cardiovasc-physiol/index.html
E-Mail : khirano@med.kagawa-u.ac.jp

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
循環生理シグナル伝達学	選択科目	4	通年		987198
講義題目	関連授業課目				
	呼吸循環生理学 細胞シグナル伝達学に基づくトランスレーショナルリサーチ				
担当教員名	履修推奨科目				
平野 勝也、野間 貴久					
授業の概要					
心臓血管系の生理機能は、それを構成する心筋細胞、刺激伝導系細胞、血管内皮細胞、血管平滑筋細胞、自律神経細胞の働きにより精巧かつ柔軟に調節されている。細胞の働き、生理作用を制御する仕組みが細胞内シグナル伝達システムである。本授業では、心臓血管系の構成細胞におけるシグナル伝達機能の仕組みを分子レベルで学ぶ。					
授業の目的・達成目標					
心臓血管系を構成する細胞の細胞内シグナル伝達の仕組みを説明できる。その研究法の原理を説明できる。					
授業及び学習の方法					
30回の講義から成る					
成績評価の方法と基準					
講義出席点とレポート点により評価する 60点未満は不合格とする					
授業計画					
第1回：細胞シグナル伝達の基礎①	イオンチャネル内臓型受容体				
第2回：細胞シグナル伝達の基礎②	七回膜貫通型受容体				
第3回：細胞シグナル伝達の基礎③	酵素内臓型受容体				
第4回：細胞シグナル伝達の基礎④	三量体G蛋白質				
第5回：細胞シグナル伝達の基礎⑤	単量体G蛋白質				
第6回：細胞シグナル伝達の基礎⑥	サイクリックAMP				
第7回：細胞シグナル伝達の基礎⑦	サイクリックGMP				
第8回：細胞シグナル伝達の基礎⑧	細胞質カルシウム濃度制御機構				
第9回：細胞シグナル伝達の基礎⑨	カルシウムシグナルの発生機構				
第10回：細胞シグナル伝達の基礎⑩	蛋白質リン酸化反応				
第11回：細胞シグナル伝達の基礎⑪	蛋白質脱リン酸化反応				
第12回：心筋細胞のシグナル伝達①	興奮収縮連関① 興奮からカルシウムシグナルの発生				
第13回：心筋細胞のシグナル伝達②	興奮収縮連関② カルシウムシグナルから収縮				
第14回：心筋細胞のシグナル伝達③	興奮収縮連関③ クロスブリッジサイクリング				
第15回：心筋細胞のシグナル伝達④	心拍数の調節① 交感神経系による制御				
第16回：心筋細胞のシグナル伝達⑤	心拍数の調節② 副交感神経系による制御				
第17回：心筋細胞のシグナル伝達⑥	心拍出量の調節① 内在性調節機構とスターリングの心臓の法則				
第18回：心筋細胞のシグナル伝達⑦	心拍出量の調節② 外因性調節機構				
第19回：平滑筋細胞のシグナル伝達①	カルシウム依存性収縮機構				
第20回：平滑筋細胞のシグナル伝達②	収縮装置のカルシウム感受性調節				
第21回：平滑筋細胞のシグナル伝達③	ミオシン軽鎖リン酸化酵素の制御				
第22回：平滑筋細胞のシグナル伝達④	ミオシン脱リン酸化酵素の制御				
第23回：内皮細胞のシグナル伝達①	内皮由来血管弛緩反応				
第24回：内皮細胞のシグナル伝達②	内皮由来血管収縮反応				
第25回：内皮細胞のシグナル伝達③	内皮バリアー機能				
第26回：内皮細胞のシグナル伝達④	凝固線溶系の調節				
第27回：内皮細胞のシグナル伝達⑤	免疫系の調節				
第28回：細胞シグナル伝達研究法①	蛍光法を用いたシグナル伝達のリアルタイム計測				
第29回：細胞シグナル伝達研究法②	蛋白質生化学を用いたシグナル伝達解析				
第30回：循環生理シグナル伝達学総括	これからのシグナル伝達学と臨床応用				
教科書					
Signal Transduction 2 nd Ed. 2009, Academic Press, ISBN: 978-0-12-369441-6 シグナル伝達 第2版, 2011, メディカル・サイエンス・インターナショナル, ISBN: 978-4-89592-692-8					
参考書					

オフィスアワー
随時(事前にメール、電話にて訪問日程を調整することが望ましい)
履修上の注意
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~cardiovasc-physiol/index.html
E-Mail : khirano@med.kagawa-u.ac.jp

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
薬理学特論	選択科目	4	通年		987199
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
西山 成、岡田 仁					
授業の概要					
薬剤の薬理学的効果を検討することができる知識を身につける。特に、Proof of concept (POC)を確立した創薬活動について知識を深める。培養細胞や動物実験による基礎的な検討を実行することができる知識を身につけ、どのようなステップにて臨床研究を進めて行かなければならないのかについて考える能力を養う。					
授業の目的・達成目標					
薬剤効果の基礎的検討を実行することができる知識を身につける。また、どのようなステップにて臨床研究を進めて行かなければならないのかについて、考える能力を養う。これらの総合的理解に基づき、関連分野における独自の研究を展開しうる、広い視点をもった学生の養成を図り、今後の医学研究の発展を目指す。					
授業及び学習の方法					
薬理学研究室や7階セミナー室などで実施される。					
成績評価の方法と基準					
提出されたレポートや討論内容の総合評価とする。					
授業計画					
第1～3回 培養細胞を用いた薬剤評価法(1)					
第4～6回 培養細胞を用いた薬剤評価法(2)					
第7～9回 モデル動物を用いた薬剤評価法(1)					
第10～12回 モデル動物を用いた薬剤評価法(2)					
第13～15回 トランスレーショナル・リサーチ(1)					
第16～18回 トランスレーショナル・リサーチ(2)					
第19～21回 臨床研究について(1)					
第22～24回 臨床研究について(2)					
第25～27回 臨床研究について(3)					
第28～30回 臨床研究について(4)					
教科書					
イラストレイテッド薬理学 丸善出版、柳澤輝行、丸山 敬監訳 Goodman and Gilman's : The Pharmacological Basis of Therapeutics McGraw-Hill Professional Publishing					
参考書					
Esmo Handbook on Principles of Translational Research (European Society for Medical Oncology Handbooks) : Informa Healthcare社 The CRA's Guide to Monitoring Clinical Research (臨床試験モニタリングガイドブック) : Woodin KE & Schneider JC. サイエンティスト社					
オフィスアワー					
随時：アポイントメントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~yakuri/index.html					
E-Mail : yakuri@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
脂質生物学	選択科目	4	通年		987200
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
上田 夏生、大西 平	酵素学実験法				
授業の概要					
<p>脂質は体内で静的な存在であると考えられていた時代もあったが、現在では、合成・分解がダイナミックに行なわれていることが明らかになっており、脂質代謝に関与する酵素の研究も活発に進められている。また、肥満、高脂血症、種々の先天性脂質代謝異常症などは、脂質代謝酵素のはたらきと深い係わりを持っており、脂質代謝は代謝内分泌や循環器等の臨床医学分野でも注目されている。本授業では、動物組織における脂質代謝と関連酵素、およびその異常の結果生じる病態について理解することを目的とする。</p>					
授業の目的・達成目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 主な脂質代謝経路を説明できる。 2) 脂質の酸化によるエネルギー産生機構を説明できる。 3) 主な脂質代謝酵素の反応機構と生理的役割を説明できる。 4) 主な脂質メディエーターとステロイドホルモンの合成経路と関連酵素を説明できる。 5) 肥満、高脂血症、種々の先天性脂質代謝異常症等の病態と脂質代謝の関連を説明できる。 					
授業及び学習の方法					
講義に加えて、必要に応じて文献講読を行なう。					
成績評価の方法と基準					
出席とレポートにより評価する。					
授業計画					
第1回 総論	第15回	リソソーム酵素とリソソーム病			
第2回 脂質代謝における細胞小器官の役割	第16回	脂質メディエーターと Gタンパク質共役型受容体			
第3回 脂質の消化吸収	第17回	各種ホスホリパーゼの構造と機能			
第4回 脂肪酸酸化とATP産生	第18回	アラキドン酸カスケード			
第5回 飢餓時の脂質動態とケトン体合成	第19回	シクロオキシゲナーゼとリポキシゲナーゼ			
第6回 脂肪酸合成経路と必須脂肪酸	第20回	エンドカンナビノイドの合成と分解			
第7回 脂質代謝における肝臓と脂肪組織の役割	第21回	脂溶性ビタミンの活性化と体内動態			
第8回 ホルモンによる脂質代謝の調節	第22回	核内受容体を介した脂質代謝の調節			
第9回 コレステロール合成経路	第23回	脂質過酸化と防御機構			
第10回 胆汁酸合成経路	第24回	リポタンパク質と関連酵素			
第11回 ステロイドホルモンの合成経路とその異常	第25回	肥満・高脂血症と脂質代謝			
第12回 シトクロム P450と脂質代謝	第26～29回	脂質代謝の最近の話題			
第13回 リン脂質の代謝経路	第30回	まとめ			
第14回 糖脂質の代謝経路					
教科書					
特に指定しないが、生化学の教科書を1冊購入することを勧める。					
参考書					
オフィスアワー					
随時、アポイントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~biochem					
E-Mail : nueda@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
酵素学実験法	選択科目	4	通年		987201
講義題目	関連授業課目				
	脂質生物学				
担当教員名	履修推奨科目				
上田 夏生、大西 平					
授業の概要					
酵素は生体内の物質代謝を司り、古くから生化学の中心的なテーマとして研究されてきた。本講義では、酵素の性質、反応機構等の理論にとどまらず、酵素学研究に必要な実験法の解説を行う。					
授業の目的・達成目標					
酵素学研究に必要な知識・実験法を理解することを目的とする。					
【達成目標】					
酵素の性質を説明できる。					
補酵素の性質を説明できる。					
主要な酵素の反応機構を説明できる。					
酵素反応動力学の理論が利用できるようになる。					
酵素活性の調節機構を説明できる。					
酵素精製の手法が説明できる。					
酵素タンパク質の性質を解析する手法を説明できる。					
酵素活性の測定法、基質・産物の分析法を説明できる。					
授業及び学習の方法					
講義に加えて、必要に応じて文献購読を行う。					
成績評価の方法と基準					
出席とレポートにより評価する。					
授業計画					
第 1 - 2回	中間代謝概説	第 15 - 16回	準定常状態の反応解析法		
第 3 - 4回	酵素・補酵素の一般的性質	第 17 - 18回	酵素活性の調節機構		
第 5 - 6回	酵素タンパク質の高次構造	第 19 - 21回	酵素精製法とその理論的背景		
第 7 - 8回	化学熱力学の基礎	第 22 - 24回	酵素タンパク質の性質・構造の解析法		
第 9 - 10回	酵素反応機構	第 25 - 26回	酵素活性測定に必要な低分子の分析法		
第 11 - 12回	主要な酵素の反応機構	第 27 - 29回	酵素遺伝子の発現・調節の分析法		
第 13 - 14回	定常状態の反応動力学理論	第 30回	まとめ		
教科書					
特に指定しないが、生化学の教科書を1冊購入することを勧める。					
参考書					
生化学の一般的な教科書					
生化学実験講座					
新生化学実験講座					
オフィスアワー					
随時、アポイントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~biochem					
E-Mail : nueda@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
医用有機化学特論	選択科目	4	通年		987202
講義題目	関連授業課目				
	医用分析化学特論				
担当教員名	履修推奨科目				
和田健司					
授業の概要					
生命現象を司る種々の有機化学反応の機構を的確に理解するとともに、最新の有機合成化学と関連する諸分野の理論と実践を学ぶ					
授業の目的・達成目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1 生命現象に関する主な有機化学反応の機構を説明できる。 2 有機化合物の主な官能基変換反応の概略を説明し、応用できる。 3 有機化合物の主な基本骨格構築・変換反応の概略を説明し、応用できる。 4 密度汎関数法による有機化合物の諸物性の予測について基本的事項を説明できる。 5 効率有機合成反応を可能にする均一系および不均一系触媒の機能を説明できる。 6 有機金属化合物の基本的な物性と反応性を説明できる。 					
授業及び学習の方法					
講義に加えて、英語書籍・文献の講読演習、合成戦略課題演習、グループディスカッション等を実施する。					
成績評価の方法と基準					
出席、口頭試問、およびレポートによって評価する。					
授業計画					
第 1 回～第 4 回 生命現象に関連する有機化学反応機構 第 5 回～第 9 回 有機化学における官能基変換反応 第 10 回～第 13 回 有機化学における基本骨格構築・変換反応 第 14 回～第 15 回 密度汎関数法による有機化合物の諸物性の予測 第 16 回～第 18 回 有機金属化合物の構造と機能、反応性 第 19 回～第 23 回 均一系触媒化学とその応用 第 24 回～第 27 回 不均一系触媒化学とその応用 第 28 回～第 29 回 有機化学に関する最近の話題 第 30 回 まとめ					
教科書					
必要に応じてプリント等を配布する。					
参考書					
講義中に適宜指示する。 野依良治ほか著、大学院有機化学（1）、（2）、および演習編 東京化学同人 野依良治ほか監訳、ウォーレン有機化学（上）、および（下） 東京化学同人 Robert H. Crabtree 著、The Organometallic Chemistry of the Transition Metals, Wiley					
オフィスアワー					
随時					
履修上の注意					
医用分析化学特論と隔年で開講。平成29年度休講。英語で講義を行う場合がある。					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail : wadaken@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
医用分析化学特論	選択科目	4	通年		987203
講義題目	関連授業課目 医用有機化学特論				
担当教員名	履修推奨科目				
和田健司					
授業の概要					
生命現象の解明において、様々の化学物質の定性および定量分析は極めて重要であり、化学および物理的な諸現象を活かした分光分析およびクロマトグラフィー等による解析が行われている。こうした最新の分析化学と関連する諸分野の理論を学ぶとともに、測定および解析手法を習得する。					
授業の目的・達成目標					
1 有機化学や生命科学で用いられる基本的な分光分析法およびクロマトグラフィー等の原理を説明できる。 2 これらの分析法によって得られたデータを正確に解釈できる。 3 複数種の分析法によって得られたデータを総合的に解析し、基本的な有機化合物の構造を同定できる。					
授業及び学習の方法					
講義に加えて、解析演習、グループディスカッション、および各自の研究課題に応じた測定実習等を実施する。					
成績評価の方法と基準					
出席、口頭試問、演習課題、およびレポートによって評価する。					
授業計画					
第1回 分析化学総論 第2回～第3回 基本的な化学分析法 第4回～第7回 質量分析 第8回～第10回 紫外光および可視光を活用した分光分析 第11回～第13回 近赤外光および赤外光を活用した分光分析 第14回～第19回 核磁気共鳴分析および電子スピン共鳴分析 第20回～第21回 クロマトグラフィー 第22回～第24回 X線を活用した分光分析 第25回～第27回 電子線を活用した分光分析 第28回～第29回 分析化学に関する最近の話題 第30回 まとめ					
教科書					
必要に応じてプリント等を配布する。					
参考書					
講義中に適宜指示する。 シルバージュタイン他著、有機化合物のスペクトルによる同定法—MS, IR, NMRの併用 第7版 東京化学同人 デイ他著、定量分析化学 改訂版 培風館 Practical Guide and Spectral Atlas for Interpretative Near-Infrared Spectroscopy, 2nd ed., Workman et al., CRC Press					
オフィスアワー					
随時					
履修上の注意					
医用有機化学特論と隔年で開講。英語で講義を行う場合がある。					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail : wadaken@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード																											
分子内分泌学	選択科目	4	通年		987204																											
講義題目	関連授業科目																															
担当教員名	履修推奨科目																															
中村 隆範、西 望																																
授業の概要																																
<p>内分泌学特論講義では、代表的内分泌疾患の理解と発症に至る最近の知見を紹介・解説する。まず内分泌学の概略を紹介し、その担い手であるホルモンという物質の理解を深める。その後、特に話題となっている疾患については、臓器別に詳しく取り上げて専門の研究者あるいは臨床医に講義を依頼して、疾患の背景と課題について解説して頂く。</p>																																
授業の目的・達成目標																																
<p>内分泌疾患の理解には、疾患に関わるホルモンの物質としての性質とその作用機序を正確に理解することが重要である。従って、(1)正常な状態における全般的なホルモン作用を理解する。(2)個々の内分泌疾患の発症の背景を分子異常や調節異常など分子レベルで理解する。</p>																																
授業及び学習の方法																																
<p>英語の教科書を学生とともに読み合わせた上で、教員は講義として全体をまとめて解説する。また、授業の最後に課題を与えてレポートを提出させる。</p>																																
成績評価の方法と基準																																
<p>個人発表および課題レポートを評価する。</p>																																
授業計画																																
<table border="0"> <tr> <td>(1) 内分泌学の原理</td> <td>(15) 副腎の疾患</td> <td>(26) 肥満</td> </tr> <tr> <td>(2-3) ホルモン作用の原理</td> <td>(16-17) 女性性腺と男性性腺</td> <td>(27) ホルモンと脂質代謝</td> </tr> <tr> <td>(5) 内分泌学の遺伝学</td> <td>(18) 性分化</td> <td>(28) 消化管ホルモン</td> </tr> <tr> <td>(6) 内分泌疾患の研究手法</td> <td>(19) 妊娠、胎児と内分泌</td> <td>(29-30) ホルモンと腫瘍</td> </tr> <tr> <td>(7-8) 視床下部・下垂体の生理</td> <td>(20) 思春期と内分泌</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(9) 視床下部・下垂体の疾患</td> <td>(21) 運動と内分泌</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(10-11) 甲状腺の生理</td> <td>(22) 内分泌と老化</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(12) 甲状腺の疾患</td> <td>(23) ホルモンと電解質代謝</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(13-14) 副腎の生理</td> <td>(24-25) 糖尿病</td> <td></td> </tr> </table>						(1) 内分泌学の原理	(15) 副腎の疾患	(26) 肥満	(2-3) ホルモン作用の原理	(16-17) 女性性腺と男性性腺	(27) ホルモンと脂質代謝	(5) 内分泌学の遺伝学	(18) 性分化	(28) 消化管ホルモン	(6) 内分泌疾患の研究手法	(19) 妊娠、胎児と内分泌	(29-30) ホルモンと腫瘍	(7-8) 視床下部・下垂体の生理	(20) 思春期と内分泌		(9) 視床下部・下垂体の疾患	(21) 運動と内分泌		(10-11) 甲状腺の生理	(22) 内分泌と老化		(12) 甲状腺の疾患	(23) ホルモンと電解質代謝		(13-14) 副腎の生理	(24-25) 糖尿病	
(1) 内分泌学の原理	(15) 副腎の疾患	(26) 肥満																														
(2-3) ホルモン作用の原理	(16-17) 女性性腺と男性性腺	(27) ホルモンと脂質代謝																														
(5) 内分泌学の遺伝学	(18) 性分化	(28) 消化管ホルモン																														
(6) 内分泌疾患の研究手法	(19) 妊娠、胎児と内分泌	(29-30) ホルモンと腫瘍																														
(7-8) 視床下部・下垂体の生理	(20) 思春期と内分泌																															
(9) 視床下部・下垂体の疾患	(21) 運動と内分泌																															
(10-11) 甲状腺の生理	(22) 内分泌と老化																															
(12) 甲状腺の疾患	(23) ホルモンと電解質代謝																															
(13-14) 副腎の生理	(24-25) 糖尿病																															
教科書																																
<p>Williams Textbook of Endocrinology (13th edition) : S. Melmed, K. S. Polonsky, p. R. Larsen and H. M. Kronenberg (Elsevier)</p>																																
参考書																																
オフィスアワー																																
<p>原則として授業後に質問を受けるが、事前にアポイントメントを取れば随時対応したい。</p>																																
履修上の注意																																
<p>教科書を必ず事前に読んで理解しておくこと。</p>																																
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/																																
E-Mail :																																

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
核医学画像解析	選択科目	2	通年		987205
講義題目	関連授業課目				
核医学画像診断のためのトレーサーの動態解析と画像計算					
担当教員名	履修推奨科目				
久富 信之					
授業の概要					
PET、SPECTなどで用いられる標識薬剤（トレーサー）の動態解析と画像計算法について議論する。					
授業の目的・達成目標					
薬剤ごとに適した解析法を構築し適用する。					
授業及び学習の方法					
講義、実習等					
成績評価の方法と基準					
レポート等にまとめる					
授業計画					
1回～3回 PET, SPECT装置の原理と標識薬剤（トレーサー）					
4回～6回 動態解析とモデル計算					
7回～9回 動態解析と機能					
10回～12回 画像計算					
13回～15回 画像診断の最前線					
教科書					
参考書					
医用画像解析ハンドブック（オーム社）					
オフィスアワー					
随時、アポイントをとってください					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail : kudomi@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
毒性病理学	選択科目	2	通年		987206
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
今井田 克己、横平 政直					
授業の概要					
毒性病理学の概念一般を解説し、毒性発生のメカニズムや現在行われている化学物質の規制に関して、毒性病理学の重要性について、リスクアセスメントの概念から詳細な説明を行う。					
授業の目的・達成目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 毒性病理学についてその概念を説明できる。 2. 化学物質による毒性発生のメカニズムを説明できる。 3. 遺伝子改変動物を用いた毒性検出法を説明できる。 4. 細胞増殖やアポトーシスを説明できる。 5. 化学物質の形成とリスクアセスメントについて説明できる。 					
授業及び学習の方法					
実験計画の立案に関する演習、実験遂行に関する動物の取り扱い方法、飼育方法などの実習を行う。					
成績評価の方法と基準					
レポートを課し、その内容により評価する。					
授業計画					
第1回 毒性病理学総論 第2－3回 毒性発生のメカニズム 第4－5回 実験動物に対する影響要因 第6－7回 遺伝子改変動物の毒性病理学への応用 第8－9回 細胞増殖とアポトーシス 第10－11回 化学物質の規制とリスクアセスメント 第12－13回 毒性試験法について 第14－15回 化学物質の毒性評価					
教科書					
伊東毒性病理学 丸善出版					
参考書					
新毒性病理組織学 西村書店 がん－疾患モデルの作成と利用 エル・アイ・シー					
オフィスアワー					
随時：アポイントメントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
自らの研究テーマになるべく沿うような被験物質の想定があれば望ましい。					
URL： http://www.med.kagawa-u.ac.jp/course/ichibyyou/					
E-Mail： yokohira@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
分子神経病理学	選択科目	4	通年		987207
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
上野 正樹、千葉 陽一、三木 崇範					
授業の概要					
分子病理学的手法の発達により遺伝子のエラーに伴う疾患の解析が飛躍的に進んでいる。In situ hybridization (ISH) 法を行う事により組織や細胞内の特定の遺伝子 DNAやその mRNAの存在を目で直接確認することが可能となった。Polymerase chain reaction (PCR) により検索したい遺伝子の一部を特異的に増幅しその遺伝子の存在を確認することができる。最近、中枢神経系疾患における遺伝子変異の解明が飛躍的に進んでいる。これらの方法論の基礎的理論と実際を知り、実際の神経系疾患の診断や病因の検索に繋げることがこの授業の目的である。					
授業の目的・達成目標					
授業において種々の分子神経病理学的方法について基礎から学ぶ。実際に遭遇しえる臨床例や動物実験で如何に分子神経病理学的手法を使用して行うか考察する。論文中の症例を用いて分子神経病理学的手法から診断を行い、病因の探求を試みる。					
授業及び学習の方法					
講義					
成績評価の方法と基準					
大学院では自ら研究を行い、結果を出すことが必須である。 成績は、レポート、出席状況での総合的判定する。					
授業計画					
1回～12回 分子神経病理学の最近の進歩と理論的背景 13回～15回 PCR法やISH法について 16回～30回 実際の症例での応用について					
教科書					
参考書					
遺伝子・蛋白質・実験操作プロット法 Southern, Northern, Western Blotting 口野 嘉幸、平井 久丸、櫻林 郁之介集 ソフトサイエンス社 免疫染色・in situハイブリダイゼーション 野地 澄晴編 羊土社 Molecular biology of the cell. Bruce Alberts, Alexander Johnson, Julian Lewis, Martin Raff, Keith Roberts, Peter Walter. Newton Press 2002 Human molecular genetics. Tom Strachan, Andrew P. Read Garland Science 2004					
オフィスアワー					
随時：アポイントメントによる					
履修上の注意					
自らの研究テーマへの応用を常に考えながら履修すること					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail : nibyouri@med.kagawa-u.ac.jp 、 anatomy1@med/kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
免疫組織化学	選択科目	4	通年		987208
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
上野 正樹、千葉 陽一					
授業の概要					
<p>組織内の抗原物質を同定する方法として免疫組織化学がある。これは病理学的診断や病因の追及に必要な不可欠な手法であり、現在では古典的な手段と言えるが、その重要性は依然衰えていない。免疫組織化学の基礎的な理論と実際に習熟し、診断研究に応用することがこの授業の目的である。具体的には Polyclonal抗体の作成、monoclonal抗体の作成、抗体の取り扱い方、凍結切片やホルマリン固定パラフィン切片の作成、免疫組織化学（PAP法、ABC法等）による切片の染色、写真の撮影、免疫電顕法、多重染色法等の方法を学ぶ。</p> <p>さらに実際の日常の病理学的診断における免疫組織化学染色 systemを構築し、臨床応用の方法について検討を加える。</p>					
授業の目的・達成目標					
免疫組織化学染色を理解する。					
授業及び学習の方法					
授業において種々の免疫組織化学的方法について基礎から学ぶ。演習では、実際に遭遇し得る臨床例や動物実験で如何に免疫組織化学的手法を使用するか考察する。さらに、実習において実際の症例、動物実験を用いて免疫組織化学を使用し、診断を行い、病因の探求を行う。					
成績評価の方法と基準					
大学院では自ら研究を行い、結果を出すことが必須である。従って、個々の講義科目に対する試験は行わない。成績は、レポート、出席状況での総合的判定する。					
授業計画					
1回～ 6回 免疫組織化学の理論的背景 7回 polyclonal抗体の作成について 8回～17回 抗体の取り扱い方について 18回～20回 切片の作成 21回～30回 免疫組織化学染色の実際					
教科書					
参考書					
免疫組織化学と insitu hybridizationのすべて 病理と臨床臨時増刊号Vol. 1 8 病理組織標本の作り方 渡辺 陽之輔・坂口 弘・細田 泰弘 監修 医学書院 酵素抗体法 渡辺 慶一、中根 一穂 編 学際企画 単クローン抗体 岩崎 辰夫・安東 民衛・市川 かおる・保井 孝太郎 著 講談社サイエンティフィック					
オフィスアワー					
随時：アポイントメントによる					
履修上の注意					
自らの研究テーマへの応用を常に考えながら履修すること					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail: nibyour@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
免疫制御学	選択科目	4	通年		987209
講義題目	関連授業課目				
自然免疫を制御する機構の解析	免疫機能を調整する薬剤の開発				
担当教員名	履修推奨科目				
星野 克明	微生物ゲノム科学、寄生虫学特論、実験動物学・動物遺伝学				
授業の概要					
生体防御応答は、自然免疫と獲得免疫の相互作用により成り立っている。本科目では、自然免疫に関与する細胞群の種類および機能を理解し、自然免疫と種々の免疫疾患の関係について学習する。					
授業の目的・達成目標					
1) 自然免疫に関わる細胞を説明できる。 2) 樹状細胞とマクロファージの機能を説明できる。 3) 自然免疫細胞が産生するサイトカインの機能を説明できる。 4) 感染症に対する防御機構を説明できる。 5) 自己免疫疾患の発症機構を説明できる。					
授業及び学習の方法					
文献の精読による学習とディスカッションにより知識の整理を行い、現在の問題点の把握と、その解決法を探る。グループ討論やレポート提出、および実習も行う。					
成績評価の方法と基準					
レポート提出やグループ討論、実習結果の発表などにより総合評価を行う。					
授業計画					
第 1 回～ 6 回 自然免疫に関わる細胞について (講義・実習) 第 7 回～ 12 回 樹状細胞とマクロファージの生物学 (講義・実習) 第 13 回～ 18 回 自然免疫細胞からのサイトカイン産生 (講義・実習) 第 19 回～ 24 回 感染実験の意義・方法 (講義・実習) 第 25 回～ 30 回 自己免疫疾患モデル動物 (講義・実習)					
教科書					
特になし。					
参考書					
Kenneth Murphy, Janeway's Immunobiology, 9th Edition, Garland Science, 2016					
オフィスアワー					
随時：アポイントメントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
URL: http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~immunol/					
E-Mail: immunol@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
寄生虫学特論	選択科目	2	通年		987210
講義題目	関連授業課目				
マラリア学	衛生動物学特論				
担当教員名	履修推奨科目				
新井 明治	衛生動物学特論				
授業の概要					
マラリアは世界の約100の国で見られ、年間2億人の罹患者と約44万人の死亡者をもたらす、国際保健上の最重要疾患のひとつである。マラリアはハマダラカによって媒介される原虫感染症であり、薬剤耐性原虫および殺虫剤抵抗性蚊の拡散により制圧が困難な状況である。この授業では感染症としてのマラリアについて学ぶとともに、マラリア原虫のユニークな生物学的特徴について概観する。					
授業の目的・達成目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1) マラリアの疫学について説明できる。 2) マラリアの症状・診断・治療について説明できる。 3) マラリア原虫の各発育ステージについて説明できる。 4) マラリアワクチンについて説明できる。 5) マラリア対策について説明できる。 					
授業及び学習の方法					
<ol style="list-style-type: none"> 1) パワーポイントを用いた講義 2) 血液塗抹標本の作成・染色・検鏡・スケッチ 3) 媒介蚊の観察 4) 指定された英語論文を読んでレポートにまとめる 					
成績評価の方法と基準					
出席および提出されたレポートにより評価を行う。					
授業計画					
第1回 マラリア研究の歴史 第2回 マラリアの疫学 第3回 マラリア原虫の生活史 第4回 マラリア原虫の生物学 (1)：赤血球内発育ステージ 第5回 マラリア原虫の生物学 (2)：生殖体形成機構 第6回 マラリア原虫の生物学 (3)：蚊体内発育ステージ 第7回 マラリア原虫の生物学 (4)：肝細胞内ステージ 第8回 マラリアの診断 (1)：顕微鏡法 第9回 マラリアの診断 (2)：遺伝子診断法 第10回 マラリアの治療 (1)：古典的抗マラリア薬 第11回 マラリアの治療 (2)：新規抗マラリア薬 第12回 マラリアの臨床 第13回 マラリアワクチン開発の現状と課題 第14回 マラリア対策の現状と課題 第15回 マラリア研究の最前線					
教科書					
特に指定しない					
参考書					
Essential Malariology 4th Edition, 2002, D. A. Warrell and H. M. Gilles, Arnold.					
オフィスアワー					
随時：事前にメールまたは電話にてアポイントメントをとること。 電話：087-891-2122（事務室）、087-891-2120（准教授室）					
履修上の注意					
特になし					
URL：http://www.med.kagawa-u.ac.jp/faculty/center/igaku_kouza/kokusai_idoubutsu/					
E-Mail：marai@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
衛生動物学特論	選択科目	2	通年		987211
講義題目	関連授業課目				
医学的に重要な衛生動物と関連する疾患	寄生虫学特論				
担当教員名	履修推奨科目				
新井 明治	寄生虫学特論				
授業の概要					
<p>衛生動物とはヒトに健康被害を与える動物を指し、ヒトの体表に寄生する動物、感染症を媒介する動物、保有する毒物によって危害を与える動物等が含まれる。衛生動物学が対象とする生物種および病害の範囲は極めて広く、ヒョウヒダニ抗原による喘息やアトピー性皮膚炎、マダニ刺咬による重症熱性血小板減少症候群（SFTS）、2014年に国内流行が起こった蚊媒介性のデング熱など、日本国内で問題となる事例も多い。この授業では主要な衛生動物とそれによる病害・疾病について概観し、実際に標本を観察することで理解を深める。また最新の英語論文を読むことで、衛生動物研究の面白さに触れる。</p>					
授業の目的・達成目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 衛生動物の定義・分類について説明できる。 2) 主要な衛生動物について特徴を説明できる。 3) 主要な衛生動物について関連する疾患との関係を説明できる。 4) 主要な衛生動物について防除・対策法を説明できる。 					
授業及び学習の方法					
<ol style="list-style-type: none"> 1) パワーポイントを用いた講義 2) 衛生動物標本の観察・スケッチ 3) 指定された英語論文を読んでレポートにまとめる 					
成績評価の方法と基準					
出席および提出されたレポートにより評価を行う。					
授業計画					
第1回 衛生動物総論 第2回 軟体動物 第3回 魚類 第4回 節足動物 (1) 甲殻類 第5回 節足動物 (2) 大型ダニ類 第6回 節足動物 (3) 小型ダニ類 第7回 節足動物 (4) ハチ類 第8回 節足動物 (5) クモ類 第9回 節足動物 (6) 吸血性昆虫 (1) 蚊 第10回 節足動物 (7) 吸血性昆虫 (2) (サシチョウバエ・ブユ・サンガメ) 第11回 節足動物 (8) 鱗翅目昆虫 (チョウ・ガ) 第12回 節足動物 (9) シラミ類・ノミ類・甲虫類 第13回 爬虫類 第14回 両生類 第15回 哺乳類					
教科書					
特に指定しない					
参考書					
図説人体寄生虫学 改訂第9版 南山堂					
オフィスアワー					
随時：事前にメールまたは電話にてアポイントメントをとること。 電話：087-891-2122（事務室）、087-891-2120（准教授室）					
履修上の注意					
特になし					
URL：http://www.med.kagawa-u.ac.jp/faculty/center/igaku_kouza/kokusai_idoubutsu/					
E-Mail：marai@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
微生物ゲノム科学	選択科目	2	通年		987212
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
桑原 知巳					
授業の概要					
<p>新興・再興感染症の発生や多剤耐性菌の拡がりは世界的な脅威であり、その対策が急務となっている。病原体の進化適応や感染症の診断・治療を理解するためには、微生物のゲノム構造や遺伝子の発現制御に対する理解が必要である。本授業科目では、細菌のゲノム構造や遺伝子発現の基礎を概説し、病原因子の発現や感染症の発症病理における役割について理解する。また、薬剤耐性遺伝子の伝播様式や細菌間での遺伝子授受の分子機構を学び、細菌の進化や多剤耐性化についての理解を深める。さらには、関連する最新の文献を読み、微生物ゲノム情報がどのように感染症の制御方法の開発に利用されているのかを学ぶ。</p>					
授業の目的・達成目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物のゲノム構造の特徴を説明できる。 2. 微生物の病原因子について、具体的な例を挙げて説明できる。 3. 細菌の遺伝子発現制御について説明できる。 4. 多剤耐性化における遺伝子変異や伝播の役割を説明できる。 5. 微生物ゲノムに関連する文献の内容や意義を理解できる。 					
授業及び学習の方法					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 主要な病原性細菌のゲノム構造や病原因子の発現制御について概説する。 2. 微生物ゲノム科学研究の文献を紹介し、その内容について討論する。 					
成績評価の方法と基準					
授業内容に関する理解度を口頭試問および討論により評価する。					
授業計画					
<p>1回～ 4回 病原微生物のゲノム構造について 5回～ 8回 病原因子の役割と発現制御機構について 9回～12回 薬剤耐性遺伝子の誕生と伝播について 13回～15回 微生物ゲノム解析に関する英語論文の紹介と討論</p>					
教科書					
Bacterial Pathogenesis: A Molecular Approach (3 rd eds) ASM press					
参考書					
ゲノム微生物学 木村 光 編 丸善出版					
オフィスアワー					
随時：アポイントメントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/faculty/center/igaku_kouza/bunshi_biseibutsu/					
E-Mail : infect@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
生活習慣病予防論	選択科目	2	通年		987213
講義題目	関連授業課目				
生活習慣病予防論	健康測定・アセスメント				
担当教員名	履修推奨科目				
宮武伸行	臨床疫学、生物統計学				
授業の概要					
健康に関する行動理論・モデルの基礎を身につけ、実際の保健指導・健康教育とその評価に応用することができるようにする。肥満症、メタボリックシンドローム、2型糖尿病等の生活習慣病等の一次予防に関する知識を習得し、演習をとおして、実際に臨床で実践できるようにする。					
授業の目的・達成目標					
1) 健康に関する行動理論・モデルの基礎について説明できる。 2) 健康に関する実際の行動を行動理論・モデルを用いて説明できる。 3) 行動理論・モデルを用いた問診票、保健指導プログラムや政策・事業を立案できる。 4) 行動理論・モデルを用いて、実際の保健指導プログラムや政策・事業の有効性を評価することができる。 5) 各生活習慣病予防に必要な知識、技術を理解し、実践できる。					
授業及び学習の方法					
適宜提示する参考図書、資料を用いて学習を行う。 関連する文献を検索し、系統的に要約を作成する。					
成績評価の方法と基準					
提出されたレポート、講義参加の程度等を含めて総合評価する。					
授業計画					
1回：基礎健康行動理論(1)：健康行動理論とモデルの役割、ヘルスビリーフモデル、計画的行動理論 2回：基礎健康行動理論(2)：社会的認知理論、トランスセオレティカルモデル、自己効力感、ストレスとコーピング 3回：基礎健康行動理論(3)：ソーシャルマーケティング、ソーシャルネットワーク、ヘルスコミュニケーション 4回：ヘルスプロモーション：概念の歴史的経緯、ポピュレーションアプローチ、プリシードプロシードモデル 5回：健康の社会的決定要因：社会経済状況、ソーシャルキャピタル、ライフコース 6回：保健医療関連の計画：健康日本21、健やか親子21、医療計画、健康増進計画 7回：政策・事業への応用(1)：予防接種、がん検診 8回：政策・事業への応用(2)：たばこ対策、特定保健指導 9回：各論(1)：肥満症 10回：各論(2)：メタボリックシンドローム 11回：各論(3)：2型糖尿病 12回：各論(4)：慢性腎臓病 13回～15回：様々な疫学研究等を題材にした生活習慣病予防対策の実際					
教科書					
参考書					
オフィスアワー					
随時：アポイントメントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
一部の外部施設での講義実習等（実費負担、要相談）となる場合がある。					
URL： http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail： miyarin@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
臨床疫学	選択科目	1	前期		987214
講義題目	関連授業課目				
	生物統計学				
担当教員名	履修推奨科目				
平尾 智広、依田 健志	医療経済・テクノロジーアセスメント				
授業の概要					
疫学や予防医学について講義や演習を行う。具体的には、疫学の基礎、予防医学の基礎、臨床疫学、Evidence Based Medicine等について講義を行い、代表的疫学研究のレビュー、疫学研究の設計等の演習、実習を行なう。					
授業の目的・達成目標					
1) 疫学の方法を理解する。 2) 臨床疫学の基礎を理解する。 3) 予防医学の基礎を理解する。 4) 疫学研究を設計する。					
授業及び学習の方法					
適宜提示する参考図書・資料を用いて学習を行う。 関連する文献を検索し、系統的に要約を作成する。					
成績評価の方法と基準					
授業への参加の程度、レポート等により総合的に評価する。					
授業計画					
1回 疫学の基礎 2回 記述疫学・分析疫学 3回 臨床応用とEBM 4回 予防医学の基礎 5回 疫学調査法、調査設計、研究設計 6回 代表的な疫学研究のレビュー 7回 疫学調査と倫理 8回 官庁統計（人口・保健等）、レセプトデータとその応用					
教科書					
ロスマンの疫学、篠原出版新社					
参考書					
国民衛生の動向、厚生統計協会					
オフィスアワー					
随時：アポイントメントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
URL： http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~kouisei/index.php					
E-Mail： kouisei@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
生物統計学	選択科目	1	前期		987215
講義題目	関連授業課目				
	臨床疫学				
担当教員名	履修推奨科目				
平尾 智広、依田 健志	医療経済・テクノロジーアセスメント				
授業の概要					
生物統計学について講義や演習を行う。具体的には、統計学の基礎について講義を行い、実際のデータ処理、統計処理を行うことにより演習、実習を行なう。					
授業の目的・達成目標					
1) 統計学の基礎を理解する。 2) 各種統計モデルを理解する。 3) 統計ソフトを用いて分析ができる。					
授業及び学習の方法					
適宜提示する参考図書・資料を用いて学習を行う。					
成績評価の方法と基準					
授業への参加の程度、レポート等により総合的に評価する。					
授業計画					
1回 統計学の基礎 2回 確率分布と推論、仮設検定 3回 相関と回帰、重回帰分析 4回 分散分析、共分散分析 5回 ロジスティック回帰分析 6回 生存分析 7回 主成分分析と因子分析 8回 メタアナリシス、質的研究					
教科書					
Principles of Biostatistics、Duxbury					
参考書					
オフィスアワー					
随時：アポイントメントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~koueisei/index.php					
E-Mail : koueisei@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
医療管理学	選択科目	1	後期		987216
講義題目	関連授業課目				
	医療テクノロジーアセスメント 医療政策論				
担当教員名	履修推奨科目				
平尾 智広、依田 健志	健康危機管理論				
授業の概要					
病院に関する法制度、組織論、質向上のための方策等、マネジメントについて学習する。					
授業の目的・達成目標					
1) 病院経営に関する諸制度、指標について知る 2) 財務諸表、病院会計、コスト計算の基礎を知る。 3) 経営の質管理、改善手法を知る 4) 現在医療行政の問題点と今後の方向性について最新の考え方を知る。					
授業及び学習の方法					
適宜提示する参考図書・資料を用いて学習を行う。					
成績評価の方法と基準					
講義に関しては提出されたレポート及び講義参加の程度を評価する。 演習に関してはグループ討論と提出されたレポートの総合評価とする。					
授業計画					
1回 リーダーシップとマネジメント 1回 医療行政、病院経営指標、PDCA 2回 財務諸表、病院会計と原価計算 3回 薬剤、医療材料と物流 4回 人事・労務管理 5回 医療の質と臨床指標 6回 医療安全の基礎 7回 医療連携、マーケティング、コミュニケーション 8回 ICTと医療					
教科書					
Strategic Management Of Health Care Organizations 7 th ed. Swayne, Blackwell					
参考書					
医療経営白書、日本医療企画 図解A r c G I S					
オフィスアワー					
随時：アポイントメントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~koueisei/index.php					
E-Mail : koueisei@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
健康危機管理論	選択科目	1	前期		987217
講義題目	関連授業課目				
	医療政策論、国際保健論				
担当教員名	履修推奨科目				
平尾 智広、依田 健志					
授業の概要					
社会・環境の健康への影響という観点から講義・演習をすすめる。具体的には、物理的環境、化学的環境、社会的環境、文化的環境等の健康への影響、環境要因、負荷要因の測定と健康影響の測定等について講義・演習を行う。					
授業の目的・達成目標					
1) 健康危機の概略を知る。 2) 自然災害における医療マネジメント、公衆衛生マネジメントについて知る。 3) CBRNEについて知る。					
授業及び学習の方法					
適宜提示する参考図書・資料を用いて学習を行う。 関連する文献を検索し、系統的に要約を作成する。					
成績評価の方法と基準					
演習・実習に関しては提出されたレポート等を総合的に評価する。					
授業計画					
1回 健康危機について 2回 自然災害と医療・公衆衛生マネジメント 3回 シェルターとスフィアプロジェクトについて 4回 放射被ばく、化学物質、その他危険物 5回 感染症、アウトブレイク、食中毒 6回 労働災害、過労死 7回 リスクアセスメント（防災、職域、安全）とその管理 8回 災害心理学					
教科書					
参考書					
オフィスアワー					
随時：アポイントメントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~koueisei/index.php					
E-Mail : koueisei@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
国際保健論	選択科目	1	後期		987218
講義題目	関連授業課目 医療政策論、健康危機管理論				
担当教員名	履修推奨科目				
平尾 智広、依田健志					
授業の概要					
地球規模で考え、解決しなければならない、健康に関する諸問題について、系統的に考え理解する。また、国際協力・開発に関するプロジェクトの特徴や評価方法を知り、事例検討を通して問題点を明確にし、どのような解決策が効果的かを考え、評価する。					
授業の目的・達成目標					
1) 国際的な健康問題について、具体的に理解する。 2) 国際協力の歴史的流れについて理解する。 3) 国際協力・開発に関するプロジェクトマネジメントを理解する。					
授業及び学習の方法					
適宜提示する参考図書・資料を用いて学習を行う。 関連する文献を検索し、系統的に要約を作成する。					
成績評価の方法と基準					
演習・実習に関しては提出されたレポート等を総合的に評価する。					
授業計画					
1回 国際保健学概論 2回 リプロダクティブヘルス 3回 感染症 4回 戦争、災害と国際保健 5回 国際協力、NPO/NGO 6回 プロジェクトマネジメントと評価 7回 事例検討 8回 まとめ					
教科書					
国際保健医療学 第3版 杏林書院					
参考書					
バッシュ国際保健学講座 (Textbook of International Health, 2 nd ed.) じほう					
オフィスアワー					
随時：アポイントメントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~koueisei/index.php					
E-Mail : koueisei@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
法医学特論	選択科目	2	通年		987219
講義題目	関連授業課目				
	死因究明技術の開発				
担当教員名	履修推奨科目				
木下 博之	死因究明技術の開発				
授業の概要					
<p>法医学ではさまざまな法律上の案件、事項について、科学的で公正な医学的判断が求められる。特に、取り扱う頻度の高い「ヒトの死」については、因果関係も含めてその病態メカニズムについての科学的な解析が必須である。近年、病態については、マクロのレベルのみならず、分子レベルでの理解も求められている。死に至るそれぞれの原因ごとの病態メカニズムを理解するとともに、現状とその限界を知ること、今後の課題についても検討する。</p>					
授業の目的・達成目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 死因論を理解する。 2) 損傷や窒息の病態を理解する。 3) 異常環境による病態を理解する。 4) 化学物質による影響や病態を理解する。 					
授業及び学習の方法					
<p>講義、見学及びグループ学習。 興味ある病態に関する最新の知見について系統的に文献検索し、考察したものをまとめる。</p>					
成績評価の方法と基準					
レポート、グループ討論などを総合的に評価する。					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> 1 回～2 回 法医学概論 3 回～4 回 死因論 5 回～6 回 損傷の評価と病態 7 回～8 回 窒息の病態 9 回～1 0 回 異常環境による病態 1 1 回～1 2 回 化学物質の影響と病態 1 3 回～1 4 回 個人識別技術とその応用 1 5 回 社会的役割とまとめ 					
教科書					
特に指定なし					
参考書					
Madea B. Handbook of Forensic Medicine					
オフィスアワー					
随時：アポイントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail :					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
医学教育学特論	選択科目	2	通年		987220
講義題目	関連授業課目				
今日の医学教育					
担当教員名	履修推奨科目				
岡田宏基、坂東修二					
授業の概要					
<p>医学教育とは、文字通り大学卒業後医師になるための知識・技能を学生に習得させようとするものである。かつての医学部における教育は、知識偏重で、技能も十分には習得できるものではなく、手技の習得は卒後の実践に委ねられていた。その後、診察手技をより一層習得させるために、臨床実習の充実が求められるようになり、最近では見学型から診療参加型実習への転換が求められている。カリキュラムのあり方も従来のologyからアウトカム基盤型カリキュラムへの移行が進んでいる。</p> <p>さらに、近年では、医師としての態度教育も重視されるようになり、コミュニケーション教育や医師としての倫理観を中心とした、医師としてのプロフェッショナルリズム教育が求められてきている。</p> <p>本論では、医学教育の変遷を軸にして、今日の医学教育で求められている各要素について概説する。</p>					
授業の目的・達成目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 今日の医学教育の特徴を説明できる 2) プロフェッショナルリズム教育の必要性とその概要を説明できる 3) 6年間のカリキュラムのそれぞれの段階について大まかに説明できる 4) 参加型臨床実習のあり方について説明できる 5) 今日の医学教育についての問題点について説明できる 					
授業及び学習の方法					
主として講義形式で授業を行うが、香川大学医学部のカリキュラムを資料として、できるだけ学生とのディスカッションを交えて進める。					
成績評価の方法と基準					
出席状況と各回のディスカッション内容、及び、提出されたレポートをあわせて総合評価する。					
授業計画					
<p>第1回から13回までは主として講義形式で行う</p> <p>第1回 医学教育の変遷：アウトカム基盤型教育の導入</p> <p>第2回 香川大学医学部における教育カリキュラム改革の概要；プロフェッショナルリズム教育も含む</p> <p>第3回 医学教育における教養教育の必要性と概要</p> <p>第4回 自然科学系準備教育の概要</p> <p>第5回 基礎医学教育の概要</p> <p>第6回 研究心の涵養についての取組</p> <p>第7回 臨床医学教育の概要：特に臓器別講義について</p> <p>第8回 社会医学教育の概要</p> <p>第9回 共用試験とスチューデントドクター制度</p> <p>第10回 臨床実習のあり方：診療参加型実習とは</p> <p>第11回 卒後臨床研修との連続性について</p> <p>第12回 医療面接の体験実習（ロールプレイ）</p> <p>第13回 医学教育分野別評価とは</p> <p>第14回 今日の医学教育における問題点（グループワーク）</p> <p>第15回 まとめとレポート作成</p>					
教科書					
香川大学医学部シラバス、および臨床実習実施要項					
参考書					
オフィスアワー					
随時質問・相談の時間を設ける（Eメールによる質問も可）					
履修上の注意					
特になし					
URL： http://www.med.kagawa-u.ac.jp/faculty/about/philosophy/ （教育理念など）					
E-Mail： okadaedu@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
遺伝情報解析学	選択科目	4	通年		987221
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
竹崎 直子 (総合生命科学研究センター) 岩間 久和 (総合生命科学研究センター)					
授業の概要					
<p>現在ゲノムデータをはじめとして、大量の生命情報データが入手可能となっている。このなかでも特に DNAの塩基配列やアミノ酸配列データや多型データまたそれに関連したデータの解析方法について学習する。これらのデータのパブリックデータベースからの検索、収集方法や配列データ、多型データについての比較解析方法について紹介する。配列データ、多型データの性質および一般的に用いられる解析方法の理論的基礎の学習を行いながら、これらの方法を実際のデータに対して用いてみる。この授業は演習とともに進行形式をとる。</p>					
授業の目的・達成目標					
<p>(1)配列データのデータベースからの検索、収集について紹介するが、演習において実際にデータ検索、収集を行ってみること。(2)配列データや多型データの性質、一般的に用いられる解析方法について理論的基礎について理解すること。そして、演習において配列データや多型データの比較解析をソフトウェアを用いて実際に行ってみること。</p>					
授業及び学習の方法					
<p>データの検索、収集、解析についての解説の後、演習においてコンピューターを用いて個々に実際に行う。データ解析方法については、講義あるいは教科書または関連文献の輪読を行う。</p>					
成績評価の方法と基準					
<p>データ検索、収集、解析のそれぞれの段階で、演習と連動した assignmentに対するレポートの提出、講義への出席を評価の基準とする</p>					
授業計画					
<p>第 1回―第 3回 ゲノムデータ、配列データ、多型データの紹介 第 4回―第 9回 データベースの利用方法、データの検索、収集 第10回―第20回 データ解析方法の理論的基礎 第21回―第30回 データ解析方法の活用</p>					
教科書					
<p>「パイオインフォマティクス第2版ゲノム配列から機能解析へ」著者：デービットW. マウント著/岡崎 康司監訳/坊農 秀雅監訳/香月 祥太郎 [ほか] 訳、税込価格：¥11,550、出版：メディカル・サイエンス・インターナショナル、ISBN：4895924262生協の書籍部にて購入</p>					
参考書					
<p>「分子進化と分子系統学」根井 正利監訳 大田 竜也・竹崎 直子共訳 税込価格：¥7,350 出版：培風館 ISBN4-563-07801-8 生協の書籍部にて購入</p>					
オフィスアワー					
<p>随時、アポイントメントにより、質問などの話し合いの時間を設ける。</p>					
履修上の注意					
<p>assignmentはコンピューターを用いて行うので、受講者が用いることのできるコンピューター環境が必要である。</p>					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail :					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
疾患ゲノム情報学	選択科目	4	通年		987222
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
竹崎 直子 (総合生命科学研究センター) 岩間 久和 (総合生命科学研究センター)					
授業の概要					
ヒトのゲノム情報の解読以後、ゲノム全体にわたる遺伝的変異、またそれらと疾患との関連についての研究が進展している。これらについての知識を得、また疾患と関連するゲノム上の変異に関する情報の検索方法について学習する。					
授業の目的・達成目標					
(1) ヒトゲノム情報とはどのようなものか。 (2) ゲノム上の変異はどのようなものか。 (3) 疾患と遺伝的変異の関係 (4) 疾患とsomaticな変異の関係 (5) 疾患に関わるゲノム上の変異の調べ方について学習する。					
授業及び学習の方法					
講義あるいは関連文献の紹介を行う。また、演習形式で実際に、特定の疾患や遺伝子についてデータベースから情報を収集する。					
成績評価の方法と基準					
講義への出席、レポート、演習問題についてのassignmentの提出によって評価する。					
授業計画					
第1回～第4回 ヒトゲノムとゲノムデータ 第5回～第8回 ゲノム上の変異 第9回～第12回 疾患と遺伝的変異 第13回～第16回 疾患とsomaticな変異 第17回～第30回 データベースの活用					
教科書					
ヒトの分子遺伝学 第4版 (村松正實、木南 凌 漢訳) 出版: メディカル・サイエンス・インターナショナル ISBN N: 4895926915					
参考書					
ゲノム医学 ゲノム情報を活かす医療のために (菅野純夫、福嶋義光 訳) 出版: メディカル・サイエンス・インターナショナル ISBN: 4895928446					
オフィスアワー					
随時、アポイントメントにより、質問などの話し合いの時間を設ける。					
履修上の注意					
データベースから情報を収集を行う演習では、個々にコンピューターを用意する必要がある。					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp					
E-Mail :					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
生体分子立体構造学	選択科目	2	通年		987223
講義題目	関連授業課目				
タンパク質 X線結晶解析の基礎について学ぶ	タンパク質分子設計				
担当教員名	履修推奨科目				
神鳥 成弘 (総合生命科学研究センター) 吉田 裕美 (総合生命科学研究センター)	タンパク質分子設計				
授業の概要					
ヒトゲノム計画も終わり、次の段階として、各遺伝子のコードするタンパク質の構造・機能解析に興味が集まっている。本講義では、前半においては、タンパク質の3次元構造決定法(X線結晶解析)について、その基礎的な理論を学び、実践について概観し、後半においては、最新の構造生物学の研究成果を紹介する。					
授業の目的・達成目標					
(1) タンパク質 X線結晶解析に関する論文を読むことができるようになる。 (2) タンパク質 X線結晶解析についての現状を理解し、将来、機会・必要に応じて当該研究分野に参入できるようになる。					
授業及び学習の方法					
本講義は、講義と演習(実習または見学)を効果的に混ぜながら行う。					
成績評価の方法と基準					
講義の受講状況(積極性等)および講義の最終日に行うプレゼンテーションにて理解度の判定を行う。					
授業計画					
(1) 生物学と構造化学の融合—構造生物学とは (2) 生体高分子の基本構造 (3) 結晶学の基礎 (4) X線結晶解析の基礎理論 (5) X線結晶解析の方法論 (6) X線結晶解析の実践 (7) 転写・翻訳に関わるタンパク質の構造 (8) 生体エネルギー獲得に関わるタンパク質の構造 (9) 物質輸送を担うタンパク質の構造 (10) シグナル伝達に関わるタンパク質の構造 (11) 代謝に関わるタンパク質の構造 (12) 免疫に関わるタンパク質の構造 (13) 構造体をつくるタンパク質の構造 (14) データベースの使用方法和構造生物学の論文の読み方 (15) プレゼンテーションとフリーディスカッション					
教科書					
資料を配布する。					
参考書					
「構造生物学—原子からみた生命現象の営み」、樋口芳樹、中川敦史/著 (共立出版) 「タンパク質のX線結晶解析法」、J. ドレンド/著、竹中、勝部、笹田、若槻/訳 (シュプリンガー・ジャパン)					
オフィスアワー					
各授業終了後、あるいはメールにて随時。					
履修上の注意					
URL : http://www.meckagawa-u.ac.jp/~xraylab					
E-Mail : kamitori@meckagawa-u.ac.jp , h.yoshi@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
実験動物学・動物遺伝学	選択科目	2	通年		987224
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
宮下 信泉（総合生命科学研究センター）					
授業の概要					
<p>医学研究においてマウスをはじめとする多くの実験動物が使われている。実験動物学全般について基礎的な説明を行う。</p> <p>臓器の幹細胞や胚性幹細胞さらにiPS細胞を用いた再生医療・再生医学の研究の進展が著しい。これらの研究の基礎となっている発生生物学についてふれると共に、実験動物を用いた幹細胞研究および関連分野の話題を取り上げる。基礎的分野として、特にマウスの発生過程に関して分子生物学的観点から概説する。</p> <p>ヒトやマウスを初めとするゲノムプロジェクトの進展により、いろいろな動物種のゲノム塩基配列が決定された。しかし、遺伝子の生体内における機能については塩基配列の解析のみではわからないため、さまざまな遺伝子組換え動物が作られ、多くがヒト疾患モデル動物として医科学研究に必須の存在となっている。遺伝子組換え動物作出法および哺乳類のゲノム編集についてもふれる。</p>					
授業の目的・達成目標					
実験動物学、動物の発生・幹細胞を用いた研究に関する基本的な知識を広く修得する。実験医学における究資源として必須となっている遺伝子組換え動物の作出法・利用法を理解することにより、研究活動に役立てることを目とする。					
授業及び学習の方法					
プリント等の配布・ビデオ映像・インターネット上のデータベース等を利用した講義を中心とする。					
成績評価の方法と基準					
出席回数およびレポート提出により評価を行う。					
授業計画					
<p>(1) 実験動物学概論 (8コマ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 実験動物と動物実験 - 定義・必要性 ② 遺伝学的制御 ③ 微生物学的制御・環境制御 ④ 適正な動物実験 ⑤ 各論 マウス ⑥ 各論 ラット ⑦ 各論 その他の実験動物 ⑧ 実験医学研究を支える技術 <p>(2) 幹細胞研究と実験動物 (2 コマ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 発生学・発生工学概論 ② 幹細胞の基本的性質・臓器・組織幹細胞・マウスとヒトの胚性幹細胞 (ES細胞) <p>(3) 遺伝子導入とゲノム編集 (3コマ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 細胞への遺伝子導入・標的遺伝子組換え法・iPS細胞 ② ゲノム編集 ③ 発生工学的手法による疾患モデル動物の作成 <p>(4) 分子遺伝学とマウス (2コマ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 概論 ② 生命情報学とデータベース 					
教科書					
特に指定しない					
参考書					
マウス実験の基礎知識 オーム社ISBN: 978-4-274-50217-0					
オフィスアワー					
総合生命科学研究センター動物実験部門において、木曜日を除く月～金の13:30～17:00					
履修上の注意					
特になし					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~eac/index.html					
E-Mail : nmiyashi@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
糖鎖構造解析	選択科目	2	通年		987225
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
中北慎一					
授業の概要					
<p>糖質は自然界において広く存在する生体物質の一つであり、その動きは非常にダイナミックである。例えば植物は光エネルギーを使って光合成し、グルコース（単糖）を合成する。このグルコースをデンプン（多糖：グルコースがα 1-4結合したもの）にしてエネルギー貯蔵物質として利用したり、セルロース（多糖：グルコースがβ 1-4結合したもの）として支持体として利用される。このような糖質と呼ばれる生体物質は、主に炭素、水素、酸素からなり、炭水化物とも呼ばれる物質である。近年、これらの糖質がエネルギー代謝や支持体以外に生体内で色々な役割を担っていることが分かり、多くの知見が得られるようになった。本講義では、これらの知見を化学という方法論で読み解き、その解説を行う。</p>					
授業の目的・達成目標					
<p>糖の構造や基本的性質を理解し、生体内での役割についての知見を得る。また、ライフサイエンスにおける糖の意味についても考えていく。</p>					
授業及び学習の方法					
<p>基本的には講義形式で行うが、各自の考え方を発言してもらい、講義を進める。</p>					
成績評価の方法と基準					
<p>出席状況、討論での発言、レポートなどを総合して評価する。</p>					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 単糖の構造 3. 単糖の性質 4. 単糖の化学反応 5. 単糖の生体内合成 6. 単糖の生理機能 7. 糖鎖の構造 8. 糖鎖の化学合成 9. 糖鎖の生体内合成 10. 糖鎖の構造解析 11. 多糖の構造解析 12. オリゴ糖の機能解析（酵素） 13. オリゴ糖の機能解析（レクチン） 14. オリゴ糖の機能解析（ウイルス） 15. まとめ 					
教科書					
<p>教科書は使用しない。プリントなどを配る</p>					
参考書					
<p>Essentials of Glycobiology, Cold Spring Harbor Laboratory</p>					
オフィスアワー					
<p>随時受け付けるが、事前にメール等で連絡すること。</p>					
履修上の注意					
<p>特になし</p>					
<p>URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~glycobio/tousitubio.html</p>					
<p>E-Mail : nakakita@med.kagawa-u.ac.jp /</p>					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
希少糖と生活習慣病	選択科目	2	通年		987301
講義題目	関連授業課目				
	希少糖の機能 希少糖医学				
担当教員名	履修推奨科目				
徳田雅明 山口文徳(細胞情報生理学)					
授業の概要					
<p>糖は過剰摂取による糖尿病や肥満などの生活習慣病を作り出す原因にもなっている。高血圧症や高脂血症も含めてメタボリックシンドロームとして扱われ、メタボ検診も始まっている。こうした糖の医学の分野における功罪について勉強するとともに、希少糖がどのように生活習慣病の解決に役立つ可能性があるかを紹介する。また歯周病、脳血管疾患、認知症、がんなども生活習慣病として位置づけられているので、こうした疾病への応用可能性も探る。希少糖の機能的食品や医薬品としての将来性について考察する。</p>					
授業の目的・達成目標					
<ol style="list-style-type: none"> 生活習慣病の現状について理解する。 希少糖の生活習慣病予防や改善に役立つ効果を知る。 メタボ検診について理解する。 運動の重要性について理解する。 希少糖産学官連携プロジェクトについて学習する。 					
授業及び学習の方法					
受講生と連絡を取り、集中講義形式で行う。					
成績評価の方法と基準					
出席およびレポートで評価する。一部自主的な学習を求める。					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> 生活習慣病の現状・メタボ検診 生活習慣病とD-ブシコース (メタボリックシンドローム) 生活習慣病と運動 生活習慣病とD-アロース1 (脳血管疾患・虚血性疾患) 生活習慣病とD-アロース2 (神経変性疾患) 生活習慣病とD-アロース3 (がん) 生活習慣病とD-アロース4 (骨粗鬆症) 生活習慣病とD-タガトース (歯周病・虫歯) 希少糖と食品 希少糖を用いた特定保健用食品等の開発 希少糖の生活習慣病予防・世界展開 自主学習 (レポート作成) 自主学習 (レポート作成) 自主学習 (レポート作成) 発表 					
教科書					
特に定めない					
参考書					
希少糖秘話 (何森健著) 香川発希少糖の軌跡 (松崎隆司著)					
オフィスアワー					
随時受け付ける。徳田 (tokuda@med.kagawa-u.ac.jp) までメールで連絡をすること。					
履修上の注意					
未定					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~physiol1/index.html 及び http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~kishoto/index.html					
E-Mail : tokuda@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
バイオイメーキング技術の開発・応用	選択科目	2	通年		987302
講義題目	関連授業課目 分子形態学特論、組織細胞学特論				
担当教員名	履修推奨科目				
荒木 伸一、横平 政直					
授業の概要					
形態学研究のストラテジー、組織細胞化学、バイオイメーキング技術の理論と実際について学ぶ。特に新しいバイオイメーキング技術やその開発応用について実際の例を示しながら解説する。					
授業の目的・達成目標					
バイオイメーキング技術、装置の基礎的理論を理解する。 バイオイメーキング技術の応用について学び、生体機能を可視化する新たな方法論を生み出す。					
授業及び学習の方法					
講義、最近の研究の紹介					
成績評価の方法と基準					
レポートおよび出席状況により評価する					
授業計画					
(1) デジタル画像とは (2) これまでのバイオイメーキング技術の発展 (3) 組織化学染色技法とイメーキング (4) 顕微鏡法の種類と特性、利用 (5) バイオイメーキング技法：蛍光検出器の種類と特性 (6) バイオイメーキング技法：プローブの種類 (7) バイオイメーキング技法：GFP融合タンパク質とその改変 (8) バイオイメーキングプローブの開発 (9) タンパク質活性の可視化：FRET (10) オプトジェネティクス (11) デコンボリューション処理 (12) 3次元解析 (13) 画像演算ソフトでのマクロ作成 (14) 新たなバイオイメーキング技法の開発について (15) これからのバイオイメーキングの可能性、実験方法の考案					
教科書					
なし					
参考書					
顕微鏡の使い方ノート 野島 博 羊土社 GFPとバイオイメーキング 宮脇 敦史 羊土社					
オフィスアワー					
随時可能。事前に、メールでアポイントメントをとること。					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~anatomy2/index.html					
E-Mail : anatomy2@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
中耳・内耳バイオイメーjing	選択科目	2	通年		987303
講義題目	関連授業課目				
中耳・内耳の構造とバイオイメーjing					
担当教員名	履修推奨科目				
星川 広史、宮下 武憲					
授業の概要					
立体的で複雑な構造をしている中耳・内耳の構造を理解し、構造的制約のある器官や組織ではどのようなバイオイメーjingが可能か、そしてバイオイメーjingによりどのように解析できるかを理解する。					
授業の目的・達成目標					
1) 中耳・内耳の構造と生理を理解できる。 2) 中耳・内耳の構造によるアプローチ方法の制約を理解する。 3) 構造的制約のあるなかでどのようなバイオイメーjingが可能かを理解し、応用できる。					
授業及び学習の方法					
講義において配布するプリントやマルチメディアによる情報提供等により学習する。 最新の基礎的・臨床的研究に関する文献を検索し、系統的に要約を作成する。 具体的な実験手法に関しては、実験のサポートなどを行い習得を目指す。					
成績評価の方法と基準					
与えられたテーマに関するレポートを作成し評価する。 合わせて口頭試問を行い、総合的に評価する。					
授業計画					
第1, 2回 内耳・中耳の解剖と組織1、2 第3, 4回 内耳・中耳の解剖と組織3、4 第5, 6回 内耳・中耳の生理1、2 第7, 8回 内耳・中耳の生理3、4 第9, 10回 内耳・中耳の病態1、2 第11, 12回 内耳・中耳の病態3、4 第13回 内耳・中耳のバイオイメーjing 1 (タンパク質のイメーjing) 第14, 15回 内耳・中耳のバイオイメーjing 2、3 (イオンのイメーjing)					
教科書					
稲沢 譲治: 顕微鏡フル活用術イラストレイテッド—基礎から応用まで (秀潤社)					
参考書					
山下 敏夫: 内耳研究 (金原出版) Willott, JF : Handbook of mouse auditory research (CRC Press)					
オフィスアワー					
随時: アポイントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail : hiro@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
形成外科におけるバイオイメーjing	選択科目	2	通年		987304
講義題目	関連授業課目				
	運動器病学・脳神経外科学・口腔病学				
担当教員名	履修推奨科目				
永竿 智久、久富 信之	形態機能学				
授業の概要					
<p>形成外科学においては形態の改善を目的として手術を行う。適切な形態の実現を得るためには、おのおのの患者の身体形状つき3次元的な評価を行い、その上で、あるべき形態との空間的な差異を数量化する必要がある。このためには ①CTおよびMRIデータをソフトウェアにより処理して3次元的な座標評価を行う技術。②得られたデータを3Dプリンターでモデル化する技術 ③得られたデータを有限要素モデルに変換して、外力に対してその実体がいかに反応するのかを予測する技術 が必要である。</p> <p>本講座についてはこれらの技術を習得することを目標とする。</p>					
授業の目的・達成目標					
<p>CTおよびMRIデータを変換して3Dモデルを作成する技術を、ソフトウェアを使って実際に行う。ソフトウェアとしてはScan IPおよびFree Formを用いるが、実際の患者のCTデータを履修者に与えた上、そのデータに基づいて3Dモデルを作成する作業を行う。その作業の習熟度をもって評価の対象とする。</p>					
授業及び学習の方法					
<p>まず、形成外科における手術の内容につき総論的な講義を行う。しかるのちに興味を持った疾患においていかなる3Dモデリングを作成すれば、臨床結果を向上させることができるのが、問題の立案を行う。その後、3Dデータの取り扱い方を成書を中心に学習し、</p>					
成績評価の方法と基準					
<p>実際の患者のCTデータを加工することにより当該患者の3Dモデルを作成する。その達成度により成績評価を行う。形成外科一般に対する興味についても、評価対象として加味する。</p>					
授業計画					
<p>1～5講 形成外科一般についての講義 6～10講 DICOMデータの概念および取り扱いにつき習得する。 11～15講 実際の患者CTデータを加工して3Dモデルを作成する。 余力があれば有限要素モデルの作成と、それに基づく構造解析計算を実習する</p>					
教科書					
標準形成外科学 (克誠堂出版)					
参考書					
よくわかる有限要素法入門 (技報堂出版)					
オフィスアワー					
毎週月曜日～金曜日 9時～17時					
履修上の注意					
15回の実習の成果は英文論文として集成しますので、英検準1級もしくはTOEIC730点以上の英語力を持つことが履修の基本条件です。					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp					
E-Mail :					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
細胞シグナル伝達学に基づくトランスレーショナルリサーチ	選択科目	4	通年		987305
講義題目	関連授業課目				
	循環生理シグナル伝達学、呼吸循環生理学				
担当教員名	履修推奨科目				
平野 勝也、西 望					
授業の概要					
細胞の生死、増殖、機能は、細胞内シグナル伝達機能により巧妙かつ柔軟に制御され、生体の生理機能と恒常性の維持に重要な役割を果たす。がん、糖尿病、肥満、高血圧などの疾患は、正常の細胞シグナル伝達機能の破たんにより発症すると理解できる。本授業では、生理的な細胞シグナル伝達の仕組みを理解するとともに、病態における異常とその発生機構を理解し、それに基づいて新たな疾患治療法を立案、開発する能力を培う。					
授業の目的・達成目標					
細胞シグナル伝達の基本的な仕組みを説明できる。疾患におけるシグナル伝達の異常とその発生機構を説明できる。シグナル伝達を標的とする新たな疾患治療法を考察できる。					
授業及び学習の方法					
30回の講義から成る					
成績評価の方法と基準					
講義出席点とレポート点により評価する 60点未満は不合格とする					
授業計画					
第1回：細胞シグナル伝達の基礎① 受容体					
第2回：細胞シグナル伝達の基礎② 蛋白質					
第3回：細胞シグナル伝達の基礎③ カルシウムシグナル					
第4回：細胞シグナル伝達の基礎④ サイクリックヌクレオチドシグナル					
第5回：細胞シグナル伝達の基礎⑤ 蛋白質リン酸化反応					
第6回：細胞シグナル伝達の基礎⑥ 蛋白質脱リン酸化反応					
第7回：細胞シグナル伝達の基礎⑦ 細胞周期制御機構					
第8回：細胞シグナル伝達の基礎⑧ 細胞増殖制御機構					
第9回：細胞シグナル伝達の基礎⑨ アポトーシスのシグナル伝達					
第10回：細胞シグナル伝達の基礎⑩ 細胞死のシグナル伝達					
第11回：細胞シグナル伝達の基礎⑪ 蛋白質分解酵素					
第12回：細胞シグナル伝達の基礎⑫ プロテアソーム・オートファジー					
第13回：細胞シグナル伝達の基礎⑬ オートファジー					
第14回：疾患のシグナル伝達① 循環器疾患①：虚血性心臓病					
第15回：疾患のシグナル伝達② 循環器疾患②：心不全					
第16回：疾患のシグナル伝達③ 循環器疾患③：不整脈					
第17回：疾患のシグナル伝達④ 循環器疾患④：高血圧					
第18回：疾患のシグナル伝達⑤ 悪性腫瘍①：固形がん					
第19回：疾患のシグナル伝達⑥ 悪性腫瘍②：軟部腫瘍					
第20回：疾患のシグナル伝達⑦ 悪性腫瘍③：血液疾患					
第21回：疾患のシグナル伝達⑧ 炎症免疫疾患①：炎症性疾患					
第22回：疾患のシグナル伝達⑨ 炎症免疫疾患②：自然免疫					
第23回：疾患のシグナル伝達⑩ 炎症免疫疾患③：自己免疫疾患					
第24回：疾患のシグナル伝達⑪ 炎症免疫疾患④：慢性免疫疾患					
第25回：疾患のシグナル伝達⑫ 代謝・生活習慣病①：糖尿病					
第26回：疾患のシグナル伝達⑬ 代謝・生活習慣病②：肥満					
第27回：疾患のシグナル伝達⑭ 代謝・生活習慣病③：高脂血症					
第28回：シグナル伝達標的治療① 分子標的薬					
第29回：シグナル伝達標的治療② 新規化合物探索					
第30回：シグナル伝達標的治療③ 個別化医療					
教科書					
Signal Transduction 2 nd Ed. 2009, Academic Press, ISBN: 978-0-12-369441-6 シグナル伝達 第2版, 2011, メディカル・サイエンス・インターナショナル, ISBN: 978-4-89592-692-8					
参考書					

オフィスアワー
随時(事前にメール、電話にて訪問日程を調整することが望ましい)
履修上の注意
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~cardiovasc-physiol/index.html
E-Mail : khirano@med.kagawa-u.ac.jp

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
生活習慣病診断・治療の前臨床開発	選択科目	4	通年		987306
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
西山 成、宮武 伸行					
授業の概要					
腎臓・心臓・脳・糖尿病・メタボリックシンドローム・がんなどの生活習慣病に対する薬剤の効果を評価する際に必要な知識を深める。具体的には、培養細胞を使用した分子機構の解明、動物実験による薬剤効果の検討や組織学評価などに関する最新の知見を学ぶ。さらに、これらを如何に臨床研究に結びつけるのかについて、今後の研究課題を議論する。					
授業の目的・達成目標					
どのようなステップにて、生活習慣病に対する薬剤を基礎研究から臨床研究へと進めて行かなければならないのかについて、考える能力を養う。これらの総合的理解に基づき、関連分野における独自の研究を展開しうる、広い視点をもった学生の養成を図り、今後の医学研究の発展を目指す。					
授業及び学習の方法					
薬理学研究室や7階セミナー室などで実施される。					
成績評価の方法と基準					
提出されたレポートや討論内容の総合評価とする。					
授業計画					
第1～3回 培養細胞を用いた研究法(1) 第4～6回 培養細胞を用いた研究法(2) 第7～9回 培養細胞を用いた研究法(3) 第10～12回 モデル動物を用いた研究法(1) 第13～15回 モデル動物を用いた研究法(2) 第16～18回 モデル動物を用いた研究法(3) 第19～21回 トランスレーショナル・リサーチの実際(1) 第22～24回 トランスレーショナル・リサーチの実際(2) 第25～27回 トランスレーショナル・リサーチの実際(3) 第28～30回 トランスレーショナル・リサーチの実際(4)					
教科書					
イラストレイテッド薬理学 丸善出版、柳澤輝行、丸山 敬監訳					
参考書					
Goodman and Gilman's : The Pharmacological Basis of Therapeutics McGraw-Hill Professional Publishing					
オフィスアワー					
随時：アポイントメントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~yakuri/index.html E-Mail : yakuri@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
iPS細胞の応用	選択科目	2	通年		987307
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
西山 成、三宅 啓介					
授業の概要					
iPS細胞を使用した基礎研究を実行するために必要な知識を深める。具体的には、iPS細胞の培養方法や分化方法、ならびに分化させた細胞を使用した細胞実験および動物実験方法について学び、必要な知識を身につける。さらに、これらを如何に臨床研究に結びつけるのかについて、今後の課題を議論する。					
授業の目的・達成目標					
iPS細胞を実際に使用する基礎研究を実行するために必要な知識を身につける。また、これらを如何に臨床研究に結びつけるのかについて、考える能力を養う。これらの総合的理解に基づき、関連分野における独自の研究を展開しうる、広い視点をもった学生の養成を図り、今後の医学研究の発展を目指す。					
授業及び学習の方法					
ヒトiPS細胞の培養方法や分化誘導の方法、動物を使用した実験方法を学び、各自の関連分野においてどのように応用できるのかについて考察する。					
成績評価の方法と基準					
提出されたレポートや討論内容の総合評価とする。					
授業計画					
第1～3回 iPS細胞培養法 第4～6回 iPS細胞誘導法 (1) 第7～9回 iPS細胞誘導法 (2) 第10～12回 iPS細胞分化法 (1) 第13～15回 iPS細胞分化法 (2)					
教科書					
イラストレイテッド薬理学 丸善出版、柳澤輝行、丸山 敬監訳					
参考書					
Goodman and Gilman's : The Pharmacological Basis of Therapeutics McGraw-Hill Professional Publishing 実験医学 別冊—基本から最新の幹細胞培養法まで完全網羅! 培養細胞実験ハンドブック (実験医学別冊 24) 実験医学増刊 Vol. 33 No. 2 再生医療2015 幹細胞と疾患iPS細胞の研究最前線～飛躍する基礎研究 加速する臨床への挑戦					
オフィスアワー					
随時：アポイントメントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~yakuri/index.html					
E-Mail : yakuri@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
糖鎖情報と臨床応用	選択科目	4	通年		987308
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
中村 隆範、西 望					
授業の概要					
<p>糖鎖は単糖が重合した複雑で多様な鎖状の分子構造を有する。糖鎖は核酸、蛋白質と並ぶ第三の生命鎖としてその機能の重要性が明らかにされつつある。例えば細胞が十分な機能を発揮するには蛋白質のほかに脂質と糖という2つの物質が必須である。これらは細胞を構成する構造の構築成分であったり、生体がエネルギーを産生、消費する時の前駆体となったりする。また、糖鎖は多数の立体異性体を産み出して核酸や蛋白質よりもより複雑な構造を取り得る。本講義では、単糖の分類から糖鎖構造の生合成過程のあらましとその生理的役割を理解する。一方で糖鎖を認識し、その生命情報を解読する（あるいは糖鎖の生命情報を下流に伝える）ことのできる糖結合蛋白質（レクチン）の機能をも概観して、総合的な糖鎖の機能を個体レベルで理解する。</p>					
授業の目的・達成目標					
<p>(1) 単糖および糖鎖の分類、構造を系統的に理解する。 (2) 糖鎖の生合成の過程（糖転移酵素群の役割）を理解する。 (3) 糖鎖を認識する蛋白質、レクチンの構造と機能（特に糖鎖認識パターンの比較と生体での役割）を理解する。 (4) 糖鎖の生合成異常やレクチンの関わる疾患について理解する。</p>					
授業及び学習の方法					
<p>英語の教科書を学生とともに読み合わせた上で、教員は講義として全体をまとめて解説する。また、授業の最後に課題を与えてレポートを提出させる。</p>					
成績評価の方法と基準					
<p>個人発表および課題レポートを評価する。</p>					
授業計画					
<p>(1) 糖鎖生物学の概念 (16) GPIアンカー (2) 糖の構造と命名法 (17) シアル酸 (3) タンパク質と糖鎖の相互作用 (18-19) 糖転移酵素 (4-5) N型 (Asn結合型) 糖鎖の生合成 (20-21) 糖タンパク質の細胞内輸送 (6-7) オリゴ糖鎖のコンフォメーション (22-23) 細胞接着と糖鎖 (8-9) 糖鎖の解析法 (24-26) 動物レクチンと糖鎖認識 (10-11) O型 (Ser/Thr結合型) 糖鎖の生合成 (27-28) 植物、細菌、ウイルスの糖鎖生物学 (12-13) 糖脂質と膜タンパク質のグリコシル化 (29-30) グリコシル化と疾患 (14-15) タンパク質の構造・機能とグリコシル化</p>					
教科書					
<p>Introduction to Glycobiology : Maureen E. Taylor & Kurt Drickamer (Oxford University Press)</p>					
参考書					
<p>コールドスプリングハーバー糖鎖生物学 鈴木 康夫 監訳 (丸善)</p>					
オフィスアワー					
<p>原則として授業後に質問を受けるが、事前にアポイントメントを取れば随時対応したい。</p>					
履修上の注意					
<p>教科書を必ず事前に読んで理解しておくこと。</p>					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail :					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
発がん機構	選択科目	2	通年		987309
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
今井田 克己、横平 政直					
授業の概要					
<p>発癌の過程は正常細胞から、多段階に変化して最終的に悪性腫瘍になると考えられている。その過程では増殖性病変として過形成、良性病変として腺腫など良性病変、さらに悪性化して癌腫や肉腫となり、やがて多臓器への転移をきたすようになる。その過程を理解するには化学発癌モデルを用いた研究が不可欠である。そこで、この化学発癌を中心にがん発生のメカニズムを理解し、がん遺伝子、がん抑制遺伝子の発癌への関与を理解する。さらに、がんの予防を化学発癌予防の観点から考察する。</p>					
授業の目的・達成目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 発癌のメカニズムを説明できる。 2. 発癌物質の検出法を説明し、発癌物質を分類することができる。 3. 発癌の閾値について説明できる。 4. 発癌物質のリスクアセスメントについて説明できる。 5. 化学物質の発癌性に関してヒトへ外挿することができる。 					
授業及び学習の方法					
講義を主体に行う。					
成績評価の方法と基準					
講義の理解を深めるため、レポートを課し、その内容により評価する。					
授業計画					
第1回 腫瘍総論 第2、3回 化学発癌総説（1、2） 第4、5回 発癌のメカニズム（1、2） 第6、7回 発癌物質の分類（1、2） 第8、9回 発癌性物質の検出方法（1、2） 第10、11回 増殖性病変と発癌（1、2） 第12、13回 発癌の閾値とリスクアセスメントについて（1、2） 第14、15回 発癌性のヒトへの外挿について（1、2）					
教科書					
伊東毒性病理学，丸善出版 新毒性病理組織学，西村書店					
参考書					
The Biology Of Cancer、Robert A.Weinberg（著）					
オフィスアワー					
随時：アポイントメントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
URL： http://www.med.kagawa-u.ac.jp/course/ichibyou/					
E-Mail： imaida@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
免疫機能を調整する薬剤の開発	選択科目	4	通年		987310
講義題目	関連授業課目				
自然免疫を制御する分子標的物質の開発	免疫制御学				
担当教員名	履修推奨科目				
星野 克明	微生物ゲノム科学、寄生虫学特論、実験動物学・動物遺伝学				
授業の概要					
本科目では、自然免疫および獲得免疫の活性化を調節する分子メカニズムを理解し、難治性免疫疾患の治療を目的とした新規治療法の開発について、動物モデルを用いて検討する。					
授業の目的・達成目標					
1) 自然免疫細胞として樹状細胞の活性化メカニズムを説明できる。 2) 獲得免疫細胞の活性化メカニズムを説明できる。 3) 自然免疫細胞に特異的に発現する膜タンパク質の機能を説明できる。 4) 実験動物をモデルとして、免疫疾患の病態について説明できる。					
授業及び学習の方法					
文献の精読による学習とディスカッションにより知識の整理を行う。現在の問題点を把握し、その解決法を探る。 グループ討論ディスカッションやレポート提出、および実習を行う。					
成績評価の方法と基準					
レポート提出やグループ討論、実習結果の発表などにより総合評価を行う。					
授業計画					
第 1 回～1 4 回 自然免疫細胞のシグナル伝達メカニズムについて (講義・実習) 第 1 5 回～2 2 回 自然免疫細胞の膜タンパク質について (講義・実習) 第 2 4 回～3 0 回 モデル動物を用いる評価系について (講義・実習)					
教科書					
特になし。					
参考書					
Kenneth Murphy. Janeway's Immunobiology. 9th Edition, Garland Science, 2016. Raif Geha, Luigi Notarangelo. Case Studies in Immunology. 7th Edition. Garland Science, 2016.					
オフィスアワー					
随時：アポイントメントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
URL: http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~immunol/					
E-Mail: immunol@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
微生物共生システムと応用	選択科目	2	通年		987311
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
桑原 知巳					
授業の概要					
<p>人体の外環境に接する部位には多種多様な細菌が存在し、常在細菌叢を形成している（ヒトマイクロビオーム）。特に腸内細菌叢はヒトにおける最大のマイクロビオームであるが、近年の次世代シーケンシング技術を用いた解析により、肥満・2型糖尿病などの代謝性疾患や大腸癌との関連が明らかになりつつある。このようにマイクロビオーム解析は医学領域においても重要な研究と位置づけられるようになった。本授業科目では、遺伝子を用いた微生物の分類や系統解析の基礎を概説するとともに、具体的な解析事例を挙げてその医学的意義を開設する。また、演習用のマウス腸内細菌叢の配列データをマイクロビオーム解析パイプラインQIIMEを用いて解析する。</p>					
授業の目的・達成目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 細菌の遺伝子分類について説明できる。 2. ヒトの常在菌叢（マイクロビオーム）について説明できる。 3. 16S rDNAを用いた菌叢解析の原理が説明できる。 4. 次世代シーケンシング技術について解析できる。 5. マイクロビオーム解析パイプラインQIIMEを利用した基本的な解析ができる。 					
授業及び学習の方法					
<ol style="list-style-type: none"> 1. ヒトマイクロビオーム解析に必要な基本的事項を講義により解説する。 2. ヒトマイクロビオーム関連の文献を紹介し、その内容について討論する。 3. 演習用データと解析ソフトを使用して、マイクロビオーム解析を体験する。 					
成績評価の方法と基準					
授業内容に関する理解度を口頭試問および討論により評価する。					
授業計画					
<p>1回～ 4回 細菌・真菌の遺伝子配列にもとづく分類について 5回～ 6回 ヒトマイクロビオームと細菌の16S rDNAメタゲノム解析について 7回～ 8回 腸内細菌叢の機能と疾病との関連について 9回～12回 次世代シーケンシング技術について 13回～15回 QIIMEを用いたマイクロビオーム解析</p>					
教科書					
NGSアプリケーション 今すぐ始める！メタゲノム解析～実験プロトコル～ヒト常在細菌叢から環境メタゲノムまでサンプル調製と解析のコツ 服部正平（編）実験医学別冊					
参考書					
常在細菌叢が操るヒトの健康と疾患～メタゲノムなどの革新的解析法, 大野 博司, 服部正平（編）実験医学増刊 Vol. 32 No. 5					
オフィスアワー					
随時：アポイントメントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
URL： http://www.med.kagawa-u.ac.jp/faculty/center/igaku_kouza/bunshi_biseibutsu/					
E-Mail： infect@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
健康測定・アセスメント	選択科目	2	通年		987312
講義題目	関連授業課目				
	生活習慣病予防論				
担当教員名	履修推奨科目				
宮武 伸行	臨床疫学、生物統計学				
授業の概要					
健康や健康に与える環境因子を評価する様々な方法を紹介し、体験することによって、実際の調査で応用、実施、評価できるようにする。					
授業の目的・達成目標					
1) 生活習慣病予防、改善に必要で、役立つ健康測定法、評価法を理解し、説明できる。 2) 環境保健関連の基本的事項、環境評価手法を説明できる。 3) 産業保健関連の基本的事項、評価手法を説明できる。 4) 実際にフィールド調査を企画し、解析、評価の計画ができる。					
授業及び学習の方法					
適宜提示する参考図書、資料を用いて学習を行う。 関連する文献を検索し、系統的に要約を作成する。 提示するデータによる分析を行い、発表、議論を行う。					
成績評価の方法と基準					
提出されたレポート、講義参加の程度等を含めて総合評価する。					
授業計画					
1回：健康測定法（1）：運動・身体活動 2回：健康測定法（2）：食事 3回：健康測定法（3）：ストレス 4回：健康測定法（4）：Quality of Life(QOL) 5回：環境測定法：水、大気、土壌、建築物・住居、食の安全 6回：有害要因の労働衛生管理：有害要因の労働衛生管理（化学物質、放射線等） 7回：職場の健康管理体制：健診、適正配置、職場復帰、健康増進、作業環境測定、職場巡視、安全衛生委員会、 産業医・産業保健スタッフの役割、地域との連携 8回：産業精神保健：メンタルヘルス（評価、復職支援） 9回～10回：健康測定法（運動、食事、休養、QOL、環境測定）の体験、演習 11回～15回：テーマを設定し、フィールド調査の企画。模擬データを用いて統計解析を行い考察、評価					
教科書					
参考書					
オフィスアワー					
随時、アポイントメントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
一部外部施設での講義実習等（実費負担、要相談）となる場合がある。					
URL： http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail： miyarin@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
医療経済・テクノロジーアセスメント	選択科目	1	前期		987313
講義題目	関連授業課目				
	医療政策論、医療管理学				
担当教員名	履修推奨科目				
平尾 智広、依田健志	臨床疫学				
授業の概要					
医療技術、薬剤、器機、材料の進歩は日進月歩である。新技術を実際の医療現場で用いる為には、その効果、安全性、経済性、普及の程度、難易性、倫理性等について検証が必要である。本講では技術評価の具体的方法、マネジメントについて理解する。					
授業の目的・達成目標					
1) 医療技術の有効性評価に関する理論・方法を習得する。 2) 医療技術の経済評価に関する理論・方法を習得する。 3) 医療技術評価における倫理的諸問題を理解する。 4) 医療技術の社会における導入と諸問題について理解する。					
授業及び学習の方法					
配布した具体的評価事例を分析し、問題点、評価の限界等について議論を行う。医療技術評価に関する最新の文献を検索しその要旨をまとめる。実際に効用値、疾病負担の測定を行い、その方法を習得する。					
成績評価の方法と基準					
講義に関しては提出されたレポート及び講義参加の程度を評価する。演習に関してはグループ討論と提出されたレポートの総合評価とする。					
授業計画					
1回	医療経済評価の基礎				
2回	CUA、CEA、CBA				
3回	効用値の測定 (SG、PTO、TTO)				
4回	SF-36、EuroQol、HUIの応用				
5回	疾病負担の算出方法				
6回～8回	事例検討				
教科書					
ロスマンの疫学、篠原出版社 Methods for the Economic Evaluation of Health Care Programmes 4 th ed、MF. Dr ummond、OUP					
参考書					
医療を経済する、長谷川 敏彦、医学書院 臨床のためのQOL評価ハンドブック、池上 直己、医学書院					
オフィスアワー					
随時：アポイントメントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~koueisei/index.php					
E-Mail : koueisei@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
医療政策論	選択科目	1	後期		987314
講義題目	関連授業課目				
	医療テクノロジーアセスメント、医療管理学				
担当教員名	履修推奨科目				
平尾 智広、依田 健志	健康危機管理論				
授業の概要					
政策科学、医療財政学の基礎的理論について学ぶ。また、わが国の医療制度の基本的概念、法的事項、資源創出と配分（特に人材確保、提供体制）、過去に行われてきた具体的政策の経緯を学び、他の先進国の医療制度と比較を行う。また今後問題となりうる事項を知る。					
授業の目的・達成目標					
1) 医療ファイナンスの基礎的理論を知る。 2) わが国の医療制度の変遷について知る。 3) 諸外国の医療制度について知る。 4) 現在の制度の問題点と今後の方向性について最新の考え方を知る。					
授業及び学習の方法					
適宜提示する参考図書・資料を用いて学習を行う。					
成績評価の方法と基準					
講義に関しては提出されたレポート及び講義参加の程度を評価する。 演習に関してはグループ討論と提出されたレポートの総合評価とする。					
授業計画					
1回	政策科学の基礎				
2回	人口、保健統計				
3回	医療ファイナンス				
4回	わが国の医療制度・政策の変遷				
5回	諸外国の医療制度				
6回	行動理論、集団への政策的アプローチ				
7回	質の挟間を超えて—今後の医療のあり方について				
8回	事例検討				
教科書					
特に指定しない					
参考書					
国民衛生の動向、厚生統計協会					
国民の福祉の動向、厚生統計協会					
保険と年金の動向、厚生統計協会					
オフィスアワー					
随時：アポイントメントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~koueisei/index.php					
E-Mail : koueisei@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
死因究明技術の開発	選択科目	2	通年		987315
講義題目	関連授業課目				
	法医学特論				
担当教員名	履修推奨科目				
木下 博之	法医学特論				
授業の概要					
<p>社会構造やライフスタイルの変化に伴い、近年、法医学の対象である、いわゆる「異状死体」が増加している。これら異状死体の死因究明の重要性についての社会的認識も高くなり、CT 検査の活用など、従来の形態学的検査にとどまらない各種の検査の活用が求められている。さらに、生化学、免疫学、分析化学等を活用した検査についても現場におけるニーズは高く、その適応と限界もふまえた上で、精度の高い死因究明技術の開発に必要な事項とその発展的応用について考えていく。</p>					
授業の目的・達成目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 各種法医学的検査を理解する。 2) 形態学的手法を用いた検査を理解する。 3) 生化学的、免疫学的手法を用いた検査を理解する。 4) 分析化学的手法を用いた検査を理解する。 					
授業及び学習の方法					
<p>講義、見学及びグループ学習。 興味ある病態に関する最新の知見について系統的に文献検索し、考察したものをまとめる。</p>					
成績評価の方法と基準					
レポート、グループ討論などを総合的に評価する。					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> 1 回～2 回 死因究明技術総論 3 回～4 回 法医学的検査概論 5 回～6 回 形態学的検査技術とその応用 7 回～8 回 分析化学的検査技術とその応用 9 回～1 0 回 免疫学的検査の各種病態への応用 1 1 回～1 2 回 生化学検査の各種病態への応用 1 3 回～1 4 回 画像診断技術の応用 1 5 回 簡易検査の応用と技術開発 					
教科書					
特に指定なし					
参考書					
Madea B. Handbook of Forensic Medicine					
オフィスアワー					
随時：アポイントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail :					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
タンパク質分子設計	選択科目	2	通年		987316
講義題目	関連授業課目				
立体構造情報に基づくタンパク質と酵素阻害剤の分子設計	生体分子立体構造学				
担当教員名	履修推奨科目				
神鳥 成弘 (総合生命科学研究センター) 吉田 裕美 (総合生命科学研究センター)	生体分子立体構造学				
授業の概要					
近年、タンパク質の立体構造解析例が飛躍的に増加し、そこから得られる情報は、生命科学の進歩に多大に貢献している。本講義では、タンパク質の立体構造の基礎から始め、立体構造情報に基づくタンパク質の機能改変を目指した研究、および創薬を目指した酵素阻害剤の合成研究について、紹介し、分子設計の理解を深める。					
授業の目的・達成目標					
(1) タンパク質の立体構造を分子グラフィックス上に表示し、構造的特徴について説明できるようになる。 (2) タンパク質および酵素阻害剤の分子設計に関する論文を読むことができるようになる。					
授業及び学習の方法					
本講義は、講義とコンピューターを使った演習を効果的に混ぜながら行う。					
成績評価の方法と基準					
講義の受講状況 (積極性等) および講義の最終日に行うプレゼンテーションにて理解度の判定を行う。					
授業計画					
(1) タンパク質の立体構造の基礎 (2) 基本的なパイオインフォマティックスの手法1 (3) 基本的なパイオインフォマティックスの手法2 (4) 分子グラフィックスの使用法1 (5) 分子グラフィックスの使用法2 (6) 変異タンパク質の合成方法 (7) タンパク質の機能改変を目指した変異タンパク質の合成研究1 (8) タンパク質の機能改変を目指した変異タンパク質の合成研究2 (9) 構造に基づく医薬品設計におけるX線結晶解析 (10) フラグメント化合物に基づく構造を指標とする創薬 (11) 構造に基づく医薬品設計の事例1 (12) 構造に基づく医薬品設計の事例2 (13) 構造に基づく医薬品設計の事例3 (14) 構造に基づく医薬品設計の事例4 (15) プレゼンテーションとフリーディスカッション					
教科書					
資料を配布する。					
参考書					
「ドッキングデザイン 構造とリガンドに基づくアプローチ」, K. Merz, D. Ronge, C. Reynolds/編集, 田之倉, 小島/監訳 (東京化学同人)					
オフィスアワー					
各授業終了後、あるいはメールにて随時。					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~xraylab					
E-Mail : kamitori@med.kagawa-u.ac.jp , h.yoshi@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
精神神経疾患の創薬科学	選択科目	4	通年		987317
講義題目	関連授業課目				
	神経細胞生物学特論				
担当教員名	履修推奨科目				
山本 融、宮下 信泉	特になし				
授業の概要					
<p>神経系は再生能には乏しいものの、1度形成されると種によっては100年以上にもわたってその機能を維持し続けることができる。しかしながら、こうした顕著な機能維持機構も、加齢や外的侵襲による破綻や制御系の異常により各種の神経変性疾患・精神神経疾患が発症する。本授業科目では、基礎生物学的な観点から、正常な神経回路網の成り立ちとその維持機構について講述するとともに、分子病態についての解析が比較的進んでいる疾患について解説する。さらに、こうした知見を得るに至った解析について実際の実験事実に基づいて理解するとともに、治療薬開発を目指して進められている研究に関する最新の知見を自ら把握する力を育む。</p>					
授業の目的・達成目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経回路網の形成・維持の分子機構を説明できる。 2. 神経変性疾患・精神神経疾患において共通に認められる分子病態を説明できる。 3. 神経変性疾患・精神神経疾患の分子病態解明をめざした解析がどのように進められているかを理解できる。 4. 上記の理解に基づいて論文の内容を正しく把握し、紹介することができる。 					
授業及び学習の方法					
講義・試問および論文講読とプレゼンテーションによる。					
成績評価の方法と基準					
出席・試問・プレゼンテーション等を総合的に判断する。					
授業計画					
<p>第1回～第3回 神経の発生 第4回～第6回 軸索伸長と標的認識機構 第7回～第9回 中枢神経系の形成 第10回～第12回 神経回路網の形成とその制御 第13回～第15回 神経機能維持の分子機構 第16回～第18回 神経細胞死とその誘発・保護機構 第19回～第20回 神経変性疾患の発症機構Ⅰ（パーキンソン病・パーキンソン症候群） 第21回～第22回 神経変性疾患の発症機構Ⅱ（ポリグルタミン病・アルツハイマー型認知症） 第23回～第24回 精神神経疾患の病態生理（統合失調症・自閉スペクトラム症） 第25回～第27回 精神変性疾患治療薬の創薬と課題 第28回～第30回 精神神経疾患治療薬の創薬と課題</p>					
教科書					
特に定めないが、下記参考書記載の図版を随時利用する。					
参考書					
<ul style="list-style-type: none"> ・Molecular Biology of the Cell (Garland Science) ・Principles of Neural Science (McGraw-Hill) 					
オフィスアワー					
随時受け付けるので、電子メール等であらかじめ在室を確認されたい。					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail : tohru@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
臨床アウトカムとしてのQOL評価の応用	選択科目	1	前期		987318
講義題目	関連授業課目				
皮膚病と患者QOL					
担当教員名	履修推奨科目				
窪田 泰夫					
授業の概要					
<p>多くの皮膚疾患は生命予後にかかわる致命的ではないものの、他人の視線に触れやすことから患者の社会生活や精神心理面への影響は決して軽いものではない。その客観的指標の一つがQOL評価である。近年、その臨床応用が皮膚科領域でも積極的に行われるようになった。ここでは代表的皮膚病における患者QOL評価の意義や解析方法を学び、臨床アウトカムとしての役割を理解することを目的とする。</p>					
授業の目的・達成目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 臨床アウトカムとしてのQOL評価の意義について理解する。 2) 包括的QOLと皮膚病特異的QOLについて理解する。 3) 各種皮膚病患者のQOLを評価し、治療介入によるQOL変化を理解する。 					
授業及び学習の方法					
<ol style="list-style-type: none"> 1) QOL評価の意義と包括的QOLと皮膚病特異的QOLについて文献検索を行い、学習する。 2) 治療介入前後のQOL評価の解析を自ら行い、統計学的解析手法を学習する。 3) 各種皮膚疾患のQOLを検討し、健常人や他領域疾患の患者QOLと比較する。 					
成績評価の方法と基準					
出席状況に及び、提出されたレポートをあわせて総合評価する。					
授業計画					
第1回 QOL評価とその意義 第2回 包括的QOLと皮膚病特異的QOLについて 第3回 包括的QOLとしてのSF-36について 第4回 皮膚病特異的QOLとしてのDLQIについて 第5回 アトピー性皮膚炎患者とQOL 第6回 ざ瘡患者とQOL 第7回 尋常性乾癬患者とQOL 第8回 蕁麻疹患者とQOL					
教科書					
新しい皮膚科学 (出版社：中山書店、著者：清水宏)					
参考書					
皮膚心療内科 (出版社：診断と治療社、著者：宮地良樹、久保千春)					
オフィスアワー					
随時質問・相談の時間を設ける (Eメールによる質問も可)					
履修上の注意					
特になし					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp					
E-Mail : kubotay@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
臨床アウトカムとしての画像解析システム	選択科目	1	後期		987319
講義題目	関連授業課目				
皮膚の画像解析とその応用					
担当教員名	履修推奨科目				
窪田 泰夫					
授業の概要					
皮膚疾患の病態解明や診断、治療効果判定における各種の画像解析の意義とその方法について理解する。具体的には皮膚の色素病変の診断におけるデルマトスコープの意義とその応用、シワ解析に用いるレプリカ法の意義と応用、アンテラ3Dを用いた皮膚表面解析の意義と応用、また皮膚病変に対する他人の視線を解析するアイトラッキング法についても学ぶ。さらに日常の皮膚科診療の現場への画像解析の貢献と、今後の課題についても考察する。					
授業の目的・達成目標					
1) 色素病変の診断におけるデルマトスコープの意義とその応用を理解する。 2) シワ解析に用いるレプリカ法の意義と応用を理解する。 3) アンテラ3Dを用いた皮膚表面の解析の意義と応用を理解する。 4) アイトラッキング法の意義と応用を理解する。					
授業及び学習の方法					
1) 皮膚の色素病変に対するデルマトスコープを用いた鑑別方法を自ら学習する。 2) 老化によるシワにレプリカ法を自ら行い、その画像解析法を自ら学習する。 3) 各種皮膚病の性状に対しアンテラ3Dを用いた皮膚表面の解析法を自ら学習する。 4) アイトラッキング法を用いて皮膚病変に対する他人の視線の解析法を自ら学習する。					
成績評価の方法と基準					
出席状況に及び、提出されたレポートをあわせて総合評価する。					
授業計画					
第1回 正常皮膚の構造 第2回 皮膚の画像解析と組織学的所見との相関 第3回 各種の画像解析装置と統計学的処理方法 第4回 色素病変の診断におけるデルマトスコープ 第5回 レプリカ法を用いたシワ解析とその応用 第6回 アンテラ3Dを用いた皮膚表面の解析とその応用 第7回 アイトラッキング法を用いた視線解析とその応用 第8回 皮膚科診療における画像解析の今後の課題					
教科書					
新しい皮膚科学 (出版社: 中山書店、著者: 清水宏)					
参考書					
授業ごとに関連文献を提供する予定					
オフィスアワー					
随時質問・相談の時間を設ける (Eメールによる質問も可)					
履修上の注意					
特になし					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp					
E-Mail : kubotay@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
睡眠（終夜脳波システム）の臨床開発	選択科目	4	通年		987320
講義題目	関連授業科目				
	精神病学 神経病学				
担当教員名	履修推奨科目				
中村 祐、角 徳文、安藤 延男	精神病学 神経病学				
授業の概要					
睡眠構造や睡眠覚醒リズムの評価法の理解、習得					
授業の目的・達成目標					
1) 睡眠の生理学や睡眠障害の症候学・病態生理学・治療学を修得する。 2) PSG及びMSLTの手技を習得する。					
授業及び学習の方法					
講義、実習形式で行う					
成績評価の方法と基準					
レポートを提出する。 習得していると認めた場合に単位修得とする。					
授業計画					
講義（15回） 1- 2. 生理的な睡眠構造と睡眠覚醒リズム 3- 5. 睡眠ポリグラフ検査（PSG）、反復睡眠潜時検査（MSLT）など睡眠医学的検査 6- 7. 不眠症の病態と治療 8- 9. 過眠症の病態と治療 10-11. 睡眠時随伴症の病態と治療 12-13. 睡眠覚醒リズム障害の病態と治療 14-15. 老年期における睡眠障害の病態と治療 実習（実習時間は計45時間） 1. 睡眠ポリグラフ（PSG）や反復睡眠潜時検査（MSLT）の手技を習得する。 2. PSG、MSLTの解析と評価手法を習得する。					
教科書					
「睡眠学」 日本睡眠学会編 朝倉書店 ISBN：978-4-254-30090-1					
参考書					
Principles and Practice of Sleep Medicine (6 th Edition) Elsevier, (Kryger MH, et al.) ISBN:978-0-323-24288-2					
オフィスアワー					
随時: アポイントメントにより質問を受け付ける					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail :					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
認知症診断の技術研究	選択科目	4	通年		987321
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
中村 祐、角 徳文、安藤 延男	精神病学・神経病学				
授業の概要					
講義を中心として認知症疾患の病態の理解度を深め診断の技術研究を行う。					
授業の目的・達成目標					
認知症の原因疾患の病態を改めて確認する。その上で、各原因疾患の病態に基づく合理的な認知症診断技術の向上を目指す。					
授業及び学習の方法					
各領域における基本的知識の確認を行うとともに、最新の基礎的、臨床的知見を文献的に検索し系統的に要約を行う。					
成績評価の方法と基準					
レポートによる評価を行う。					
授業計画					
第1回 臨床に必要な神経解剖、生理	第15～17回	神経心理学的検査			
第2回 臨床に必要な症候学	第18～19回	画像検査 (CT, MRI)			
第3～4回 認知症と鑑別すべき疾患	第20～21回	画像検査 (SPECT, PETなど)			
第5～6回 脳血管障害、感染症による認知症	第22～23回	電気生理検査			
第7～8回 神経変性疾患 (1)	第24～25回	神経病理			
第9～10回 神経変性疾患 (2)	第26～27回	遺伝子診断			
第11～12回 神経変性疾患 (3)	第28～29回	開発中の診断と治療薬			
第13～14回 神経変性疾患 (4)	第30回	まとめ			
教科書					
DSM-5 医学書院 老年精神医学講座 総論・各論 ワールドプランニング					
参考書					
高橋茂樹 (著)、岸本年史 (監修)、STEP精神科、海馬書房、 認知症 神経心理学的アプローチ 中山書店、					
オフィスアワー					
随時：アポイントメントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail :					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
脂質異常症と心血管病	選択科目	4	通年		987322
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
南野 哲男、野間 貴久					
授業の概要					
<p>脂質異常は、糖尿病・高血圧などと並ぶcommon diseaseの1つである。固有の臨床症状を呈することが稀であり、健康診断などの機会に指摘されても治療の意義を正しく理解されていない場合もある。家族性高コレステロール血症は早期診断・治療が必要な疾患の一つであろう。近年、脂質異常治療にもPCSK9阻害薬とMTP阻害薬という全く新しい作用機序の治療薬が登場し、脂質異常症診療は変革期を迎えている。授業には脂質異常の病態生理・診断法・治療法について過去の業績と最近の進歩が含まれる。</p>					
授業の目的・達成目標					
<p>授業の目的と到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ①リポタンパク代謝と血清脂質検査を知る ②脂質異常症の診断と病態評価の進め方を理解する ③原発性脂質異常症と二次性脂質異常症について理解する。 ④疾患と遺伝子変異について知る。 ⑤既存の治療方法を理解する。 ⑥新たな治療の可能性、研究課題を知る 					
授業及び学習の方法					
<p>上記目標項目に対し、講義形式と論文・文献による自主的な学習を行う。 毎週月曜日 15時～16時30分 スモールグループディスカッション</p>					
成績評価の方法と基準					
出席状況に及び、提出されたレポートを合わせて総合評価する。					
授業計画					
<p>毎週月曜日 15時～16時30分</p> <p>第1回～第2回 ①リポタンパク代謝と血清脂質検査を知る。</p> <p>第3回～第4回 ②脂質異常症の診断と病態評価の進め方を理解する</p> <p>第5回～第6回 ③原発性脂質異常症と二次性脂質異常症について理解する。</p> <p>第7回～第8回 ④疾患と遺伝子変異について知る。</p> <p>第9回～第10回 ⑤既存の治療方法を理解する。</p> <p>第11回～第12回 ⑥新たな治療の可能性、研究課題を知る</p> <p>第13回～第30回 テーマ決定 研究計画、演習</p>					
教科書					
<p>日本動脈硬化学会：動脈硬化性疾患予防のための脂質異常症治療ガイド2013年版 Catapano AL, et al. 2016 ESC/EAS Guidelines for the Management of dyslipidemias. Eur Heart J 37:2999-3058, 2016</p>					
参考書					
<p>臨床研究の道標 7つのステップで学ぶ研究デザイン：福原俊一著 認定NPO法人 健康医療評価研究機構 (iHope International) 発行2013</p>					
オフィスアワー					
8時30分から17時 随時質問・相談の時間を設ける (Eメールによる質問も可)					
履修上の注意					
病院内では白衣着用とする					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~ninai/circulation/index.html					
E-Mail : 南野哲男教授 minamino@med.kagawa-u.ac.jp 医局 : ninai@med.kagawa-u.ac.jp					
1 :					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
食塩感受性高血圧モデルの臨床応用	選択科目	2	通年		987323
講義題目	関連授業課目				
食塩感受性高血圧モデルの臨床応用					
担当教員名	履修推奨科目				
南野 哲男、野間 貴久					
授業の概要					
食塩感受性高血圧ラットを用いて食塩 感受性高血圧の分子機序を解明し、分子特異的標的薬を高血圧に対する新規治療薬・予防薬として臨床応用することを目指す。臨床研究と最新技術を駆使した腎臓病領域の基礎研究の実際を知ることで基礎臨床研究の立案、実施の実際に触れる。					
授業の目的・達成目標					
食塩感受性高血圧モデルについての知識を深めることを目的とし、到達目標は腎臓疾患に関する基礎臨床研究の立案に必要な研究リテラシーを確立することである。					
授業及び学習の方法					
講義形式、スモールグループディスカッション(SGD),					
成績評価の方法と基準					
口頭試問にて知識が十分に達成目標に到達しているかを評価する。 到達目標が十分でない場合、授業終了後2週間以内に講義演習の内容についてのレポートの提出を求める					
授業計画					
第1回～第5回 CKDデータベースを用いた臨床研究の立案と実施					
第6回～第15回 食塩感受性高血圧ラットを用いた食塩感受性高血圧の分子機序解明					
教科書					
Brenner and Rector's The Kidney: Expert Consult - 2-Volume Set, 10e, 2015					
参考書					
臨床研究の道標 7つのステップで学ぶ研究デザイン 福原俊一著 認定NPO法人 健康医療評価研究機構 (iHope International) 発行2013					
オフィスアワー					
8時30分から17時					
履修上の注意					
URL : http://kagawa-ninai.jp/					
E-Mail : ninai@med.kagawa-u.ac.jp , sofue@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
周産期の脳発達と子供の健康	選択科目	4	通年		987324
講義題目	関連授業課目 発達神経科学、分子神経病理学				
担当教員名	履修推奨科目				
三木 崇範、日下 隆					
授業の概要					
周産期の脳発達障害に起因する疾患を理解するために、脳の発達や機能の基礎医学的知見に立脚した視点で臨床医学の事象を洞察できる能力を養える学際的授業を行う。					
授業の目的・達成目標					
ヒトの脳発達の特徴を基礎医学の観点から理解した上で、周産期の脳発達障害に起因する疾患の原因に対する理解と、子供の健康増進の認識を深める。					
授業及び学習の方法					
オムニバス形式の講義と演習で行われる。授業は綿密な打ち合わせにより行われるため一貫性のある内容で行われる。授業内容を中心とした学習に加え、自ら探求する学習姿勢が望まれる。					
成績評価の方法と基準					
出席、レポートなどで総合評価する。					
授業計画					
1) 発達神経科学 【第 1- 8回】 基礎医学の立場から、神経系の発達を遺伝子レベルから行動までを双方向的視座で解説する。 2) 発達小児科学 【第 9-16回】 発達神経科学の基礎医学的知識を基盤として、周産期、新生児期の脳発達と疾病との関連を解説する。 3) 小児病態神経学 【第17-25回】 病態生理学的見地からの、乳児期以降に認められる身体的および精神的発達障害の病因や、周産期との関連性を解説する。 4) 臨床学的発達小児診断学 【第26-29回】 実際の身体的および精神的発達障害の診断、治療に関する臨床的実習を、主治医と一緒に学ぶ。 5) まとめ 【第30回】 脳発達機構の解明と基礎—臨床医学の学際的視点からの総括 *基礎医学と臨床医学を区別することなく学際的視点で、脳発達を基盤に脳が統合する臓器の発達と疾病の成り立ちについて学ぶ。					
教科書					
Avery's Diseases of the Newborn E-Book Saunders; 9版 上記のほか適宜紹介する。					
参考書					
特に定めないが、以下を推薦する。 Volpe's Neurology of the Newborn、Elsevier; 6版					
オフィスアワー					
特別には定めない。担当教員に適宜アポイントメントをとりコンタクトをとること。					
履修上の注意					
URL: http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail: mikit@med.kagawa-u.ac.jp, kusaka@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
高速液体クロマトグラフィーの臨床応用	選択科目	2	通年		987325
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
日下 隆、岡田 仁					
授業の概要					
高速液体クロマトグラフィーの原理、装置の構成、解析方法など講義し実習を行う。 検出機器として紫外/可視分光光度法や質量分析法の原理や同定法について講義実習を行う。					
授業の目的・達成目標					
1) クロマトグラフィーの原理を理解し説明できる。 2) 各種の検出法の長所と短所を理解し説明できる。 3) 臨床検体の前処理について理解し説明できる。 4) 臨床応用について考えることができる。					
授業及び学習の方法					
各項目の講義を行い、実習を行う。実習では機器の操作上の注意点について説明の後物質の定性定量を行う。					
成績評価の方法と基準					
講義への出席、演習への参加などにより評価					
授業計画					
第1-3回、高速液体クロマトグラフィーの原理 第4-6回、移動層の選定、カラムの性質と選定 第7-9回、分離モードについて、吸光高度法と質量分析計について 第10-15回、実習講義と実習（ビリルビンの分画、ステロイド、薬物など）					
教科書					
プリント配布					
参考書					
著者庄野利之ら。入門機器分析化学。三共出版。					
オフィスアワー					
随時、アポイントメントにより質問、議論の時間を設定する。					
履修上の注意					
計測機器、試薬などは指導教官の指導の下に使用すること。					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail : syounika@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
近赤外線分光法を用いた臨床研究	選択科目	2	通年		987326
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
日下 隆、岡田 仁					
授業の概要					
<p>近赤光とは生体透過性の強い波長領域（600－900nm）であり、脳、筋肉、乳房、肝臓における循環、酸素代謝の計測が可能である。この測定方法は安全な光を利用しているため非侵襲的な生体計測が可能であり、短時間での測定が可能であるため脳機能評価にも応用されている。</p> <p>本授業では、近赤光を用いた生体計測に関する、原理的な理解と応用方法についての最新の見に基づき講義を行う。そして実習においては、各種の計測機器の操作方法を習得し、測定方法有用性と限界を理解するとともに、今後の研究課題を論議する。</p>					
授業の目的・達成目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 近赤外光測定の原理を理解できる。 2) 各種の近赤外光測定の長所と短所を理解できる。 3) 生体計測応用方法を理解できる。 4) 新たな研究方法の手段として、応用方法を考えることができる。 					
授業及び学習の方法					
講義 各種の近赤外光測定に関する基礎的、臨床的研究に関する論文を検索し、系統的に要約を作成する。					
成績評価の方法と基準					
レポートの評価					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> (1) Principle of optical measurements (2) Principle of near-infrared spectroscopy (3) Near-infrared topography (4) Near-infrared time-resolved spectroscopy (5) Near-infrared optical tomography (6) Oxygen metabolism in infants and adults (7) Cerebral hemodynamic changes in infants - cerebral blood flow and cerebral blood volume (8) Cerebral functional assessments in infant - visual (9) Cerebral functional assessments in infant - auditory (10) Cerebral functional assessments in infant - olfactory (11) Cerebral functional assessments in infant - sensory and motor (12) Pathophysiology and oxygen metabolism of brain damage in infant - Hypoxic-ischemic encephalopathy (13) Pathophysiology and oxygen metabolism of brain damage in infant - Intraventricular hemorrhage and Periventricular leukomalacia (14) Bilirubin metabolism in infant-assessments for hepatic function (15) Assessments for Muscle and Breast functions 					
教科書					
特になし。					
参考書					
特になし。					
オフィスアワー					
随時、アポイントメントにより質問、論議の時間を設定する。					
履修上の注意					
計測機器は、指導教官の指導の下に操作を行うこと。					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail : kusaka@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
骨軟部腫瘍研究の臨床応用	選択科目	4	通年		987327
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
山本 哲司、真柴 賛					
授業の概要					
骨軟部腫瘍の疾患体系をしり、それぞれの臨床的特徴と組織学的特徴について理解を深める。骨腫瘍の分類と画像診断上特徴について知る。軟部腫瘍の疾患体系を分類し、発生学的もしくは分化傾向によって鑑別を行う。悪性骨軟部腫瘍の治療系について知り、予後に影響のある因子を文献的に解析を行う。					
授業の目的・達成目標					
1) 骨腫瘍の分類体系を理解し画像診断を行える。 2) 骨腫瘍の組織学的鑑別ができる。 3) 軟部腫瘍の分類体系を理解し画像診断を行える。 4) 軟部腫瘍組織学的鑑別ができる。 5) 悪性骨軟部腫瘍の治療体系が理解できる。					
授業及び学習の方法					
典型的な骨軟部腫瘍の画像診断を供覧する。 それぞれの骨軟部腫瘍の組織学的特徴、免疫組織化学染色の特徴、超微形態について概説する。					
成績評価の方法と基準					
提出されたレポートと出席回数によって総合的に判断する。					
授業計画					
1－4回 骨腫瘍の画像診断 5－8回 骨腫瘍の病理診断 9－12回 骨腫瘍の治療体系 13－16回 軟部腫瘍の画像診断 17－20回 軟部腫瘍の病理診断 21－24回 軟部腫瘍の治療体系 25－28回 骨軟部腫瘍の免疫組織化学染色 29－30回 骨軟部腫瘍の電子顕微鏡的診断					
教科書					
分子細胞生物学基礎実験法 南江堂 改訂第2版					
参考書					
オフィスアワー					
随時アポイントメントにより質問を受け付ける。					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~orthop/					
E-Mail : sanutetu@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
前立腺がんの新規マーカーの開発	選択科目	2	通年		987328
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
寛 善行					
授業の概要					
<p>前立腺がん患者数は増加の一途をたどっている。わが国では2015年にはついに胃がん、肺がんを抜いて男性がんの罹患数で前立腺がんがトップになった。食生活の欧米化や人口の高齢化も罹患数増加の要因であるが、なかでも前立腺特異抗原（PSA）の普及が大きな影響をおよぼしていることは間違いない。だが一方、PSAは炎症や良性の前立腺肥大症においても変動する非特異的なマーカーである。さらにPSAでは前立腺がんの悪性度の評価は困難である。つまりPSAIは感度・特異度および治療の可否を決定する悪性度の判定という意味では十分に有用なマーカーとはいえない。</p> <p>現在、このPSAの欠点を補うべくいくつかの新たな前立腺がんマーカーが開発されつつある。ここでは研究段階のものから臨床応用されつつあるマーカーについて理解を深めることを目的とする。</p>					
授業の目的・達成目標					
<p>講義内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 前立腺がんの病態に関する知識の包括的整理を行う。現在の診断方法の問題点を明らかにし、新規マーカーの必要性を理解する。 2) 現在開発中のマーカーから、臨床応用されつつあるものまでを網羅的に検討し、それぞれの特性を理解する。 					
授業及び学習の方法					
講義形式					
成績評価の方法と基準					
目標到達が不十分だと判断した場合には、2,000字以内のレポートを提出して理解の程度を判定する。					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 前立腺がんの診断・治療についての一般的な知識についての講義（1～7回） 2) 新規マーカー開発の現状と今後の展望についての講義（8～15回） 					
教科書					
特になし					
参考書					
前立腺癌診療ガイドライン2016					
オフィスアワー					
9:00-20:00					
履修上の注意					
特になし					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail : micsugi@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
低侵襲手術術式の開発	選択科目	2	通年		987329
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
寛 善行					
授業の概要					
<p>内視鏡手術やロボット手術など、医療機器テクノロジーの進歩によって患者の身体的負担は劇的に少なくなってきた。また近年は癌患者の増加や平均寿命の延長により、高齢者にも積極的に手術が適応されるようになってきている。そのためさらに侵襲が少ない、早期の社会復帰が可能な手術方法が要求されてきている。低侵襲性は当然のこと、手術自体の完成度や安全性、癌の手術であれば制癌効果も高いレベルで担保されなくてはならない。</p> <p>この科目では高齢者癌治療を題材にして、現在の手術の適応や方法の問題点、手術低侵襲化の歴史、現在開発中の新規手術方法コンセプト等を理解することを目的とする。また、現在実施されているロボット手術について実際の手術動画を用いて解説する。</p>					
授業の目的・達成目標					
<p>講義内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者癌治療の現状、低侵襲手術の歴史 2) 開発中の低侵襲手術とロボット手術の実際 					
授業及び学習の方法					
講義形式					
成績評価の方法と基準					
目標到達が不十分だと判断した場合には、2,000字以内のレポートを提出して理解の程度を判定する。					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 人口の高齢化と高齢者手術の必要性および低侵襲治療の歴史 (1～7回) 2) 高齢者癌治療における術前評価、開発中の低侵襲手術とロボット手術の実際について動画を用いて講義 (8～15回) 					
特になし					
参考書					
特になし					
オフィスアワー					
9:00-20:00					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail : micsugi@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
癌とマイクロRNA	選択科目	2	通年		987330
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
正木 勉 出口 一志					
授業の概要					
マイクロRNAに小分子RNAであり、さまざまな癌の発生、進展に関与していることを講義する。さらに、これに関する論文をできるだけ読み、さらにマイクロRNAに関する論文をできるだけ読み、マイクロRNAに関する実験の見学をする					
授業の目的・達成目標					
1. マイクロRNAと癌の発生、進展の関与について理解する 2. マイクロRNAの実験手法について理解する					
授業及び学習の方法					
最近、出版された論文を用いての講義とマイクロRNAの実験手法についての見学					
成績評価の方法と基準					
レポート提出により評価する					
授業計画					
(1) マイクロRNAと癌の発生、進展の関与についての講義 I (2) マイクロRNAと癌の発生、進展の関与についての講義 II (3) マイクロRNAと癌の発生、進展の関与についての講義 III (4) マイクロRNAと肝癌 (5) マイクロRNAと胆のう癌 (6) マイクロRNAと膀胱癌 (7) マイクロRNAと大腸癌 (8) マイクロRNAと胃癌 (9) マイクロRNAと食道癌 (10) メトホルミンの癌の抑制とマイクロRNA I (11) メトホルミンの癌の抑制とマイクロRNA II (12) メトホルミンの癌の抑制とマイクロRNA III (13) gal-9の癌の抑制とマイクロRNA I (14) gal-9の癌の抑制とマイクロRNA II (15) マイクロRNAの網羅的解析（組織、血清）の実験手法の見学					
教科書					
特に必要としない					
参考書					
特に必要としない					
オフィスアワー					
随時アポイントメントにより質問の時間を設ける					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/ E-Mail : sannai@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
癌と遺伝子異常	選択科目	2	通年		987331
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
正木 勉 出口 一志					
授業の概要					
癌の発生と遺伝子異常についての講義とG-WASを用いた癌の遺伝子異常の実験手法を見学する					
授業の目的・達成目標					
1. 癌と遺伝子異常の講義 2. G-WASの実験手法見学					
授業及び学習の方法					
スライドを用いた講義を行い、G-WASの実験手法の見学					
成績評価の方法と基準					
レポート提出により評価する					
授業計画					
(1) 癌と遺伝子異常についての講義 I (2) 癌と遺伝子異常についての講義 II (3) 肝癌と遺伝子異常 (4) 膵癌と遺伝子異常 (5) 胆嚢癌と遺伝子異常 (6) 胃癌と遺伝子異常 (7) 大腸癌と遺伝子異常 (8) 食道癌と遺伝子異常 (9) 胆管細胞癌と遺伝子異常 (10) 遺伝子異常をベースにした治療の講義 (11) G-WASを用いた実験手法の見学 I (12) G-WASを用いた実験手法の見学 II (13) G-WASを用いた実験手法の見学 III (14) G-WASを用いた実験手法の見学 IV (15) G-WASを用いた実験手法の見学 V					
教科書					
特に必要としない					
参考書					
特に必要としない					
オフィスアワー					
随時アポイントメントにより質問の時間を設ける					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail : sannai@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
分子イメージングの臨床応用	選択科目	4	通年		987332
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
西山 佳宏、山本 由佳					
授業の概要					
分子イメージングとは、生体内で起こる様々な生命現象を外部から分子レベルで捉えて画像化することであり、生命の統合的理解を深める新しい研究分野である。分子イメージングとして代表的なポジトロン断層撮影(PET)を主として原理や測定方法、データ解析などについて学ぶ。					
授業の目的・達成目標					
PETなど分子イメージング法を用いて、脳、腫瘍、心臓などの機能を画像化するために、その原理や測定方法、データ解析などについて理解し、実際のデータ収集に参加し、解析を行う能力を習得する。					
授業及び学習の方法					
実際の臨床例を題材としてプレゼンテーションを行い、実際のデータ収集、データ解析を行う。					
成績評価の方法と基準					
データ解析の発表などをもって評価する。					
授業計画					
第1回－第3回：PETの原理 第4回－第6回：測定方法 第7回－第9回：データ解析法 第10回－第15回：中枢神経の分子イメージング 第16回－第20回：循環器の分子イメージング 第21回－第30回：腫瘍の分子イメージング					
教科書					
分かりやすい核医学					
参考書					
核医学テキスト					
オフィスアワー					
随時					
履修上の注意					
URL： http://www.med.kagawa-u.ac.jp					
E-Mail： radiol@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
動脈硬化症への遺伝子治療	選択科目	4	通年		987333
講義題目	関連授業課目				
HDL代謝賦活による遺伝子治療					
担当教員名	履修推奨科目				
村尾 孝児、井町 仁美					
授業の概要					
<p>HDL はコレステロール逆転送系を介して抗動脈硬化作用を発揮することが知られている。最近の報告によれば、肝臓における HDL 受容体遺伝子の発現レベルは、マクロファージにおける cholesterol efflux と相関すると報告された。我々は HDL 受容体遺伝子を肝臓に発現させることで HDL からのコレステロール転送を促進し、コレステロール逆転送系を賦活することで動脈硬化症の治療を目的としている。本授業は、方法論を中心に最近遺伝子治療法について学習する。</p>					
授業の目的・達成目標					
遺伝子治療方法の習得を目標とする					
授業及び学習の方法					
座学としての動脈硬化学、実習としての遺伝子導入方法の実習を行う					
成績評価の方法と基準					
口頭試問及び実技の評価					
授業計画					
<p>第1～4回 動脈硬化のメカニズム 第5～8回 脂質代謝異常と動脈硬化 第9～15回 動脈硬化に対する遺伝子治療の概論 第16～23回 動脈硬化に対する遺伝子治療の各論 実習 第1～5回 血管内皮細胞の培養 第6～10回 動脈硬化モデルマウスの作成実験 第11～15回 動脈硬化に対する遺伝子導入</p>					
教科書					
Williams Textbook of ENDOCRINOLOGY					
参考書					
Therapy for atherosclerosis					
オフィスアワー					
水曜日 午後13 - 18時 随時アポイントによる質問をうける					
履修上の注意					
講義で学んだことを、学生自身の研究テーマへ応用するように考えること。					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail : mkoji@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
病理診断学の臨床応用	選択科目	4	通年		987334
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
羽場 礼次					
授業の概要					
癌細胞の組織学的な形態変化を知り、様々な病変の組織学的な特徴について理解を深める。病理組織診断時に併用される特殊染色や免疫組織化学、蛍光抗体、電子顕微鏡的な補助診断法を学ぶ。また、組織学的な癌の予後判定や治療効果判定について理解する。					
授業の目的・達成目標					
(1) 腫瘍の定義と分類法を理解する。 (2) 癌の組織学的な形態像を理解する。 (3) 癌の予後や治療効果判定法を理解する。 (4) 特殊染色、免疫組織化学、蛍光抗体、電子顕微鏡的な手法を理解する。					
授業及び学習の方法					
講義において様々な病変や腫瘍の組織形態像について基礎から学ぶ。 演習や実習では、実際の組織標本を用いて組織診断学の知識を獲得する。					
成績評価の方法と基準					
レポートと出席により総合的に判断する。					
授業計画					
(1) 組織診断の現状と役割 (2) 組織の形態と機能 (3) 組織標本作製の実際 (4) 特殊染色の実際 (5) 免疫染色の実際 その1 (技術) (6) 免疫染色の実際 その2 (組織型の判定) (7) 免疫染色の実際 その3 (治療薬の評価) (8) 蛍光抗体の実際 その1 (技術) (9) 蛍光抗体の実際 その2 (病理学的判定) (10) 電子顕微鏡の実際 その1 (技術) (11) 電子顕微鏡の実際 その2 (病理診断への応用) (12) 病理正常組織 その1 (呼吸器) (13) 病理正常組織 その2 (消化器) (14) 病理正常組織 その3 (泌尿器) (15) 病理正常組織 その4 (婦人科) (16) 腫瘍の定義 (17) 腫瘍の分類 (18) 肺癌の切り出し法 (19) 肺癌の病理組織学的分類 その1 (腺癌、扁平上皮癌、小細胞癌) (20) 肺癌の病理組織学的分類 その2 (大細胞癌、神経内分泌癌、特殊型) (21) 肺癌の細胞像と評価法 (22) on site cytologyの実際 (23) 肺癌の病理診断と分子標的治療薬 (24) 肺癌の予後判定 (25) 肺癌の治療効果判定 (26) 演習1 (肺癌の病理組織学的判定) (27) 演習2 (肺癌の細胞学的判定) (28) 演習3 (肺癌の予後判定) (29) 演習4 (肺癌の治療効果判定) (30) 最終的な授業のまとめの提出と評価					
教科書					
1. 坂本穆彦、他(編). 標準病理学、第4版. 医学書院、2015. 2. 牛木辰男、他(編). カラー図解 人体の正常構造と機能 I 呼吸器. 日本医事新報社 2002. 3. 向井清、他(編). 外科病理学、第4版. 文光堂. 2006. 4. 日本肺癌学会(編): 臨床・病理 肺癌取扱い規約、第8版. 金原出版、2017.					

参考書
特に指定せず、必要に応じてその都度推薦の予定。
オフィスアワー
随時アポイントメントにより質問をうけつける。
履修上の注意
自らの研究テーマへの応用を考えながら履修すること。
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/
E-Mail : haba@kms.ac.jp

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
神経保護薬の臨床開発	選択科目	4	通年		987335
講義題目	関連授業科目				
担当教員名	履修推奨科目				
廣岡 一行					
授業の概要					
神経変性疾患に対する神経保護治療の現状と今後の展望を講義する。					
授業の目的・達成目標					
1) 網膜神経細胞死の機序を理解する。 2) 軸索輸送障害について理解する。 3) 網膜の解剖およびその機能を理解する。					
授業及び学習の方法					
網膜虚血再灌流障害、慢性高眼圧、アルドステロン全身投与における網膜障害モデルの網膜標本の分析的観察。 加齢黄斑変性や緑内障に関する最新の基礎的・臨床的研究に関する文献を検索。					
成績評価の方法と基準					
演習に関しては提出されたレポートを評価する。また実習に関してはグループ討論と提出されたレポートの総合評価。					
授業計画					
1回～ 6回 網膜虚血再灌流障害による細胞死のメカニズム 7回～14回 慢性高眼圧モデルによる細胞死のメカニズム 15回～22回 アルドステロン全身投与による細胞死のメカニズム 23回～30回 各動物モデルにおける細胞死を抑制する薬剤					
教科書					
標準眼科学医学書院					
参考書					
生体の科学 細胞表面受容体 医学書院					
オフィスアワー					
随時：アポイントメントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
特になし					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~ganka/index.htm					
E-Mail : ganka@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
医工融合による医療機器開発	選択科目	1	通年		987336
講義題目	関連授業課目				
	運動器病学、脳神経外科学、口腔病学				
担当教員名	履修推奨科目				
永竿 智久、久富 信之	形態機能学				
授業の概要					
<p>形成外科学においては身体形状の修正を目的として身体のある部位から他の部位に組織移植を行う場合がある。こうした手術においては移植する組織の血流を担保するために、組織に血管を付着させてこれを採取し、移植する母体の血管と吻合を行う。こうした血管の直径は1～2ミリと細く、吻合には相当高度な技術が必要である。複雑な操作を容易にするために種々の機器が開発されてきたが、いかなる身体部位においてもどれも完全に、容易に操作を行うことのできる難易度の手術とは未だ言い難い。これはひとえに手術に用いる機器の開発が遅れているためである。身体部位に応じて血管吻合の方法は全く異なり、おのおのの状況に応じた血管クランプ・血管吻合用鑷子・血管吻合用持針器などが必要である。本講座においてはこうした</p>					
授業の目的・達成目標					
<p>基本的には整形外科や脳外科などの血管吻合を要する臨床診療科において臨床医として外科系診療科に参加している医師を教育の対象とし、手術において直面している問題点を提示してそれに対する十分な解決法の提案を促す。そうした提案の現実性につき工学領域の有識者に意見を諮り、評価された実現可能性に基づき評価を行う。</p>					
授業及び学習の方法					
<p>形成外科における手術見学と、それに伴う手技上の問題点を指摘する。そしてそれを解決するための方法を討議し、計画書に集成する。</p>					
成績評価の方法と基準					
<p>履修者により出された回答の有用性につき形成外科医・工学有識者5人が評点を与え、平均が60点以上の場合には合格とする。</p>					
授業計画					
<p>1～ 2講 形成外科学において行われるマイクロサージェリーにつき座学を受講することにより理解する。 3～ 4講 実際の組織移植の手術に立ち会うことにより、手術における手技の難易度につき理解する。 5～ 6講 手術手技上の問題点を指摘し、その解決法を呈示する。 7～ 8講 実際の機器の設計を行う。</p>					
教科書					
標準形成外科学 (克誠堂)					
参考書					
オフィスアワー					
月曜～金曜 9時～17時					
履修上の注意					
<p>15回の実習の成果は英文論文として集成しますので、英検準1級もしくはTOEIC730点以上の英語力を持つことが履修の基本条件です。</p>					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp					
E-Mail :					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード																
救急・生体侵襲制御	選択科目	2	通年		987337																
講義題目	関連授業課目																				
担当教員名	履修推奨科目																				
黒田泰弘																					
授業の概要																					
<p>神経集中治療は死亡率の減少だけではなく、社会復帰率の増加を目指した急性期（重症）脳障害への治療戦略である。神経集中治療では全身重要臓器（肺、心、腎、肝、血液）と障害脳とのインターアクションが重要である。本講義の総論では脳を意識した全身管理、各論では代表的な疾患別に系統的な管理を学び、診療技術を身につける。そして、最新文献考察を踏まえて研究テーマをみつけデータをとり論文化していくことを目的とする。</p>																					
授業の目的・達成目標																					
<p>1) 二次性脳障害を起こさない全身管理ができる。 2) 代表的疾患別に重要ポイントを外さない神経集中治療が実践できる。 3) 神経集中治療の研究テーマをみつけPICOを作り、論文化することができる。</p>																					
授業及び学習の方法																					
<p>講義および診療を行う。神経集中治療に必要な診療スキルを身につける。最近の基礎的、臨床的研究に関する文献を検索し、系統的に要約を作成し知識を深め、データをとり論文化する。</p>																					
成績評価の方法と基準																					
出席、取得した臨床診療の知識と技術、論文により評価する																					
授業計画																					
<table border="0"> <tr> <td>第1回 神経集中治療：総論</td> <td>第9回 神経集中治療：てんかん重積状態</td> </tr> <tr> <td>第2回 神経集中治療：呼吸管理</td> <td>第10回 神経集中治療：クモ膜下出血</td> </tr> <tr> <td>第3回 神経集中治療：循環管理</td> <td>第11回 神経集中治療：敗血症関連脳障害</td> </tr> <tr> <td>第4回 神経集中治療：代謝栄養管理</td> <td>第12回 神経集中治療：熱中症</td> </tr> <tr> <td>第5回 神経集中治療：脳循環代謝管理</td> <td>第13回 神経集中治療：モニタリング</td> </tr> <tr> <td>第6回 神経集中治療：体温管理療法</td> <td>第14回 神経集中治療：研究の進め方</td> </tr> <tr> <td>第7回 神経集中治療：心拍再開後脳障害</td> <td>第15回 神経集中治療：統括</td> </tr> <tr> <td>第8回 神経集中治療：頭部外傷</td> <td></td> </tr> </table>						第1回 神経集中治療：総論	第9回 神経集中治療：てんかん重積状態	第2回 神経集中治療：呼吸管理	第10回 神経集中治療：クモ膜下出血	第3回 神経集中治療：循環管理	第11回 神経集中治療：敗血症関連脳障害	第4回 神経集中治療：代謝栄養管理	第12回 神経集中治療：熱中症	第5回 神経集中治療：脳循環代謝管理	第13回 神経集中治療：モニタリング	第6回 神経集中治療：体温管理療法	第14回 神経集中治療：研究の進め方	第7回 神経集中治療：心拍再開後脳障害	第15回 神経集中治療：統括	第8回 神経集中治療：頭部外傷	
第1回 神経集中治療：総論	第9回 神経集中治療：てんかん重積状態																				
第2回 神経集中治療：呼吸管理	第10回 神経集中治療：クモ膜下出血																				
第3回 神経集中治療：循環管理	第11回 神経集中治療：敗血症関連脳障害																				
第4回 神経集中治療：代謝栄養管理	第12回 神経集中治療：熱中症																				
第5回 神経集中治療：脳循環代謝管理	第13回 神経集中治療：モニタリング																				
第6回 神経集中治療：体温管理療法	第14回 神経集中治療：研究の進め方																				
第7回 神経集中治療：心拍再開後脳障害	第15回 神経集中治療：統括																				
第8回 神経集中治療：頭部外傷																					
教科書																					
黒田泰弘編 神経集中治療 救急・集中治療vol 28 No 11/12, 2016 総合医学社, Kiwon Lee, The NeuroICU Book, Second Edition (Neurology) 2018 McGraw-Hill Education																					
参考書																					
Kuroda. Neurocritical care update, Journal of Intensive Care 2016, 4:35, Nakashima, et al. Critical care management focused on optimizing brain function after cardiac arrest , Cir J 2017 81 427																					
オフィスアワー																					
講義、診療において随時質問可能です。毎週水曜日13～15時にセミナーを開催しています。																					
履修上の注意																					
積極的に参加、発言してください																					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~emd/																					
E-Mail : kuroday@med.kagawa-u.ac.jp																					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード																																													
臨床栄養・微生物学	選択科目	4	通年		987338																																													
講義題目	関連授業課目																																																	
	小児外科学、微生物ゲノム科学、微生物共生システムと応用																																																	
担当教員名	履修推奨科目																																																	
下野 隆一	小児外科学、微生物ゲノム科学、微生物共生システムと応用																																																	
授業の概要																																																		
小児消化管不全と微生物・栄養の関連について理解する																																																		
授業の目的・達成目標																																																		
小児消化管不全と栄養障害の関連を理解する それらの病態に微生物がどのように関わっているかを理解する																																																		
授業及び学習の方法																																																		
講義 実験見学																																																		
成績評価の方法と基準																																																		
レポート提出																																																		
授業計画																																																		
<table border="0"> <tr> <td>① 小児消化管不全について理解する</td> <td>⑩ 腸管不全合併肝障害(IFALD)について学ぶ</td> <td>⑰ 糞便移植について学ぶ</td> </tr> <tr> <td>② 同上</td> <td>⑪ 同上</td> <td>⑱ 細菌培養法について学ぶ</td> </tr> <tr> <td>③ Hirschsprung病、出病類縁疾患について理解する</td> <td>⑫ 同上</td> <td>⑲ 細菌培養法について学ぶ</td> </tr> <tr> <td>④ 同上</td> <td>⑬ Bacterial Translocation(BT)について学ぶ</td> <td>⑳ 同上</td> </tr> <tr> <td>⑤ 小児経腸栄養療法の特徴について理解する</td> <td>⑭ 同上</td> <td>㉑ qPCR法について学ぶ</td> </tr> <tr> <td>⑥ 同上</td> <td>⑮ 短鎖脂肪酸の働きについて理解する</td> <td>㉒ 同上</td> </tr> <tr> <td>⑦ 小児経静脈栄養法の特徴について理解する</td> <td>⑯ 同上</td> <td>㉓ インピーダンスpHモニターについて理解する</td> </tr> <tr> <td>⑧ 同上</td> <td>⑰ 同上</td> <td>㉔ 同上</td> </tr> <tr> <td>⑨ 腸内細菌叢について理解する</td> <td>⑱ 同上</td> <td>㉕ 消化管内圧について理解する</td> </tr> <tr> <td>⑩ 腸管不全合併肝障害(IFALD)について学ぶ</td> <td>⑲ 同上</td> <td>㉖ 同上</td> </tr> <tr> <td>⑪ 同上</td> <td>⑳ 同上</td> <td>㉗ 腸内細菌叢と栄養の関係性について理解する</td> </tr> <tr> <td>⑫ Bacterial Translocation(BT)について学ぶ</td> <td>㉑ 同上</td> <td>㉘ 同上</td> </tr> <tr> <td>⑬ 同上</td> <td>㉒ 同上</td> <td>㉙ メタゲノム解析について理解する</td> </tr> <tr> <td>⑭ 短鎖脂肪酸の働きについて理解する</td> <td>㉓ 同上</td> <td>㉚ 同上</td> </tr> <tr> <td>⑮ 同上</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>						① 小児消化管不全について理解する	⑩ 腸管不全合併肝障害(IFALD)について学ぶ	⑰ 糞便移植について学ぶ	② 同上	⑪ 同上	⑱ 細菌培養法について学ぶ	③ Hirschsprung病、出病類縁疾患について理解する	⑫ 同上	⑲ 細菌培養法について学ぶ	④ 同上	⑬ Bacterial Translocation(BT)について学ぶ	⑳ 同上	⑤ 小児経腸栄養療法の特徴について理解する	⑭ 同上	㉑ qPCR法について学ぶ	⑥ 同上	⑮ 短鎖脂肪酸の働きについて理解する	㉒ 同上	⑦ 小児経静脈栄養法の特徴について理解する	⑯ 同上	㉓ インピーダンスpHモニターについて理解する	⑧ 同上	⑰ 同上	㉔ 同上	⑨ 腸内細菌叢について理解する	⑱ 同上	㉕ 消化管内圧について理解する	⑩ 腸管不全合併肝障害(IFALD)について学ぶ	⑲ 同上	㉖ 同上	⑪ 同上	⑳ 同上	㉗ 腸内細菌叢と栄養の関係性について理解する	⑫ Bacterial Translocation(BT)について学ぶ	㉑ 同上	㉘ 同上	⑬ 同上	㉒ 同上	㉙ メタゲノム解析について理解する	⑭ 短鎖脂肪酸の働きについて理解する	㉓ 同上	㉚ 同上	⑮ 同上		
① 小児消化管不全について理解する	⑩ 腸管不全合併肝障害(IFALD)について学ぶ	⑰ 糞便移植について学ぶ																																																
② 同上	⑪ 同上	⑱ 細菌培養法について学ぶ																																																
③ Hirschsprung病、出病類縁疾患について理解する	⑫ 同上	⑲ 細菌培養法について学ぶ																																																
④ 同上	⑬ Bacterial Translocation(BT)について学ぶ	⑳ 同上																																																
⑤ 小児経腸栄養療法の特徴について理解する	⑭ 同上	㉑ qPCR法について学ぶ																																																
⑥ 同上	⑮ 短鎖脂肪酸の働きについて理解する	㉒ 同上																																																
⑦ 小児経静脈栄養法の特徴について理解する	⑯ 同上	㉓ インピーダンスpHモニターについて理解する																																																
⑧ 同上	⑰ 同上	㉔ 同上																																																
⑨ 腸内細菌叢について理解する	⑱ 同上	㉕ 消化管内圧について理解する																																																
⑩ 腸管不全合併肝障害(IFALD)について学ぶ	⑲ 同上	㉖ 同上																																																
⑪ 同上	⑳ 同上	㉗ 腸内細菌叢と栄養の関係性について理解する																																																
⑫ Bacterial Translocation(BT)について学ぶ	㉑ 同上	㉘ 同上																																																
⑬ 同上	㉒ 同上	㉙ メタゲノム解析について理解する																																																
⑭ 短鎖脂肪酸の働きについて理解する	㉓ 同上	㉚ 同上																																																
⑮ 同上																																																		
教科書																																																		
標準小児外科第7版 医学書院																																																		
参考書																																																		
Pediatric Surgery(7 th ed)																																																		
オフィスアワー																																																		
9:00-16:00																																																		
履修上の注意																																																		
レポートは単元ごとにまとめること																																																		
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~psurgery/staff/index.html																																																		
E-Mail: shi-mono@med.kagawa-u.ac.jp																																																		

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
希少糖医学	選択科目	1	前期		987401
講義題目	関連授業課目				
希少糖の臨床応用—抗がん作用とそのメカニズム	希少糖の機能				
担当教員名	履修推奨科目				
星川 広史	希少糖と生活習慣病				
授業の概要					
<p>希少糖の生理活性には様々なものがあるが、その中でもD-alloseは各種癌細胞に対して抗腫瘍効果を有することが明らかとなっている。D-alloseの抗腫瘍効果のメカニズムを理解し、臨床に応用するための課題を明らかにし、解決方法を議論する。</p>					
授業の目的・達成目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 希少糖の種類、それぞれの生理活性を理解する。 2) 抗腫瘍効果を有するD-alloseの性質と、抗腫瘍効果のメカニズムを理解する。 3) 現在までに明らかになっている知見をもとに、今後の臨床応用に向けての課題と解決策を議論する。 					
授業及び学習の方法					
<p>講義において配布するプリントやマルチメディアによる情報提供等により学習する。 希少糖に関する最新の基礎的・臨床的研究に関する文献を検索し、系統的に要約を作成する。</p>					
成績評価の方法と基準					
<p>与えられたテーマに関するレポート等により評価する。 合わせて口頭試問を行い、総合的に評価する。</p>					
授業計画					
<p>第1回 希少糖の定義、イズモリングの理解 第2回 希少糖の生理活性 第3回 希少糖と疾病との接点 第4回 希少糖と抗がん作用 第5-8回 D-alloseの各種癌細胞に対する効果と分子機構の検索</p>					
教科書					
参考書					
オフィスアワー					
<p>随時：アポイントにより質問の時間を設ける。</p>					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail : hiro@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
地域医療学	選択科目	1	後期		987402
講義題目	関連授業課目				
地域医療学					
担当教員名	履修推奨科目				
舩形 尚					
授業の概要					
<p>日本の医療は、国際的に高く評価されてきたが、今日各地で地域医療崩壊が叫ばれている。その実態を知り、解決策を見いだすことは重要かつ喫緊の課題である。医療関係者の立場から、現在の地域医療を考察し、国民に安心して安全な質の高い医療提供システムを構築するための方策を考察する。また近年構築されつつある地域包括ケアシステムの問題点について調査検討する。</p>					
授業の目的・達成目標					
<p>香川県の地域医療の実態と問題点を考察し、地域医療システムの実態について調査検討する。地域中核病院の機能、大学病院の機能について考察する。病診連携など地域医療活性化のために必要なシステムを考察する。大学病院の地域連携室の業務を調査検討し、地域包括ケアシステムのあり方について調査検討する。さらに在宅医療の問題点を考察する。</p>					
授業及び学習の方法					
講義および収集した資料、医療統計等の公示資料をもとに討論と考察を行う。レポートを作成し、発表する。					
成績評価の方法と基準					
授業時の討論とレポート					
授業計画					
<p>以下のテーマについて資料調査を行って自らのデータベース構築を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域医療の実態と問題点を考察する 2) 地域医療がなぜ崩壊しているか調査検討する 3) 地域医療システム—医療者の確保と育成—について実態を知る 4) 地域医療の責任機関の創設について考察する 5) 地域医療の再生に向けてなすべき事を考察する 6) 地域包括ケアシステムのあり方について調査検討する 7) 大学病院の地域連携室の業務を調査検討する 8) 在宅医療の問題点を考察する 					
教科書					
スーパー総合医「在宅医療のすべて」中山書店、専門編集：平原佐斗司					
参考書					
新・総合診療医学「家庭医療学編」カイ書店、編集：藤沼康樹					
オフィスアワー					
未定					
履修上の注意					
資料収集・調査には香川大学医学部附属病院地域連携室業務を参考にしてください。					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp					
E-Mail :					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
高齢者医療学	選択科目	1	前期		987403
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
松原 修司					
授業の概要					
<p>日本は世界に類をみない急速な超高齢化社会を迎えており、高齢者に対する医療ニーズが急激に高まっている。特に、高齢者は多疾患に罹患しており、画一的な治療法が困難である。また、高齢者に特有な疾患については、その病態についての医学的な解析が必須である。高齢者に特有な疾患それぞれの病態、治療法、予防法を理解するとともに、我が国における医療・介護制度の現状とその限界を理解することで、今後の課題・対応策についても検討する。</p>					
授業の目的・達成目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者医療の現状・課題を理解する。 2) 高齢者の生理機能を理解する。 3) 高齢者に特有の疾患を理解する。 4) 高齢者医療制度、介護保険制度を理解する。 					
授業及び学習の方法					
<p>講義及び、グループ学習。 興味ある病態に関する最新の知見について系統的に文献検索し、考察したものをまとめる。</p>					
成績評価の方法と基準					
レポート、グループ討論などを総合的に評価する。					
授業計画					
1回～2回 高齢者医療の概論					
3回～4回 高齢者の生理機能					
5回～6回 加齢による特有の病態					
7回～8回 高齢者医療制度と介護保険制度					
教科書					
特に指定なし					
参考書					
老年医学系統講義テキスト（日本老年医学会 2013/04）、高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015（日本老年医学会）					
オフィスアワー					
随時：アポイントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/faculty/center/shisetsu/chiikiiryou/					
E-Mail : mshuzi@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
医療倫理	選択科目	1	前期		987404
講義題目	関連授業課目				
医療と倫理	研究・生命倫理				
担当教員名	履修推奨科目				
三木 崇範、岡田 宏基					
授業の概要					
医療倫理は、ヒトを対象とした臨床研究においては、研究者の基本的資質・学識として備えていなければならない事項である。本授業科目ではヒトを対象とした研究を実施するにあたって求められる倫理規範について学ぶ。					
授業の目的・達成目標					
ヒトを対象とした研究の重要性は、過年の医療・生命科学倫理の欠如が招いた事件等から明らかである。基礎医学研究や臨床研究は研究の立案から、実施、データ解析、報告に至るまで、倫理規範に悖るものであってはならない。これを踏まえ、本授業では正しい医療倫理観を修得することを目的として開講される。併せて、ヒトを対象とした臨床研究の実施に必要な研究計画書等の書き方も習得する。					
授業及び学習の方法					
主として講義方式で行われる。 香川大学医学部倫理委員会が開催する倫理講習会（年間4回程度開催予定）に出席することが望ましい。					
成績評価の方法と基準					
出席により評価する。					
授業計画					
医療倫理を、生命科学に関する倫理の基本的考え方と臨床研究計画書の書き方を中心に講義が行われる。					
1－3回 医学・生命科学における倫理観念の基本的考え方と過年の事例から学ぶこと					
3－7回 臨床研究：臨床研究を始めるにあたって－臨床研究申請書・実施計画書の作成の仕方					
8回 まとめ					
* 不定期開催予定の倫理教育講習会（年間4回程度、1回90分）への出席が望まれる。					
教科書					
特に定めないが、適宜推薦・指示する。					
参考書					
特に定めないが、適宜推薦・指示する。					
オフィスアワー					
メールでアポイントメントをとればいつでも受け付ける。					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail : mikit@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
生活習慣病学	選択科目	1	後期		987405
講義題目	関連授業課目				
糖尿病を中心とした生活習慣病					
担当教員名	履修推奨科目				
村尾 孝児					
授業の概要					
糖尿病を中心とした生活習慣病の発生要因について、香川県の特有の因子について解析する。また生活習慣病予防のための治療に関して学習する。					
授業の目的・達成目標					
香川県に多い生活習慣病の要因について理解し、予防ができる					
授業及び学習の方法					
講義を行う					
成績評価の方法と基準					
口頭試問					
授業計画					
第1-2回：香川県における生活習慣病の特徴 第3-4回：香川県における生活習慣病の実態 第5-6回：香川県における生活習慣病対策の現状 第7-8回：香川県における生活習慣病の予防					
教科書					
Williams Textbook of Endocrinology (10th edition)					
参考書					
最新の論文					
オフィスアワー					
原則として授業中、授業後に質問を受けるが、事前にアポイントメントを取れば随時対応したい。					
履修上の注意					
論文の解説を担当する学生は、論文を簡単に説明できるようにレジュメを作って授業当日に配布できるようにする。担当学生以外も事前に当該論文を読んで理解しておくことが望ましい。					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail : mkoji@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
災害医療・災害医学	選択科目	1	後期		987406
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
黒田泰弘					
授業の概要					
病院前救急医療・災害医療の講義演習を行う。研究テーマを提出し、データをとって論文化を行う。					
授業の目的・達成目標					
1) 病院前救急医療の研究テーマをみつけPICOを作り、論文化することができる。 2) 災害医療の研究テーマをみつけPICOを作り、論文化することができる。					
授業及び学習の方法					
講義および演習を行う。病院前救急医療・災害医療に必要なスキルを身につける。最近文献を検索し、系統的に要約を作成し知識を深め、データをとり論文化する。					
成績評価の方法と基準					
出席、取得した知識と技術、論文により評価する					
授業計画					
第1回 病院前救急医学：総論	第5回 災害医療：総論				
第2回 病院前救急医学：各論1	第6回 災害医療：各論1				
第3回 病院前救急医学：各論2	第7回 災害医療：各論2				
第4回 病院前救急医学：総括	第8回 災害医療：総括				
教科書					
参考書					
総務省消防庁 救急活動データ： http://www.jaam.jp/html/info/2017/info-20170410.htm					
オフィスアワー					
講義、演習において随時質問可能です。毎週水曜日13～15時にセミナーを開催しています。					
履修上の注意					
積極的に参加、発言してください					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~emd/					
E-Mail : kuroday@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
神経病学	選択科目	2	通年		987407
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
中村 祐、角 徳文、出口 一志					
授業の概要					
<p>臨床神経学に必要な神経系の解剖と生理を復習し、神経学的所見から得られた情報から責任病巣を的確に類推できるように修練する。また電気生理学的検査、画像診断など諸検査の手技と解釈についても学び、病変の性質を決定するための方法を習得する。最終的にはこれらの知識に基づいて臨床診断が系統的に行えることを目標とする。次に、種々の神経系疾患における病態生理および治療に関する最近の進歩についてもふれ、今後の研究課題について討議する。</p>					
授業の目的・達成目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 3段階診断法を習得する。 2) 筋電図、末梢神経伝導検査、脳波、誘発電位の手技、解釈について理解する。 3) 代表的な疾患の画像診断について理解する。 4) 代表的な疾患の病理所見（生検を含む）について理解する。 5) 遺伝子診断の適応と実際について理解する。 					
授業及び学習の方法					
各領域における基本的知識の確認を行うとともに、最新の基礎的、臨床的知見を文献的に検索し系統的に要約を行う。					
成績評価の方法と基準					
レポートによる評価を行う。					
授業計画					
第1回 臨床に必要な神経解剖、生理	第8回	末梢神経障害			
第2回 臨床に必要な症候学	第9回	末梢神経障害			
第3回 脳血管障害	第10回	筋疾患			
第4回 神経系の感染症	第11回	筋疾患			
第5回 変性疾患	第12回	頭痛、てんかん			
第6回 変性疾患	第13回	電気生理検査の実際			
第7回 脱髄疾患	第14回	神経病理の実際			
	第15回	遺伝子診断の実際			
教科書					
神経内科ハンドブック 第3版 医学書院					
ベッドサイドの神経の診かた 南山堂					
参考書					
神経疾患の最新医療 先端医療技術研究所					
Clinical Neuroscience 中外医学社					
神経研究の進歩 医学書院					
オフィスアワー					
随時：アポイントメントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail :					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
脳神経外科学	選択科目	2	通年		987408
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
田宮 隆、三宅 啓介					
授業の概要					
<p>①悪性脳腫瘍に対する抗がん剤の効果と薬剤耐性遺伝子の発現の関係や機序を概説すると共に、実際の研究方法や手技について演習する。</p> <p>②神経幹細胞を用いた神経再生の原理を講義するとともに、実験動物を用いての応用や実際の研究手技を演習する。</p> <p>③悪性脳腫瘍の診断における陽電子断層撮影法 (PET) の役割について説明し、実際の検査にたずさわる。</p> <p>④種々の脳疾患 (脳梗塞、脳内出血、頭部外傷など) による発生する二次的脳損傷のメカニズムを分子生物学的レベルで概説し、それらに対する脳保護法を講義するとともに、実験動物を用いての検証手技を演習する。また現在臨床現場で用いられている脳低温療法を含めた脳保護法を説明する。</p> <p>⑤脳循環代謝に関する基礎的知見を講義するとともに、臨床現場で用いられる種々のモニタリング (頭蓋内圧測定、頸静脈酸素飽和度測定、脳内微小透析法、PETなど) の原理、手技を説明する。</p> <p>⑥脳神経外科領域の最新の医療技術 (ナビゲーションシステム、内視鏡手術) についての臨床応用手技について説明する。</p>					
授業の目的・達成目標					
<p>①薬剤耐性遺伝子を免疫染色や RT・PCR法により検索する手技を理解できる。また結果を臨床現場における悪性脳腫瘍の患者にあてはめ、適切な抗がん剤の選択ができる。</p> <p>②神経幹細胞における神経再生の原理を理解し、実験動物を用いて研究する技術を身につける。</p> <p>③悪性脳腫瘍の診断におけるPET検査の役割を理化学し、実際に検査を行うことができる。</p> <p>④二次的脳損傷のメカニズムを分子生物学的レベルで理解できる。また種々の脳保護法の効果を実験動物で確認できる技術を身につける。重症脳損傷患者において適切な脳保護手段を選択し、その効果を臨床的に確認できる。</p> <p>⑤種々のモニタリング法の原理を理解し、出てきたデータの持つ意味を理解し適切に治療にフィードバックできる。</p> <p>⑥最新の医療技術を実際に臨床応用することができ、臨床研究に結びつけることができる。</p>					
授業及び学習の方法					
<p>まず講義にて基本的原理を十分に理解し、その後簡単な動物実験を行ったり、臨床現場に出向いて実際の手技を演習し、得られた結果をどの様に理解するかを議論し理解を深める。特に興味のある分野に関してはマンツーマンで指導し、将来の研究テーマを決定する。</p>					
成績評価の方法と基準					
<p>授業への出席を重視し、場合により小テストや簡単な実技試験を行い理解度や習熟度を評価する。</p>					
授業計画					
<p>第1回～第2回 悪性脳腫瘍に対する薬剤耐性遺伝子：講義と演習 (2コマ)</p> <p>第3回～第5回 神経幹細胞を用いての神経再生：講義と演習 (3コマ)</p> <p>第6回～第7回 悪性脳腫瘍に対するPET検査：講義と演習 (2コマ)</p> <p>第8回～第10回 二次的脳損傷のメカニズムと脳保護法：講義と演習 (3コマ)</p> <p>第11回～第12回 脳循環代謝と脳モニタリング法：講義と演習 (2コマ)</p> <p>第13回～第15回 脳神経外科領域の最新の技術：講義と演習 (3コマ)</p>					
教科書					
特に指定せず、必要に応じてその都度推薦の予定					
参考書					
特に指定せず、必要に応じてその都度推薦の予定					
オフィスアワー					
火曜日、木曜日は手術日ですので避けてください					
月曜日、水曜日、金曜日の午後か夕方希望 (脳神経外科秘書に確認してください)					
履修上の注意					
特になし					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~neuron/index.html					
E-Mail : neuron@kms.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
運動器病学	選択科目	2	通年		987409
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
山本 哲司、真柴 賛					
授業の概要					
骨の強度に影響を与える種々の疾患を理解し、それぞれの疾患がどのようなメカニズムで骨強度の低下をきたすのかについて知識を深める。骨強度を生体力学的に計測する方法や骨の組織学的変化を観察し、どのような病態が生物学的に生じているかを理解する。					
授業の目的・達成目標					
1) 骨強度に影響を及ぼす疾患について理解する。 2) 代謝性骨疾患の概要とその病態を生化学的に理解する。 3) 病的骨折をきたす疾患の概要と分類と予後について理解する。 4) 骨折の修復機転と修復を促進する因子また遅延させる因子を解明する。 5) 人工骨の開発過程と骨の修復過程を自家骨と比較し組織学的に観察する。					
授業及び学習の方法					
代謝性骨疾患、腫瘍性疾患、炎症性疾患における骨強度と、骨折発生および修復のメカニズムについて基礎的臨床的文獻検索し比較検討する。					
成績評価の方法と基準					
上記テーマに関して課されたレポートと個別の口頭試問によって行う。					
授業計画					
1－ 2回 骨の腫瘍性疾患 3－ 5回 病的骨折 6－ 8回 骨代謝性疾患 9－10回 炎症性骨疾患 11－12回 骨折の修復に関与する因子 13－15回 人工骨による骨の修復過程					
教科書					
分子細胞生物学基礎実験法 南江堂 改訂第2版					
参考書					
オフィスアワー					
随時アポイントメントにより質問を受け付ける。					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~orthop/					
E-Mail : sanutetu@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
精神病学	選択科目	4	通年		987410
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
中村 祐、角 徳文					
授業の概要					
<p>精神疾患に含まれるものは多岐にわたる。ICD分類に基づいたカテゴリーとしては、認知症や器質性・症候性精神障害（F0）、アルコールをはじめとする薬物関連障害（F1）、統合失調症（F2）、躁うつ病（F3）、神経症性障害（F4）、摂食障害（F5）、パーソナリティ障害（F6）、知的障害（F7）、発達障害（F8）、多動性障害など（F9）、てんかん（G40-41）、睡眠障害（G47）などが挙げられる。これらの疾患は、心理学的要因、社会的要因、そして生物学的要因から病態を理解することが大切である。</p> <p>本講座では、そのうち生物学的な病態の解明や治療法の開発をおこなう生物学的精神医学について理解することを目標としている。</p>					
授業の目的・達成目標					
<p>各種精神疾患の生物学的成因を理解する。 各種治療薬の神経精神薬理学的な作用機序を理解する。</p>					
授業及び学習の方法					
講義形式、検査施行や解析を主体とした演習、治療効果を判定する実習などからなる。					
成績評価の方法と基準					
講義の理解を深めるため、レポートを課する。その内容で評価する。					
授業計画					
<p>講義</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生物学的精神医学概論 <ul style="list-style-type: none"> 精神疾患の神経科学的成因 2-3. 躁うつ病 4-5. 統合失調症 6-7. 認知症 8. 神経症 9. 睡眠障害（過眠症を中心として） 精神科治療薬の神経精神薬理学的作用 <ul style="list-style-type: none"> 10. 抗うつ薬 11. 抗精神病薬 12. 認知症治療薬 13. 漢方薬 14. 抗不安薬および睡眠薬 <p>演習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1-4 睡眠構造の電気生理学的解析 5-9 認知機能障害の神経化学的・神経生理学的・神経放射線学的・神経心理学的解析 <p>実習</p> <p>以下のいずれかの実習科目を選択する（複数選択可能：実習時間は計30時間）</p> <ol style="list-style-type: none"> a) 睡眠ポリグラフ検査（PSG）や睡眠潜時測定（MSLT）の手技を習得する。 b) 認知症患者で認知機能、精神症状の評価、それらの治療後の経過を評価する。 					
教科書					
<p>Stahl's Essential Psychopharmacology (3rd Edition) Edited by Stephen M Stahl, Cambridge University Press, 2008. (ISBN: 9780521673761)</p>					
参考書					
<p>Sleepiness (Causes, Consequences and Treatment) Edited by Michael J Thorpy and Michel Billiard, Cambridge University Press, 2011 (ISBN: 9780521198868)</p>					
オフィスアワー					
随時					
履修上の注意					

URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~psy/index.html
E-Mail : shinnoh@med.kagawa-u.ac.jp

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
腎・泌尿器病学	選択科目	4	通年		987411
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
南野 哲男、西山 成、杉元 幹史					
授業の概要					
<p>人口の高齢化にともない泌尿器科疾患患者は増加している。前立腺肥大症や頻尿、尿失禁などの良性疾患数は平均寿命の延長とともに増加が著しい。さらに高齢者がんといわれている泌尿器科がんの増加は特に顕著である。診断技術の向上と治療法の進歩によって、癌と診断された後の病悩期間は以前と比較して明らかに長くなってきている。そのためQOLや医療経済学的側面にも配慮して診療に当たる必要がある。</p> <p>この科目では、頻尿、尿失禁、前立腺肥大症などの下部尿路症状を呈する、いわゆるQOL疾患と呼ばれる良性疾患と、腎臓がん、膀胱がん、前立腺がんなど代表的な泌尿器科がんについてその病態、診断、治療法に関して各診療ガイドラインに基づき網羅的に解説する。</p>					
授業の目的・達成目標					
<p>講義内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 下部尿路症状の成因、診断および治療、前立腺肥大症と過活動膀胱 2) 上部尿路上皮がん（腎盂・尿管がん）、腎細胞癌の診断と治療 3) 膀胱がんの診断と治療 4) 前立腺がんの診断と治療 <p>これらの項目について、実際の症例を提示しながら、疾患の病態から治療にいたるまでの最新の知識を深める。</p>					
授業及び学習の方法					
講義形式					
成績評価の方法と基準					
目標到達が不十分だと判断した場合には、2,000字以内のレポートを提出して理解の程度を判定する。					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 前立腺肥大症と過活動膀胱：問診から診断、治療までのアルゴリズムについての講義 (1～7回) 2) 上部尿路上皮癌および腎細胞癌の診断と治療の現状と問題点についての講義 (8～15回) 3) 膀胱がんの診断と治療：わが国および欧米のガイドラインに基づく標準治療を理解する (16～23回) 4) 前立腺がんの診断と治療：わが国および欧米のガイドラインに基づく標準治療を理解する (24～30回) 					
教科書					
参考書					
前立腺癌診療ガイドライン、膀胱癌診療ガイドライン、腎盂尿管癌診療ガイドライン					
オフィスアワー					
9時～20時					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail : micsugi@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
感染症学	選択科目	2	通年		987412
講義題目	関連授業課目				
院内感染対策論					
担当教員名	履修推奨科目				
岡田 宏基					
授業の概要					
<p>院内感染対策の充実は全ての医療施設にとって必須のことである。むしろ現代において「院内感染対策の質」は、「医療安全管理対策の質」と並んで「医療施設の質」を表す指標であるともいえる。我々の目指す方向は、入院患者の病気を治すことであるが、院内感染はこれと全く逆行するものであるから、院内感染対策に努力することは医療従事者として当然である。しかしながら現実的には、院内感染を完全に制御することは困難であり、臨床現場ではその対応に苦慮している。</p> <p>本授業においては感染予防策、環境整備、抗菌薬の適正使用、事例検討、インфекションコントロールチーム（ICT）への参加等を通して、院内感染に関する知識を深めると同時に、より実践的な感染制御法の習得が出来るよう構成されている。</p>					
授業の目的・達成目標					
<p>本授業の目的は感染制御に深い知識を有する医療従事者を育成することである。受講した学生がどの医療分野の専門家であっても、様々な職種の医療従事者と連携し、チームで院内感染を予防し、制御出来る様になることが最終的な達成目標である。</p>					
授業及び学習の方法					
講義と実習					
成績評価の方法と基準					
適宜レポートを作成し、それを評価の一助とする。					
授業計画					
回	項目	達成目標	担当教員		
1	標準予防策・感染経路別予防策	標準予防策・感染経路別予防策を理解し述べることができる	岡田宏基		
2	血液曝露後感染予防策	ウイルス性肝炎、HIV/AIDS、針刺し事故の対策を述べるができる	岡田宏基		
3	接触感染予防策	MRSA、MDRP、VRE、ESBL、CD、疥癬、ノロウイルスに対する対策を述べることができる	岡田宏基		
4	飛沫感染予防策	インフルエンザ、百日咳、細菌性髄膜炎、風疹、ムンプスに対する対策を述べるができる	岡田宏基		
5	空気感染予防策	結核、麻疹、水痘・帯状疱疹に対する対策を述べるができる	岡田宏基		
6	特殊な感染症の予防策	SARS、鳥インフルエンザ、プリオン病に対する対策を述べるができる	岡田宏基		
7	処置に関する感染対策	中心静脈カテーテル、尿道留置カテーテル、気管吸引、ネブライザーの感染リスクと管理について述べるができる	岡田宏基		
8	環境整備策	医療廃棄物処理、病室清掃、注射台の管理について述べるができる	岡田宏基		
9	部署別感染対策	外来、手術室、内視教室、放射線部、感染症外来室における感染管理のポイントを述べるができる	岡田宏基		
10	抗菌薬の適正使用	抗菌薬ガイドライン、予防的抗菌薬投与について述べるができる	岡田宏基		
11	感染対策マニュアル作成	感染対策マニュアル作成法を理解できる	岡田宏基		
12	院内感染事例検討①	教訓的事例について問題点を抽出し、その対策を述べるができる	岡田宏基		
13	院内感染事例検討②	教訓的事例について問題点を抽出し、その対策を述べるができる	岡田宏基		
14	ICT ラウンド実習①	ICT と共にラウンドし、感染対策を講じることができる	岡田宏基		
15	ICT ラウンド実習②	ICT と共にラウンドし、感染対策を講じることができる	岡田宏基		
教科書					
院内感染対策パーフェクトマニュアル、藤田次郎 監修、学研					
参考書					
<p>1) 感染症専門医テキスト、社団法人 日本感染症学会、南江堂</p> <p>2) 感染症診療マニュアル 青木 眞 監修、医学書院</p>					

3) 感染症コンサルテーション 岸田直樹、じほう 4) 日本版 敗血症診療ガイドライン、日本集中治療医学会、克誠堂出版
オフィスアワー
特に定めず
履修上の注意
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~educenter/ (医学部教育センターHP)
E-Mail : okadaedu@med.kagawa-u.ac.jp

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
血液病学（血液・造血器・リンパ）	選択科目	2	通年		987413
講義題目	関連授業課目				
血液病学					
担当教員名	履修推奨科目				
門脇 則光、岡田 宏基					
授業の概要					
<p>正常造血システムおよび造血器腫瘍の発症機序および治療法について学ぶ。具体的には、骨髄の解剖と造血幹細胞の性質について概説した後、再生不良性貧血、慢性骨髄増殖性腫瘍、急性白血病、悪性リンパ腫などの造血器腫瘍と造血幹細胞移植療法を中心にスライド、ビデオ、写真などを用いて詳細に解説する。</p>					
授業の目的・達成目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 骨髄の解剖を説明できる。 2. 造血幹細胞の性質、分離・同定法、未分化維持機構、各種血液細胞への分化に働く遺伝子・液性因子を説明できる。 3. 再生不良性貧血の発症機序と治療法を説明できる。 4. 慢性骨髄増殖性腫瘍、急性白血病、悪性リンパ腫などの造血器腫瘍の発症機序について分子レベルで説明できる。 5. 造血器悪性腫瘍に対する治療法（薬物療法、造血幹細胞移植）について説明できる。 					
授業及び学習の方法					
スライド、ビデオ、写真などを用いて解りやすく講義する。最新の基礎および臨床研究に関する医学論文を抄読して知識を深める。					
成績評価の方法と基準					
講義中の質問に対する応答、医学論文の抄読とその発表内容、提出レポートの内容、演習および実習時の態度などを参考にして、総合的に評価する。					
授業計画					
第1回～第2回 骨髄の解剖（1, 2） 第3回～第4回 造血幹細胞の性質、分離・同定法（1, 2） 第5回～第6回 造血幹細胞が未分化状態で維持される機構、 各種血液細胞への分化に関わる遺伝子や液性因子（1, 2） 第7回～第8回 再生不良性貧血の発症機序と治療法（1, 2） 第9回～第10回 慢性骨髄増殖性腫瘍の発症機序と治療法（1, 2） 第11回～第12回 急性白血病の発症機序と治療法（1, 2） 第13回～第14回 悪性リンパ腫の発症機序と治療法（1, 2） 第15回 まとめ					
教科書					
Wintrobe's Clinical Hematology, 13 th edition, 2014, Lippincott WW. 貸し出しますので研究室までお越し下さい。					
参考書					
必要な学習資料を配付します。					
オフィスアワー					
随時アポイントメントをお取り下さい。					
履修上の注意					
URL : http://kagawa-ichinai.jp/					
E-Mail : kado@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
免疫・アレルギー疾患学	選択科目	2	通年		987414
講義題目	関連授業課目				
膠原病・リウマチ学					
担当教員名	履修推奨科目				
門脇 則光					
授業の概要					
<p>自然免疫および獲得免疫のシステムとその破綻に伴い引き起こされる膠原病についてその発生機序・疾患の特徴ならびに治療法を学習する。具体的には免疫ネットワークについて概説した後、自己炎症症候群、関節リウマチ、全身性エリテマトーデスなどの診断および治療法について抗サイトカイン療法を中心にスライド、ビデオなどを用いて詳細に解説する。</p>					
授業の目的・達成目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 免疫システムとサイトカインネットワークについて説明できる。 2. 各種膠原病の特徴について説明できる。 3. 免疫抑制療法について説明できる。 4. 抗サイトカイン療法について説明できる。 					
授業及び学習の方法					
<p>スライド、ビデオなどを用いて解りやすく講義する。最新の基礎および臨床研究に関する医学論文を抄読し知識を深める。</p>					
成績評価の方法と基準					
<p>講義中の質問に対する応答、医学論文の抄読への取り組み、提出レポートなどにて総合的に評価する</p>					
授業計画					
<p>第1回～第2回 免疫システム概説 (1, 2) 第3回～第4回 サイトカインと疾患概説 (1, 2) 第5回～第6回 自然免疫システムの破綻と疾患の診断と治療 (1, 2) 第7回～第8回 獲得免疫システムの破綻と膠原病リウマチ性疾患の診断と治療 (1, 2) 第9回～第10回 抗サイトカイン療法と膠原病リウマチ性疾患 (1, 2) 第11回～第12回 自己抗原と自己抗体 (1, 2) 第13回 関節リウマチ 第14回 全身性自己免疫疾患 第15回 血管炎</p>					
教科書					
<p>Kelley and Firestein's Textbook of Rheumatology, 2-Volume Set, 10th Edition</p>					
参考書					
<p>不要です。必要な学習資料は配付します。</p>					
オフィスアワー					
<p>何時でも質問に対応します。</p>					
履修上の注意					
URL : http://kagawa-ichinai.jp/					
E-Mail : kado@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
呼吸器病学	選択科目	4	通年		987415
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
横見瀬 裕保、門脇 則光、呉 哲彦					
授業の概要					
呼吸器の解剖・機能を理解するとともに、手術の基礎を理解する。ビデオ、DVDなどの材料を用いて実際の呼吸器外科手術を学習する。呼吸器外科の歴史、手術の成績を調査し、新しい術式の開発を試みる。					
授業の目的・達成目標					
1) 呼吸器の解剖およびその機能を理解する。 2) 呼吸器外科の手術手技を理解する。 3) 肺癌手術の手術手技を理解する。 4) 呼吸器外科の歴史を理解する。 5) 呼吸器外科の成績を理解する。					
授業及び学習の方法					
ビデオ、DVDで手術理解するとともに、実際の手術にも参加する。					
成績評価の方法と基準					
演習に関しては提出されたレポートを評価、実習に関してはグループ討論と提出されたレポートの総合評価とする。					
授業計画					
1回～ 3回 呼吸器の解剖およびその機能 4回～10回 視覚教材による呼吸器手術の理解 11回～20回 呼吸器手術の成績の理解 21回～25回 呼吸器手術の歴史の講義 26回～30回 新しい術式の開発に関する講義					
教科書					
呼吸器外科学 第3版 (南山堂)					
参考書					
呼吸器外科手術書 (金芳堂)					
オフィスアワー					
随時：アポイントメントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp					
E-Mail :					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
乳腺内分泌外科学	選択科目	2	通年		987416
講義題目	関連授業課目				
乳癌の診断と治療					
担当教員名	履修推奨科目				
紺谷 桂一					
授業の概要					
<p>乳癌の疫学、診断、治療の基礎を紹介する。 さらに最近の医療情報、臨床試験結果を紹介しその意義について説明する。 診療ガイドラインに関してエビデンスをピックアップしながら紹介する。</p>					
授業の目的・達成目標					
<p>乳癌の疫学、診断、治療の基礎を学習するとともに、最近の医療情報、臨床試験結果を紹介しエビデンスに基づいた最新治療を習得する。</p>					
授業及び学習の方法					
講義形式					
成績評価の方法と基準					
<p>レポート提出、 レポート内容に6割以上の講義内容が網羅されていれば合格とする</p>					
授業計画					
<p>講義1－3：乳癌の基礎、 講義4－6：診断の基礎と応用 講義7－9：乳癌診断の最新技術 講義10－12：従来の乳癌標準治療 講義13－15：乳癌治療最新のエビデンス</p>					
教科書					
参考書					
科学的根拠に基づく乳癌診療ガイドライン（金原出版）					
オフィスアワー					
履修上の注意					
URL： http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail： konbat@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
消化器病学	選択科目	2	通年		987417
講義題目	関連授業課目				
消化器病学 (内科)					
担当教員名	履修推奨科目				
正木 勉、出口 一志					
授業の概要					
消化器諸臓器の解剖、生理の理解とともに食道、胃、小腸、大腸疾患についての診断と治療について講義する。特に、最近導入された小腸検査の診断技術であるカプセル内視鏡、ダブルバルーンについては見学実習を行う。さらに早期の食道・胃・大腸癌に対する治療である内視鏡的粘膜剥離術 (ESD) は見学実習を行う。					
授業の目的・達成目標					
1. 消化管の解剖と生理を理解する。 2. 消化管の癌の診断と治療を理解する。					
授業及び学習の方法					
スライドを用いて講義を行い、カプセル内視鏡、ダブルバルーン内視鏡及びESDの治療については見学実習を行う					
成績評価の方法と基準					
レポート提出により評価する					
授業計画					
(1) 消化管の解剖、生理 (2) 食道癌の診断と内科治療 (3) 食道癌の診断と外科治療 (4) 胃癌の診断と内科治療 (5) 胃癌の診断と外科治療 (6) 大腸癌の診断と内科治療 (7) 大腸癌の診断と外科治療 (8) 肝癌の診断と内科治療 (9) 肝癌の診断と外科治療 (10) 膵癌の診断と内科治療 (11) 膵癌の診断と外科治療 (12) 胆石の内科治療 (13) カプセル内視鏡の見学実習 (14) ダブルバルーン内視鏡の見学実習 (15) ESDの治療手技					
教科書					
特に必要としない					
参考書					
特に必要としない					
オフィスアワー					
随時アポイントメントにより質問の時間を設ける					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail : sannai@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
消化器病学	選択科目	2	通年		987417
講義題目	関連授業課目				
消化器病学 (外科)					
担当教員名	履修推奨科目				
鈴木 康之					
授業の概要					
消化器病学の範疇に入る諸臓器の解剖・機能を外科的側面から理解し、それらに発生する良性・悪性疾患についての知識を深める。臓器別に分類すると消化管（食道、胃、小腸、結腸、直腸など）および実質臓器（肝臓、胆道、膵臓、脾臓）に分かれるが、それぞれの腫瘍、炎症、先天性疾患、遺伝性疾患の発生原因、疫学病態生理、生物学的特性、治療法と成績など最新の外科的知見を学ぶ。また、その背景となる消化器外科学分野の基礎的研究成果のうち臨床反映性のあるものを理解する。さらに、残された課題を知り、今後の研究課題を議論する。					
授業の目的・達成目標					
1) 消化器諸臓器の解剖・機能を理解する。 2) 消化器諸臓器に発生する各種疾患の発生原因、疫学、病態、生物学的特性、治療法と成績を理解する。 3) 消化器系ホルモンと関連する疾患について理解する。 4) バクテリアルトランスロケーションについて理解する。 5) 全身性疾患の消化器病変について理解する。 6) 消化器系の術後障害について理解する。					
授業及び学習の方法					
スライドなどで各種臓器・疾患の基本的知識を学習する。その後、諸種の疾患や病態に関して最新の文献を検索し、系統的な要約を作成する。さらに学習した領域に残された臨床上的の問題点を抽出し、今後の研究課題を議論する。					
成績評価の方法と基準					
レポート提出により評価する。					
授業計画					
(1) 消化管諸臓器の解剖・機能 (2) 肝臓諸臓器の解剖・機能 (3) 食道疾患の発生原因、疫学、病態、生物学的特性、治療法と成績 (4) 胃疾患の発生原因、疫学、病態、生物学的特性、治療法と成績 (5) 結腸・直腸疾患の発生原因、疫学、病態、生物学的特性、治療法と成績 (6) レウスの発生原因、疫学、病態、生物学的特性、治療法と成績 (7) 肝疾患の発生原因、疫学、病態、生物学的特性、治療法と成績 (8) 胆膵疾患の発生原因、疫学、病態、生物学的特性、治療法と成績 (9) 炎症性腸疾患の発生原因、疫学、病態、生物学的特性、治療法と成績 (10) 各種消化管ホルモンと関連疾患 (11) 各種膵ホルモンと関連疾患 (12) バクテリアルトランスロケーション (13) 全身性疾患の消化器病変 (14) 消化管系の術後障害 (15) 残された臨床上的の問題点と今後の研究課題					
教科書					
後日通知する。					
参考書					
後日通知する。					
オフィスアワー					
随時アポイントメントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail : szk@medkagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
循環器病学	選択科目	2	通年		987418
講義題目	関連授業課目				
循環器病学 (内科領域)					
担当教員名	履修推奨科目				
南野 哲男、野間 貴久					
授業の概要					
<p>本授業の目的は、臨床現場での未解決の問題を見出し、基礎研究や臨床研究によりこれらを解決する能力を身につけることである。心・腎・脳グループの連関で、香川発の新しい治療法の開発を目指す。</p> <p>現在、循環器病学の臨床は、ライフスタイルの大きな変化と高齢者社会を迎えて、大きく変遷しつつある。行うべき授業は分子生物学を中心とした基礎的成果から新しいデバイスを用いた革新的な治療法まで多岐にわたる。授業は病態生理、診断法、治療法、主要疾患の4つで構成している。病態生理では、心不全、不整脈、虚血性心疾患、高血圧、動脈硬化に関する基礎的臨床課題が含まれている。診断法と治療法においては、上記疾患の診断と治療の過去の業績と最近の進歩が含まれる。</p>					
授業の目的・達成目標					
<p>① 病態生理</p> <p>a. 心不全：心不全の病態生理、左室リモデリング、心不全と神経体液性因子について理解できる。</p> <p>b. 不整脈：心筋虚血と致死性不整脈、心臓性突然死と自律神経について理解できる。</p> <p>c. 虚血性心疾患：冠動脈プラークの破綻、虚血プレコンディショニング、組織レニンアンギオテンシン系、虚血性心疾患と神経体液性因子について理解できる。</p> <p>d. 高血圧：高血圧原因遺伝子、食塩感受性高血圧の基礎と臨床、ナトリウム利尿ペプチド系と高血圧、レニンアンギオテンシン系と臓器障害について理解できる。</p> <p>e. 動脈硬化：内臓脂肪型肥満と動脈硬化、高血圧と動脈硬化、糖尿病と動脈硬化、脂質異常について理解できる。</p> <p>② 診断</p> <p>③ 治療法</p>					
授業及び学習の方法					
<p>循環器主要疾患の病態生理、診断法、治療法、の3つ構成部分について授業を行い、その後、必要な基礎的ならびに臨床的実習を行う。臨床実習では特に心臓超音波、冠動脈造影、心臓電気生理学検査、運動負荷試験、心筋シンチ、心臓PETなどを重点的に行う。</p>					
成績評価の方法と基準					
授業、実習ともにレポートの提出で評価する。					
授業計画					
第1回～第5回 循環器の病態生理					
第6回～第10回 循環器疾患の診断					
第11回～第15回 循環器疾患の治療法					
教科書					
ハーバード大学テキスト 心臓病の病態生理 第3版 メディカルサイエンスインターナショナル出版 2012年 ガイトン生理学 原著第11版 アーサー・C. ガイトン, John E. Hall 他 エルゼビア・ジャパン, 2010年 Guyton and Hall Textbook of Medical Physiology, 13版(英語) John E. Hall PhD他, 2015年					
参考書					
臨床研究の道標 7つのステップで学ぶ研究デザイン：福原俊一著 認定NPO法人 健康医療評価研究機構 (iHope International) 発行2013					
オフィスアワー					
8時30分から17時					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail : 南野哲男教授 minamino@med.kagawa-u.ac.jp 医局 : ninai@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
循環器病学	選択科目	2	通年		987418
講義題目	関連授業課目				
循環器病学 (外科)					
担当教員名	履修推奨科目				
堀井 泰浩、山下 洋一					
授業の概要					
<p>心臓血管外科においては、他科では使用しない体外循環の使用を必須としていることが、大きな特徴の一つである。その習熟に向けて、知識を深める。また、末期的心臓病では、人工心臓の使用が必要となるが、その人工臓器についての、開発および現状についても理解する。</p>					
授業の目的・達成目標					
<p>1) 心臓血管外科学全般について、その特徴を理解する。 2) 体外循環装置の仕組み、実際の応用についての理解する。 3) 人工臓器の開発、改良、現状につき理解し、その問題点を検討する。</p>					
授業及び学習の方法					
体外循環および人工心臓に関する最新の基礎的・臨床的研究に関する文献を検索し、系統的に要約を作成する。					
成績評価の方法と基準					
演習に関しては提出されたレポートを評価、実習に関してはグループ討論と提出されたレポートの総合評価とする。					
授業計画					
第 1 回—第 5 回 心臓血管外科手術の特徴 第 6 回—第 1 0 回 体外循環装置とその使用の実際 第 1 1 回—第 1 5 回 人工臓器の開発と現状					
教科書					
図解心臓外科ハンドブック (シュプリンガー・フェアラーク東京) 心疾患の診断と手術 (南江堂)					
参考書					
心臓血管外科手術書 (先端医療技術研究所)					
オフィスアワー					
随時：アポイントメントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail : thorii@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
母子周産期医学	選択科目	2	通年		987419
講義題目	関連授業課目				
胎児行動学、胎児心エコー、胎児超音波					
担当教員名	履修推奨科目				
秦 利之、田中 宏和					
授業の概要					
正常・異常妊娠、正常・異常分娩、正常・異常産褥、正常・異常胎児について学ぶ。					
授業の目的・達成目標					
正常・異常妊娠、正常・異常分娩、正常・異常産褥、正常・異常胎児について知識を持ち、その正常・異常を理解し、最新の超音波検査を行うことができる。					
授業及び学習の方法					
講義・超音波実技を行う。					
成績評価の方法と基準					
口頭試問および実技検査によって評価を行う。					
授業計画					
第1回～第5回 講義 第6回～第15回 2D/3D/4D超音波実技					
教科書					
Kurjak A, Chervenao F. Donald School Textbook of Ultrasound in Obstetrics and Gynecology, 4 th Edition, Jaypee Brothers, New Delhi, 2017					
参考書					
Cunningham FG, et al. Williams Obstetrics 24 th Edition, McGraw-Hill Medical, New York, 2014					
オフィスアワー					
水曜日 15:00～19:00					
履修上の注意					
特になし					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~perigyne/					
E-Mail : shusanki@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
皮膚病学	選択科目	2	通年		987420
講義題目	関連授業課目				
皮膚アレルギー学					
担当教員名	履修推奨科目				
窪田 泰夫					
授業の概要					
皮膚の解剖・機能を理解するとともに皮膚を舞台にしたアレルギー性疾患について理解する。具体的には（アレルギー性疾患発症に重要な役割を演じる）血管内皮細胞と肥満細胞を中心に皮膚アレルギー性疾患の疫学的事項、発症病態、病理組織学、病態成立に関与する分子機構などに関する最新の知見を学ぶ。さらに皮膚科学の分野の基礎的研究成果が実際の臨床にどのように生かされているかを知り、今後の研究課題について考察する。					
授業の目的・達成目標					
1) 皮膚とくに血管の解剖およびその機能、構成蛋白質を理解する。 2) 皮膚アレルギー疾患の発症病理、病理組織学を理解する。 3) 皮膚アレルギー疾患の発症の分子メカニズムを理解する。 4) 皮膚アレルギー疾患の最新の治療を理解する。					
授業及び学習の方法					
1) 正常皮膚および血管の構造、および構成蛋白質の概要を文献検索を自ら行いながら学習する。 2) 皮膚アレルギー疾患の病理組織を観察する。					
成績評価の方法と基準					
教官との討論ならびに提出されたレポートにより評価を行う。					
授業計画					
第1回～第3回 正常皮膚および血管の構造、および構成蛋白質 第4回～第6回 皮膚アレルギー疾患の病理組織を観察 第7回～第9回 皮膚アレルギー疾患の発症病理 第10回～第12回 実験計画を立案、実験 第13回～第15回 実験結果の解析と考察					
教科書					
新皮膚科学（出版社：日本医事新報社、監修：溝口昌子） 新しい皮膚科学（出版社：中山書店、著者清水宏）					
参考書					
皮膚の医学（出版社：中公新書、著者田上八朗）					
オフィスアワー					
アポイントメントにより質問の時間を設ける					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp					
E-Mail : kubotay@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
眼病学	選択科目	2	通年		987421
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
廣岡 一行					
授業の概要					
<p>眼球の解剖・機能を理解するとともに、そこから発生する先天的あるいは後天的疾患について理解を深める。具体的には膜の解剖、神経細胞の構築、変性網膜や虚血網膜の代謝、網膜血管新生の機序などについて最新の知見を学ぶ。さらに、これらの基礎研究の成果が実際の臨床にどのように生かされているかを知り、今後の研究課題を議論する。</p>					
授業の目的・達成目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 網膜の解剖およびその機能を理解する。 2) 虚血網膜の代謝について理解する。 3) 緑内障の疫学、発生機序、進展に関与する分子機構を理解する。 4) 加齢黄斑変性の疫学、発生や進展に関与する分子機構を理解する。 					
授業及び学習の方法					
<p>各種障害モデルの網膜標本の分析的観察。 加齢黄斑変性や緑内障に関する最新の基礎的・臨床的研究に関する文献を検索。</p>					
成績評価の方法と基準					
<p>演習に関しては提出されたレポートを評価する。</p>					
授業計画					
<p>1－3回 網膜の解剖およびその機能 4－6回 網膜虚血の代謝 7－9回 変性網膜の代謝 10－12回 緑内障の疫学、発生機序、進展に関与する分子機構 13－15回 加齢黄斑変性の疫学、発生や進展に関与する分子機構</p>					
教科書					
標準眼科学医学書院					
参考書					
血管新生研究の新展開医薬ジャーナル社タンパク実験法羊土社					
オフィスアワー					
随時：アポイントメントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
特になし					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~ganka/index.htm					
E-Mail : ganka@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
口腔病学	選択科目	2	通年		987422
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
三宅 実、大林由美子					
授業の概要					
<p>顎・顔面・口腔諸器官の解剖・機能を理解するとともに、そこから発生する先天的あるいは後天的疾患について知識を深める。具体的には顎口腔領域に発生する良性腫瘍・悪性腫瘍、特に顎骨に発生する歯原性、非歯原性良性腫瘍、口腔癌の多くを占める扁平上皮癌に関して疫学的事項、生物学的特性、発生や進展に関与する分子機構などに関する最新の知見を学ぶ。</p> <p>さらに、顎口腔領域の腫瘍疾患に関する基礎的研究成果が実際の臨床にどのように生かされているかを知り、今後の研究課題を議論する。</p>					
授業の目的・達成目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 顎・顔面・口腔諸器官の解剖およびその機能を理解する。 2) 咀嚼機能の重要性を理解する。 3) 顎口腔領域に発生する良性腫瘍、悪性腫瘍を理解する。 4) 顎骨に発生する歯原性、非歯原性良性腫瘍の病理組織所見を理解する。 5) 口腔癌の疫学、生物学的特性、発生や進展に関与する分子機構を理解する。 6) 口腔癌の化学療法、放射線療法、手術療法を理解する。 					
授業及び学習の方法					
顎口腔領域に発生する良性腫瘍、悪性腫瘍の最新の基礎的・臨床的研究に関する文献を検索し、系統的に要約を作成する。					
成績評価の方法と基準					
講義に関しては随時小テストを実施し評価、演習に関しては提出されたレポートを評価、実習に関してはグループ討論と提出されたレポートの総合評価とする。					
授業計画					
<p>第1回～第2回 顎・顔面・口腔領域の解剖およびその機能</p> <p>第3回～第4回 咀嚼機能</p> <p>第5回～第6回 顎・口腔領域に発生する良性腫瘍、悪性腫瘍</p> <p>第7回～第8回 顎骨に発生する歯原性良性腫瘍の疫学、生物学的特性、発生や進展に関与する分子機構</p> <p>第9回 咀嚼機能の生理検査</p> <p>第10回～第12回 顎・口腔領域に発生する良性腫瘍、悪性腫瘍の病理組織学的観察</p> <p>第13回～第15回 咀嚼機能の生理実習・脱灰および非脱灰組織標本の作製と染色</p>					
教科書					
<p>最新口腔外科学、第4版、塩田 重利・富田 喜内監修、医歯薬出版、1999.</p> <p>口腔顎顔面外科学総論、道 健一・野間 弘康他編、医歯薬出版、2000.</p> <p>口腔外科学 白砂兼光、古郷幹彦編。― 第3版。― 医歯薬出版、2010.</p> <p>口腔外科学 飯塚忠彦、吉武一貞編集。― 第7版。― 金芳堂、2010。― (Minor textbook).</p>					
参考書					
<p>口腔病理学Ⅰ、Ⅱ、石川 梧朗、秋吉 正豊、永末書店、1978―1982.</p> <p>口腔顎顔面外科学各論、道 健一・野間 弘康他編、医歯薬出版、2000.</p> <p>スタンダード口腔病態病理学 賀来亨、槻木恵一編集― 第2版。― 学建書院、2013.</p> <p>新口腔病理学 下野正基、高田隆編 ― 医歯薬出版、2008.</p>					
オフィスアワー					
随時：アポイントメントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
URL： 教室ホームページ http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~dent/					
E-Mail： 三宅 実 dentmm@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
頭頸部病学	選択科目	2	通年		987423
講義題目	関連授業課目				
頭頸部領域の疾患、特に腫瘍性疾患の理解					
担当教員名	履修推奨科目				
星川 広史、宮下 武憲					
授業の概要					
<p>頭頸部領域（特に口腔、咽頭、喉頭）の解剖・機能を理解するとともに、そこから発生する腫瘍性疾患について知識を深める。特に頭頸部領域の悪性腫瘍の疫学的事項、生物学的特性、発症機序や進展に関与する分子機構などに関する最新の知見を学ぶ。</p> <p>さらに、慢性炎症と癌との関連についての基礎的研究成果が実際の臨床にどのように生かされているかを知り、今後の研究課題を議論する。</p>					
授業の目的・達成目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 口腔、咽頭、喉頭の解剖およびその機能を理解する。 2) 発声、嚥下機能とその機能障害を理解する。 3) 頭頸部癌の疫学、生物学的特性、発生や進展に関与する分子機構を理解する。 4) 慢性炎症と癌との関連についてその分子機構を理解する。 					
授業及び学習の方法					
<p>頭頸部腫瘍疾患の病理標本の分析的観察。</p> <p>頭頸部腫瘍疾患に関する最新の基礎的・臨床的研究に関する文献を検索し、系統的に要約を作成する。</p>					
成績評価の方法と基準					
<p>講義に関しては提出されたレポートを評価する。</p> <p>合わせて口頭試問、グループ討論を行い提出されたレポートとの総合評価とする。</p>					
授業計画					
1回	口腔、咽頭、喉頭の解剖およびその機能				講義
2回～3回	発声、嚥下機能とその機能障害				講義
4回～6回	頭頸部癌の疫学、生物学的特性、発生や進展に関与する分子機構				講義
7回～8回	慢性炎症と癌との関連についてその分子機構				講義
1回～3回	口腔、咽頭、喉頭の解剖およびその機能				実習
4回～6回	発声、嚥下機能とその機能障害				実習
7回～11回	頭頸部癌の疫学、生物学的特性、発生や進展に関与する分子機構				実習
12回～15回	慢性炎症と癌との関連についてその分子機構				実習
教科書					
<p>新 図説耳鼻咽喉科・頭頸部外科講座 4, 5 メディカルビュー社</p> <p>耳鼻咽喉科・頭頸部外科病理カラーアトラス 金原出版</p> <p>頭頸部腫瘍学入門 宮原 裕 東京医学社</p>					
参考書					
<p>CLIENT 21-21世紀耳鼻咽喉科領域の臨床 中山書店</p> <p>頭頸部腫瘍治療における化学療法の役割 東京医学社</p>					
オフィスアワー					
随時：アポイントメントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail : hiro@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
耳鼻咽喉疾患学	選択科目	2	通年		987424
講義題目	関連授業課目				
聴覚平衡機能生理学と内耳疾患					
担当教員名	履修推奨科目				
星川 広史、宮下武憲					
授業の概要					
聴覚と平衡の生理学ならびに聴覚・平衡機能障害を起こす内耳疾患の病態生理、診断学、治療法に関する知識を深める。聴覚・平衡機能検査を修得し、機能障害所見を理解する。					
授業の目的・達成目標					
1) 聴覚・平衡機能を理解する。 2) 聴覚・平衡障害を起こす疾患を説明できる。 3) 内耳疾患の診断法を説明できる。					
授業及び学習の方法					
講義において配布するプリントやマルチメディアによる情報提供等により学習する。 最新の基礎的・臨床的研究に関する文献を検索し、系統的に要約を作成する。					
成績評価の方法と基準					
与えられたテーマに関するレポートを作成し評価する。 合わせて口頭試問を行い、総合的に評価する。					
授業計画					
第1－2回 内耳の解剖と機能 第3－4回 聴覚平衡神経路の解剖 第5－6回 聴覚、平衡機能生理 第7－8回 聴覚機能検査 第9－10回 平衡機能検査 第11－12回 内耳電位測定法 第13－14回 聴覚、平衡障害を起こす疾患 第15回 内耳疾患の診断					
教科書					
八木聰明：新図説耳鼻咽喉科・頭頸部外科講座 1. 内耳 (メディカルビュー社)					
参考書					
神崎 仁：図説耳鼻咽喉科 NEW APPROACH 3 聴覚情報処理とその異常 (メディカルビュー社)					
オフィスアワー					
随時：アポイントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail : hiro@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名 放射線医学	科目区分 選択科目	単位数 2	開講時期等 通年	時間割	授業コード 987425
講義題目	関連授業課目				
担当教員名 西山 佳宏、山本由佳	履修推奨科目				
授業の概要					
単純X線検査、消化管造影検査、コンピュータ断層撮影 (CT) 検査、磁気共鳴イメージング (MRI) 検査、核医学検査といった画像診断法について、原理、各種疾患の所見、適応ならびに総合診断における位置づけを実践的に学習し、最終診断に至るまでの考え方について学ぶ。また、Interventional Radiology (IVR)の適応、限界、合併症の可能性などを学ぶ。					
授業の目的・達成目標					
画像診断検査の原理、方法、適応、判断法、安全管理を理解する。またIVRの適応、手技を理解し習得する。					
授業及び学習の方法					
実際の臨床例を題材としてプレゼンテーションを行う。IVRの実際に立ち会い、技術を体験する。					
成績評価の方法と基準					
読影診断レポート、症例検討会の発表をもって評価する。					
授業計画					
第1回－第2回：単純X線検査 第3回－第4回：消化管造影検査 第5回－第7回：CT検査 第8回－第10回：MRI検査 第11回－第13回：核医学検査 第14回－第15回：IVR					
教科書					
標準放射線医学 (医学書院)					
参考書					
放射線医学総論 (金芳堂)					
オフィスアワー					
随時					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp					
E-Mail : radiol@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
痛み学	選択科目	2	通年		987426
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
白神 豪太郎					
授業の概要					
1. 意識と痛みに関連する神経機構の解剖、生理、病態生理 2. 麻酔・周術期の意識制御、急性痛治療、認知機能障害治療 3. 慢性痛治療					
授業の目的・達成目標					
1. 意識と痛みに関わる神経機構の形態と機能の理解 2. 意識と痛み受容に影響する薬物とその作用機序の理解 3. 異常痛発生機序と治療の理解 4. 周術期認知機能障害の発症機序と治療の理解					
授業及び学習の方法					
1. 標準的教科書による知識整理 2. 基礎的研究、臨床的研究の最新文献の講読 3. 今後の研究の進むべき方向と可能性についての議論					
成績評価の方法と基準					
1. 必須知識についてのチェック項目による自己評価 2. 授業計画に示すテーマについてのレポート					
授業計画					
1回 意識に関連する神経機構、意識のモニタリング 2回 意識に関連する薬剤 3回 意識の制御 4回 痛みに関連する神経機構、痛みのモニタリング 5回 痛み受容に関連する薬剤 6回 急性痛治療：局所・区域麻酔 7回 急性痛治療：薬物療法、その他 8回 慢性痛治療：薬物療法 9回 慢性痛治療：神経ブロック 10回 慢性痛治療：心理療法、その他 11回 がん性痛の治療 12回 緩和医療 13回 小児周術期認知機能障害 14回 成人周術期認知機能障害 15回 レポート発表と討論					
教科書					
Bonica's Management of Pain, 4th ed, ed by Fishman SM et al, Lippincott Williams & Wilkins, 2009					
Miller's Anesthesia 8th ed, ed by Miller RD, Churchill Livingstone, 2015					
参考書					
講義中に文献を提示 関連文献検索を指導					
オフィスアワー					
随時アポイントを受け付ける。					
履修上の注意					
特になし。					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail :					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
呼吸循環制御学	選択科目	2	通年		987427
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
白神 豪太郎					
授業の概要					
急性の呼吸・循環不全に対する治療を合理的に行うための基礎となる病態生理を講義する					
授業の目的・達成目標					
1. 呼吸生理学、呼吸病態生理学の理解 2. 循環生理学、循環病態生理学の理解 3. 各種の機械的呼吸・循環サポートの理解					
授業及び学習の方法					
最新の基礎的、臨床的研究に関する文献を検索し、系統的に要約を作成し知識を深めていく。					
成績評価の方法と基準					
講義中の質問に対する応答、態度などで総合的に評価する。					
授業計画					
1回 呼吸生理学 2回 呼吸病態生理学：呼吸器疾患 3回 人工呼吸器 4回 呼吸病態生理学：ARDS 5回 呼吸病態生理学：侵襲と呼吸不全 6回 呼吸不全患者の麻酔・周術期管理 7回 レポート発表、討論 8回 循環生理学 9回 循環モニタリング 10回 循環病態生理学：心疾患 11回 循環病態生理学：急性循環不全、ショック 12回 循環系に作用する薬物 13回 補助循環 14回 心疾患患者の麻酔・周術期管理 15回 レポート発表、討論					
教科書					
Miller's Anesthesia 8th ed, ed by Miller RD, Elsevier Churchill Livingstone, 2015.					
参考書					
講義中に文献を提示					
オフィスアワー					
随時（要：アポイントメント）					
履修上の注意					
特になし					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail :					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
小児科学	選択科目	2	通年		987428
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
日下 隆、岡田 仁					
授業の概要					
<p>小児期の成長と発達に関する生理・代謝学的特徴、小児期特有の疾患に関する病態生理を概説する。 また胎児期、新生児期、幼児期の要因に起因する成人期の疾患に関する病態生理を概説する。 それらの理解を基礎に、疾患の診断、治療、予防方法を概説し、それらの新しい取り組み方を検討する。</p>					
授業の目的・達成目標					
<p>小児期の成長と発達に関する生理・代謝学的特徴を理解し、それらの特徴に起因する小児期特有の疾患に関する病態生理を理解する。 また胎児期、新生児期、幼児期の要因に起因する成人期の疾患に関する病態生理を理解する。 それらの理解を基礎に、疾患の新しい診断、治療、予防方法の確立方法の基本的考え方や実施方法を習得する。</p>					
授業及び学習の方法					
講義を主体とする。また小児科学研究に関する論文等を検索し、項目毎に系統的に要約を作成する。					
成績評価の方法と基準					
必要に応じてレポートを課すことがある。					
授業計画					
1－2回 発達小児科学：小児の成長・発達の特徴や栄養 3－5回 新生児学：新生児期の循環・代謝の特異性とそれを基礎にした疾患とその管理 6－7回 小児薬物代謝学：小児期特有の薬物代謝とそれを基礎にした薬物治療 8－10回 発達神経学：小児期特有の神経疾患の病態生理、その治療と予防方法 11－12回 発達精神学：発達障害等の小児期特有の精神疾患の病態生理、その治療と予防方法 13－15回 症例検討					
教科書					
小児科学 大関、近藤総編集、第3版 医学書院 小児科 診断・治療指針 遠藤文夫 総編集 中山書店 講義録 小児科学 佐地 勉 編集 Medical view 新生児学 小川、多田ら編集 メディカ出版 ネルソン小児科学 衛藤 衛監修 原著第19版 エルゼビア・ジャパン					
参考書					
オフィスアワー					
木曜日：17～18時					
履修上の注意					
URL： http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail： syounika@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
内分泌代謝学	選択科目	2	通年		987429
講義題目	関連授業課目				
グルコース応答性インスリン合成機序					
担当教員名	履修推奨科目				
村尾 孝児、井町 仁美					
授業の概要					
<p>生体において血糖は厳密にコントロールされている。これは膵β細胞より、血糖に応じてインスリンが適切に合成分泌されるためである。この機序が破綻するようなことがあれば、血糖値が上昇し糖尿病が発症する。本講義では生理的なグルコース応答性インスリン合成メカニズムの最新の知見を講義し、今後の研究課題について学生同士で討論をおこなう。</p>					
授業の目的・達成目標					
グルコース応答性インスリン合成メカニズムを概説し、情報伝達と遺伝子発現の基本的なメカニズムを理解する。					
授業及び学習の方法					
<ol style="list-style-type: none"> 膵β細胞におけるグルコセンサーについて グルコース刺激による細胞内情報伝達系の概説 グルコース刺激による核内転写因子の活性化機序の解説 インスリン遺伝子転写とインスリン分泌までの機序の解説 					
成績評価の方法と基準					
講義への出席とレポート作成による理解度を評価対象とする					
授業計画					
第1～4回 膵β細胞におけるグルコセンサー 第5～8回 グルコース刺激による細胞内情報伝達系 第9～12回 グルコース刺激による核内転写因子の活性化機序 第13～15回 インスリン遺伝子転写とインスリン分泌					
教科書					
Williams Textbook of ENDOCRINOLOGY					
参考書					
THERAPY FOR DIABETES MELLITUS AND RELATED DISORDERS					
オフィスアワー					
水曜日 午後13 - 18時 随時アポイントによる質問をうける					
履修上の注意					
講義で学んだことを、学生自身の研究テーマへ応用するように考えること。					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail : mkoji@med.kagawa-u.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
糖尿病学	選択科目	2	通年		987430
講義題目	関連授業課目				
栄養代謝学					
担当教員名	履修推奨科目				
村尾孝児、井町仁美					
授業の概要					
<p>栄養代謝学講義および演習では、糖尿病などの栄養代謝性疾患に関する重要な論文、最新の論文を紹介して、代謝性疾患の病態を分子レベルで理解する。</p>					
授業の目的・達成目標					
<p>栄養代謝疾患の理解には、疾患に関わる栄養素の物質としての性質とその作用機序を正確に理解することが重要である。特に、重要な論文・最新の論文を読み合わせて、(1) 正常な状態における最新の代謝を理解する。(2) 個々の栄養代謝疾患の発症の背景や分子異常や分泌調節異常など分子レベルで解析が進んだ最新の知見を理解する。</p>					
授業及び学習の方法					
<p>教科書を学生とともに読み合わせた上で、教員は講義として全体をまとめて解説する。また、授業の最後に課題を与えてレポートを提出させる。演習は栄養代謝学講義を受けたことを前提に実施する。本演習では栄養素や栄養代謝疾患に関連した論文を学生に与えて、担当学生による論文の解説を行った後、論文を題材に参加者全員で議論する。</p>					
成績評価の方法と基準					
<p>個人発表および課題レポートを評価する。</p>					
授業計画					
<p>第1～4回 栄養代謝性疾患の概説 第5～8回 糖尿病 第9～12回 核酸代謝異常 第13～15回 脂質代謝異常</p>					
教科書					
<p>Williams Textbook of Endocrinology (10th edition)</p>					
参考書					
<p>随時、最新論文を提供する</p>					
オフィスアワー					
<p>原則として授業中、授業後に質問を受けるが、事前にアポイントメントを取れば随時対応したい。</p>					
履修上の注意					
<p>論文の解説を担当する学生は、論文を簡単に説明できるようにレジюмеを作って授業当日に配布できるようにする。担当学生以外も事前に当該論文を読んで理解しておくことが望ましい。</p>					
<p>URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/</p>					
<p>E-Mail : mkoji@med.kagawa-u.ac.jp</p>					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
救急救命医学	選択科目	2	通年		987431
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
黒田泰弘					
授業の概要					
重症脳障害の病態と治療に関して、病態、治療につながる研究を基礎研究と臨床試験を組み合わせを行い、新しい治療法を開発することを目的とする。					
授業の目的・達成目標					
1) 重症脳障害の病態の研究テーマをみつけresearch questionを作り、論文化することができる。 2) 重症脳障害の治療の研究テーマをみつけresearch questionを作り、論文化することができる。					
授業及び学習の方法					
講義および演習を行う。重症脳障害の病態と治療に必要なスキルを身につける。最近文献を検索し、系統的に要約を作成し知識を深め、データをとり論文化する。					
成績評価の方法と基準					
出席、取得した知識と技術、論文により評価する					
授業計画					
第1回 重症脳障害：総論	第9回 重症脳障害：脳内酸素飽和度				
第2回 重症脳障害：心停止モデル	第10回 重症脳障害：頭蓋内圧				
第3回 重症脳障害：虚血障害	第11回 重症脳障害：内頸静脈酸素飽和度				
第4回 重症脳障害：再灌流障害	第12回 重症脳障害：経頭蓋ドップラー				
第5回 重症脳障害：バイオマーカー	第13回 重症脳障害：脳マイクロダイアリシス				
第6回 重症脳障害：脳循環代謝	第14回 重症脳障害：鎮痛鎮静				
第7回 重症脳障害：体温管理	第15回 重症脳障害：総括				
第8回 重症脳障害：脳波					
教科書					
参考書					
Kuroda. Neurocritical care update, Journal of Intensive Care 2016, 4:35, Nakashima, et al. Critical care management focused on optimizing brain function after cardiac arrest, Cir J 2017 81 427					
オフィスアワー					
講義、演習において随時質問可能です。毎週水曜日13～15時にセミナーを開催しています。					
履修上の注意					
積極的に参加、発言してください					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~emd/					
E-Mail : kuroday@kms.ac.jp					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
形態機能学	選択科目	2	通年		987432
講義題目	関連授業課目				
マイクロサージャリーの実践と再生医療					
担当教員名	履修推奨科目				
永竿智久、真柴 賛					
授業の概要					
形成外科的疾患の特徴と治療の意義について、理解を深める目的で講義を行う。 再生医療と血管新生 マイクロサージャリーの理論と実践について講義を行う。					
授業の目的・達成目標					
形成外科的疾患の特徴と治療の意義を理解すること。血管吻合ができるようになる。					
授業及び学習の方法					
講義および課題の提出。血管吻合の実験モデルでの練習。基礎研究（再生医療）の講義と実習。					
成績評価の方法と基準					
学習態度や提出された課題等で総合的に評価する。					
授業計画					
第1回 マイクロサージャリーの臨床的重要性について 第2回～第8回 シリコンチューブを用いた実習 第9回～第12回 鶏肉を用いた実習 第13回～第15回 実験動物を用いた実習					
教科書					
TEXT形成外科学（南山堂）					
参考書					
オフィスアワー					
医局内線2811					
履修上の注意					
再生医療とマイクロサージャリーに興味のある方を歓迎します。					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail : nagasao@med.kagawa-u.ac.jp（教授）					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード																
薬学	選択科目	2	通年		987433																
講義題目	関連授業課目																				
担当教員名	履修推奨科目																				
芳地 一																					
授業の概要																					
薬物は、生体内で様々な情報伝達を行い、その結果として生理活性を示している。薬物固有の情報伝達経路を知ることは薬物治療において重要である。また近年、複数の医薬品を用いることによる副作用も問題視されている。医薬品の適正使用について概説する。																					
授業の目的・達成目標																					
「目的」：医療に必要な不可欠な医薬品を適正に使用できる医療従事者の育成を目的とする。 「達成目標」：1) 体内薬物の動きを説明できる。 2) 医薬品の適正使用について説明できる。 3) 将来に必要とされる医薬品を考察できる。																					
授業及び学習の方法																					
講義に加えて、必要に応じて文献購読を行なう。																					
成績評価の方法と基準																					
出席および課題レポートにより評価する。																					
授業計画																					
<table border="0"> <tr> <td>(1) 総論</td> <td>(8) 薬物の有害作用について</td> </tr> <tr> <td>(2) 情報伝達経路について</td> <td>(9) 医薬品の適正使用について</td> </tr> <tr> <td>(3) 薬物の吸収と分布について</td> <td>(10) 治験について</td> </tr> <tr> <td>(4) 薬物血中濃度測定とその意義について</td> <td>(11) 小児および高齢者に対する医薬品について</td> </tr> <tr> <td>(5) 薬物の代謝について</td> <td>(12) 医薬品の添付文書について</td> </tr> <tr> <td>(6) 薬物の排泄について</td> <td>(13) 服薬と患者指導について</td> </tr> <tr> <td>(7) 薬物の相互作用について</td> <td>(14) 最新医薬品について</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(15) まとめ</td> </tr> </table>						(1) 総論	(8) 薬物の有害作用について	(2) 情報伝達経路について	(9) 医薬品の適正使用について	(3) 薬物の吸収と分布について	(10) 治験について	(4) 薬物血中濃度測定とその意義について	(11) 小児および高齢者に対する医薬品について	(5) 薬物の代謝について	(12) 医薬品の添付文書について	(6) 薬物の排泄について	(13) 服薬と患者指導について	(7) 薬物の相互作用について	(14) 最新医薬品について		(15) まとめ
(1) 総論	(8) 薬物の有害作用について																				
(2) 情報伝達経路について	(9) 医薬品の適正使用について																				
(3) 薬物の吸収と分布について	(10) 治験について																				
(4) 薬物血中濃度測定とその意義について	(11) 小児および高齢者に対する医薬品について																				
(5) 薬物の代謝について	(12) 医薬品の添付文書について																				
(6) 薬物の排泄について	(13) 服薬と患者指導について																				
(7) 薬物の相互作用について	(14) 最新医薬品について																				
	(15) まとめ																				
教科書																					
特に指定をしない。																					
参考書																					
オフィスアワー																					
随時、アポイントにより質問の時間を設ける。																					
履修上の注意																					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/																					
E-Mail : houchi@medkagawa-u.ac.jp																					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード																														
小児外科学	選択科目	4	通年		987434																														
講義題目	関連授業課目																																		
	臨床栄養・微生物学																																		
担当教員名	履修推奨科目																																		
下野 隆一	臨床栄養・微生物学																																		
授業の概要																																			
小児外科学一般の理解と難治性疾患の対策を討論する																																			
授業の目的・達成目標																																			
小児外科一般と難治性である肺低形成および小児消化管不全について理解する																																			
授業及び学習の方法																																			
講義 実験見学																																			
成績評価の方法と基準																																			
レポート提出																																			
授業計画																																			
<table border="0"> <tr> <td>① 小児外科の特徴について理解する</td> <td>⑩ 同上</td> </tr> <tr> <td>② 同上</td> <td>⑪ 小児の栄養療法の特色について理解する</td> </tr> <tr> <td>③ 小児期の成長の特徴について理解する。</td> <td>⑫ 同上</td> </tr> <tr> <td>④ 同上</td> <td>⑬ 小児輸液療法について理解する</td> </tr> <tr> <td>⑤ 小児外科難治性疾患について理解する</td> <td>⑭ 同上</td> </tr> <tr> <td>⑥ 同上</td> <td>⑮ NO療法について理解する</td> </tr> <tr> <td>⑦ 肺低形成について理解する</td> <td>⑯ 同上</td> </tr> <tr> <td>⑧ 同上</td> <td>⑰ ECMOについて理解する</td> </tr> <tr> <td>⑨ 肺高血圧症について離解する</td> <td>⑱ 同上</td> </tr> <tr> <td>⑩ 同上</td> <td>⑲ Extensive aganglionosisについて理解する</td> </tr> <tr> <td>⑪ 短腸症候群と栄養不全について理解する</td> <td>⑳ 同上</td> </tr> <tr> <td>⑫ 同上</td> <td>㉑ Hirschsprung病類縁疾患について理解する</td> </tr> <tr> <td>⑬ 経静脈栄養方法の特色について理解する</td> <td>㉒ 同上</td> </tr> <tr> <td>⑭ 同上</td> <td>㉓ 腸回転異常症について理解する</td> </tr> <tr> <td>⑮ 経腸栄養法について理解する</td> <td>㉔ 同上</td> </tr> </table>						① 小児外科の特徴について理解する	⑩ 同上	② 同上	⑪ 小児の栄養療法の特色について理解する	③ 小児期の成長の特徴について理解する。	⑫ 同上	④ 同上	⑬ 小児輸液療法について理解する	⑤ 小児外科難治性疾患について理解する	⑭ 同上	⑥ 同上	⑮ NO療法について理解する	⑦ 肺低形成について理解する	⑯ 同上	⑧ 同上	⑰ ECMOについて理解する	⑨ 肺高血圧症について離解する	⑱ 同上	⑩ 同上	⑲ Extensive aganglionosisについて理解する	⑪ 短腸症候群と栄養不全について理解する	⑳ 同上	⑫ 同上	㉑ Hirschsprung病類縁疾患について理解する	⑬ 経静脈栄養方法の特色について理解する	㉒ 同上	⑭ 同上	㉓ 腸回転異常症について理解する	⑮ 経腸栄養法について理解する	㉔ 同上
① 小児外科の特徴について理解する	⑩ 同上																																		
② 同上	⑪ 小児の栄養療法の特色について理解する																																		
③ 小児期の成長の特徴について理解する。	⑫ 同上																																		
④ 同上	⑬ 小児輸液療法について理解する																																		
⑤ 小児外科難治性疾患について理解する	⑭ 同上																																		
⑥ 同上	⑮ NO療法について理解する																																		
⑦ 肺低形成について理解する	⑯ 同上																																		
⑧ 同上	⑰ ECMOについて理解する																																		
⑨ 肺高血圧症について離解する	⑱ 同上																																		
⑩ 同上	⑲ Extensive aganglionosisについて理解する																																		
⑪ 短腸症候群と栄養不全について理解する	⑳ 同上																																		
⑫ 同上	㉑ Hirschsprung病類縁疾患について理解する																																		
⑬ 経静脈栄養方法の特色について理解する	㉒ 同上																																		
⑭ 同上	㉓ 腸回転異常症について理解する																																		
⑮ 経腸栄養法について理解する	㉔ 同上																																		
教科書																																			
標準小児外科学（第7版）医学書院																																			
参考書																																			
Pediatric Surgery (7 th ed)																																			
オフィスアワー																																			
9:00-16:00																																			
履修上の注意																																			
単元ごとにレポートをまとめることが望ましい。																																			
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~psurgery/staff/index.html																																			
E-Mail: shi-mono@med.kagawa-u.ac.jp																																			

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
共通コアカリキュラム	選択科目	1	前期		987580 (987501)
講義題目	関連授業課目				
研究方法論応用	悪性腫瘍の管理と治療、医療倫理学・医療経済学、医療対話学、がんチーム医療実習、医療情報学（腫瘍学における情報システム）				
担当教員名	履修推奨科目				
竹崎直子、正木勉、舩形尚、西山成、辻晃仁、宮武伸行					
授業の概要					
臨床研究の立案し、実施するための学力を養うため、疫学、研究論、統計学について学習する					
授業の目的・達成目標					
がん疫学論、臨床研究論、医療統計学を履修し、臨床第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ相試験のデザイン、プロトコールの立案、作成について修得する。					
授業及び学習の方法					
当該コースの学生の必修科目（8コマ以上選択）である。					
成績評価の方法と基準					
講義の終わりに毎回レポート用紙を配布、講義内容あるいは講義担当教員の出題に解答したものを提出する。このレポート用紙1枚につき最大4点を賦与、学年末に集計して合計を得点とする。学則に従い、60点以上を持って合格とする。なお、単位の認定は共通コア科目を総合して行う。（4単位）					
授業計画					
(がん疫学論) 臨床疫学 (臨床研究論) 1. 英語論文の読み方と書き方 2. 原著論文と症例報告の記載法 3. EBM：情報検索から意思決定まで 4. 自主臨床研究の手続き 5. 臨床試験と薬物動態 6. 研究デザイン1 介入研究 7. 研究デザイン2 コホート研究、症例対照研究 (医学統計学) 1. 統計学基礎 2. 統計学演習1 e-learning 教材については別途案内する。					
教科書					
講義の際に関連文献の紹介を行う。また e-learning 教材は「中国・四国広域がんプロ養成プログラム」コンソーシアムのホームページからダウンロードできる。					
参考書					
後日通知する。					
オフィスアワー					
随時アポイントメントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
当該コースの学生の必修科目である。					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail :					

授業科目名 共通コアカリキュラム	科目区分 選択科目	単位数 1	開講時期等 後期	時間割	授業コード 987580 (987502)																		
講義題目 悪性腫瘍の管理と治療	関連授業課目 がん疫学論、臨床研究論、医療統計学、医療倫理学・医療経済学、医療対話学、がんチーム医療実習、医療情報学(腫瘍学における情報システム)																						
担当教員名 門脇則光、南野哲男、正木勉、横見瀬裕保、西山佳宏、辻晃仁、柴田徹、紺谷桂一、中條浩介、井町仁美、羽場礼次、串田吉生、山上有紀、今滝修、安藤延男、加地良雄	履修推奨科目																						
授業の概要 悪性腫瘍の検査、診断から治療法について学習する																							
授業の目的・達成目標 <ul style="list-style-type: none"> 手術療法、放射線療法、化学療法、内分泌療法、分子標的治療、遺伝子治療、幹細胞移植と骨髄移植、Oncologic emergency、腫瘍随伴症候群について履修する。 感染症やその他の合併症、疼痛・消化器症状・精神神経症状、輸血療法と造血因子、終末期ケアと在宅緩和医療、代替医療について履修する。 がんと加齢の問題、患者の評価、高齢者のがんと心理社会的問題について履修する。 心理社会的サポート、がんの診断・治療に伴う精神的葛藤、がんへの対処における適応行動と不適応行動、向精神薬の適応、医療従事者自身のストレス対処について履修する。 																							
授業及び学習の方法 当該コースの学生の必修科目(8コマ選択するができるだけ各自の専門領域外の講義を選ぶ)である。																							
成績評価の方法と基準 講義の終わりに毎回レポート用紙を配布、講義内容あるいは講義担当教員の出題に解答したものを提出する。このレポート用紙1枚につき最大4点を賦与、学年末に集計して合計を得点とする。学則に従い、60点以上を持って合格とする。なお、単位の認定は共通コア科目を総合して行う。(4単位)																							
授業計画 <table border="0"> <tr> <td>1. 検査法</td> <td>10. がんに関する救急対応</td> </tr> <tr> <td>2. 画像診断</td> <td>11. 腫瘍随伴症候群、合併症管理</td> </tr> <tr> <td>3. 病理診断</td> <td>12. 輸血療法、生物製剤</td> </tr> <tr> <td>4. 手術療法</td> <td>13. 老年病学</td> </tr> <tr> <td>5. 放射線療法</td> <td>14. 緩和医療と支持療法</td> </tr> <tr> <td>6. 化学療法・分子標的薬</td> <td>15. がん性疼痛</td> </tr> <tr> <td>7. 免疫療法</td> <td>16. サイコオンコロジー</td> </tr> <tr> <td>8. 遺伝子治療</td> <td>17. 終末期ケアと在宅緩和医療</td> </tr> <tr> <td>9. 造血器幹細胞移植</td> <td>18. リハビリテーション</td> </tr> </table> e-learning 教材については別途案内する。						1. 検査法	10. がんに関する救急対応	2. 画像診断	11. 腫瘍随伴症候群、合併症管理	3. 病理診断	12. 輸血療法、生物製剤	4. 手術療法	13. 老年病学	5. 放射線療法	14. 緩和医療と支持療法	6. 化学療法・分子標的薬	15. がん性疼痛	7. 免疫療法	16. サイコオンコロジー	8. 遺伝子治療	17. 終末期ケアと在宅緩和医療	9. 造血器幹細胞移植	18. リハビリテーション
1. 検査法	10. がんに関する救急対応																						
2. 画像診断	11. 腫瘍随伴症候群、合併症管理																						
3. 病理診断	12. 輸血療法、生物製剤																						
4. 手術療法	13. 老年病学																						
5. 放射線療法	14. 緩和医療と支持療法																						
6. 化学療法・分子標的薬	15. がん性疼痛																						
7. 免疫療法	16. サイコオンコロジー																						
8. 遺伝子治療	17. 終末期ケアと在宅緩和医療																						
9. 造血器幹細胞移植	18. リハビリテーション																						
教科書 講義の際に関連文献の紹介を行う。また e-learning 教材は「中国・四国広域がんプロ養成プログラム」コンソーシアムのホームページからダウンロードできる。																							
参考書 後日通知する。																							
オフィスアワー 随時アポイントメントにより質問の時間を設ける。																							
履修上の注意 当該コースの学生の必修科目である。																							
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/																							
E-Mail :																							

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
共通コアカリキュラム	選択科目	0.5	通年		987580 (987503)
講義題目	関連授業課目				
医療倫理学・医療経済学	研究方法論応用、悪性腫瘍の管理と治療、医療対話学、がんチーム医療実習、医療情報学（腫瘍学における情報システム）				
担当教員名	履修推奨科目				
三木崇範、平尾智広、鈴木康之、横見瀬裕保					
授業の概要					
医療における倫理と経済学について学習する					
授業の目的・達成目標					
インフォームドコンセント取得の法的要件、研究倫理、救命処置と救命処置中止の法的問題、がんの予防と治療の費用対効果、利益相反について履修する。					
授業及び学習の方法					
当該コースの学生の必修科目（4コマ以上選択する。）である。					
成績評価の方法と基準					
講義の終わりに毎回レポート用紙を配布、講義内容あるいは講義担当教員の出題に解答したものを提出する。このレポート用紙1枚につき最大4点を賦与、学年末に集計して合計を得点とする。学期に依り、60点以上を持って合格とする。なお、単位の認定は共通コア科目を総合して行う。（4単位）					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命倫理とは何か 2. 医学・医療と患者の人権 3. 安楽死・尊厳死をめぐる法と倫理 4. 遺伝子診断・治療と倫理 5. 患者の自己決定権とインフォームドコンセント 6. 研究推進と利益相反 7. 医療経済学 8. がんの医療経済学（2） e-learning 教材については別途案内する。					
教科書					
講義の際に関連文献の紹介を行う。また e-learning 教材は「中国・四国広域がんプロ養成プログラム」コンソーシアムのホームページからダウンロードできる。					
参考書					
後日通知する。					
オフィスアワー					
随時アポイントメントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
当該コースの学生の必修科目である。					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail :					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
共通コアカリキュラム	選択科目	0.5	通年		987580 (987513)
講義題目	関連授業課目				
医療対話学	研究方法論応用、悪性腫瘍の管理と治療、医療倫理学・医療経済学、がんチーム医療実習、医療情報学（腫瘍学における情報システム）				
担当教員名	履修推奨科目				
舩形尚、横井英人、中條浩介、安藤延男					
授業の概要					
チーム医療、患者とのコミュニケーションについて学習する					
授業の目的・達成目標					
診療過程におけるコミュニケーションスキル、好ましくない情報の告知について、対人援助論、院内および地域における医療チーム（多職種チーム）のコミュニケーションとマネジメントについて履修する。					
授業及び学習の方法					
当該コースの学生の必修科目（4コマ以上選択する。）である。					
成績評価の方法と基準					
講義の終わりに毎回レポート用紙を配布、講義内容あるいは講義担当教員の出題に解答したものを提出する。このレポート用紙1枚につき最大4点を賦与、学年末に集計して合計を得点とする。学則に従い、60点以上を持って合格とする。なお、単位の認定は共通コア科目を総合して行う。（4単位）					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療場面での会話を対話にするには 2. チーム医療における対話 3. カウンセリングの理論と技法 4. 医療現場における相談とコンサルテーション 5. 「死」に関する対話 6. がん患者との対話 7. がん患者とのコミュニケーションスキル e-learning 教材については別途案内する。					
教科書					
講義の際に関連文献の紹介を行う。また e-learning 教材は「中国・四国広域がんプロ養成プログラム」コンソーシアムのホームページからダウンロードできる。					
参考書					
後日通知する。					
オフィスアワー					
随時アポイントメントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
当該コースの学生の必修科目である。					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail :					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
共通コアカリキュラム	選択科目	0.5	通年		987580 (987504)
講義題目	関連授業課目				
がんチーム医療実習	研究方法論応用、悪性腫瘍の管理と治療、医療倫理学・医療経済学、医療対話学、医療情報学（腫瘍学における情報システム）				
担当教員名	履修推奨科目				
授業の概要					
がん診療に必要なチーム医療について学習する					
授業の目的・達成目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医師・薬剤師・看護師チームによるがん治療および緩和ケア、在宅緩和医療について講義・演習・実習を行う。 ・ 他職種の役割が理解できる。 ・ 他職種の役割を尊重できる。 ・ 患者を中心として他職種との意見の交換ができる。 ・ 専門職として他職種にアドバイスができる。チームとして行動ができる。 ・ 患者・家族のがん療養環境を改善する提案ができる。 					
授業及び学習の方法					
コンソーシアムとして1泊2日のチーム医療演習を実施し0.5単位を認める。会場は加盟大学の持ち回りとする。					
成績評価の方法と基準					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> 1. チーム医療概論 2. チーム医療演習 3. チーム医療実習がんサージカルボード実習 4. チーム医療実習緩和ケアチーム実習 					
教科書					
講義の際に関連文献の紹介を行う。また e-learning 教材は「中国・四国広域がんプロ養成プログラム」コンソーシアムのホームページからダウンロードできる。					
参考書					
後日通知する。					
オフィスアワー					
随時アポイントメントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
当該コースの学生の必修科目である。					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail :					

授業科目名 共通コアカリキュラム	科目区分 選択科目	単位数 0.5	開講時期等 通年	時間割	授業コード 987580 (987505)
講義題目 医療情報学（腫瘍学における情報システム）	関連授業課目 研究方法論応用、悪性腫瘍の管理と治療、医療倫理学・医療経済学、 医療対話学、がんチーム医療実習				
担当教員名 舛形 尚、横井英人、依田健志	履修推奨科目				
授業の概要 がん診療における情報の収集について学習する					
授業の目的・達成目標 患者向け情報、医療従事者向け情報、インターネット、がん専門医・臨床試験の検索の方法について履修し、EBMの実践が出来る。					
授業及び学習の方法 当該コースの学生の選択科目（4コマ以上選択する。）である。					
成績評価の方法と基準 講義の終わりに毎回レポート用紙を配布、講義内容あるいは講義担当教員の出題に解答したものを提出する。このレポート用紙1枚につき最大4点を賦与、学年末に集計して合計を得点とする。学則に従い、60点以上を持って合格とする。なお、単位の認定は共通コア科目を総合して行う。（4単位）					
授業計画 1. 研究情報収集法（図書館） 2. 医療情報収集 3. EBM 概説 4. EBM の手順 5. EBM の実践 その他e-learning 教材については別途案内する。					
教科書 講義の際に関連文献の紹介を行う。また e-learning 教材は「中国・四国広域がんプロ養成プログラム」コンソーシアムのホームページからダウンロードできる。					
参考書 後日通知する。					
オフィスアワー 随時アポイントメントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意 岡山大学で行われている EBM ワークショップの受講で0.5 単位を認める。					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail :					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
がん専門共通科目	選択科目	1	通年		987590 (987506)
講義題目	関連授業課目				
がんのベーシックサイエンス、臨床薬理学	臨床検査、病理、放射線診断学、臓器別がん治療各論、がん緩和治療				
担当教員名	履修推奨科目				
今井田克己、西山 成、門脇則光、今滝 修					
授業の概要					
<p>「がんのベーシックサイエンス」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんの生物学と遺伝子、がん免疫、がんの病因・疫学・スクリーニング・予防等の基礎科学を履修する。 <p>「がんの臨床薬理学」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬物動態学、薬力学、薬物代謝とクリアランス、pharmacogenomics、抗がん剤の種類と分類、投与量と投与スケジュール、薬剤耐性、効果と毒性の予測について履修する。 					
授業の目的・達成目標					
<p>「がんのベーシックサイエンス」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正常細胞の生物学を理解する。発癌過程を理解する。 ・遺伝子の構造・構成・発現・制御を理解する。 ・細胞周期、腫瘍形成による細胞周期の制御、細胞増殖とのバランスを理解する。 ・腫瘍細胞の動態・増殖・プログラム細胞死・細胞死と細胞増殖とのバランスを理解する。 ・分子技術（PCR法、染色体分析）その他の分子生物学、腫瘍細胞生物学を理解する。 ・腫瘍と宿主の免疫系の関連（腫瘍抗原、免疫を介した腫瘍細胞毒性、サイトカインの作用）を理解する。 ・発がんにおける遺伝子および環境因子の病因を理解する。 ・がんの疫学、疾患の記述、がん登録についての知識を持つ。 ・がんのスクリーニングおよびリスク評価の基本原則を理解する。 ・使用される検査の感度・特異性を理解するとともに費用を把握する。 ・遺伝子スクリーニングとカウンセリングの原則・適応を理解する。 ・発がんならびに進行を予防するためにどのような一次・二次・三次予防法が選択出来るか理解する。 <p>「がんの臨床薬理学」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・化学療法の適応を理解し、初発がんと再発がんに対する化学療法の適応と限界を理解する。 ・薬理学（薬物動態学：pharmacokinetics、薬力学：pharmacodynamics、薬物代謝とクリアランス、pharmacogenomics）を理解する。 ・抗がん剤の種類と分類、ならびに投与量と投与スケジュール（metronomic、Dose-density、dose-intensity、大量化学療法）を理解する。抗がん剤の開発と臨床試験について理解する。 ・薬剤耐性のメカニズムについて理解する。 					
授業及び学習の方法					
当該コースの学生の必修科目（8コマ以上選択）である。					
成績評価の方法と基準					
講義の終わりに毎回レポート用紙を配布、講義内容あるいは講義担当教員の出題に解答したものを提出する。このレポート用紙1枚につき最大4点を賦与、学年末に集計して合計を得点とする。学則に従い、60点以上を持って合格とする。なお、単位の認定はがん専門共通科目を総合して行う。（4単位）					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> 1. がんのベーシックサイエンス 薬剤部との共同講義 2. がんの発生メカニズム・病態生理 3. がんの疫学 4. 大腸がんの遺伝子変異と検便遺伝子診断 5. 肺がんの遺伝子変異と分子標的薬剤 6. 家族性癌とカウンセリング 7. 「がんの臨床薬理学」 薬剤部との共同講義 8. がん薬物療法総論 9. 抗がん剤のPK/PD、臨床薬理 その他e-learning を利用					
教科書					
講義の際に関連文献の紹介を行う。また e-learning 教材は「中国・四国広域がんプロ養成プログラム」コンソーシアムのホームページからダウンロードできる。					
参考書					
後日通知する。					

オフィスアワー
随時アポイントメントにより質問の時間を設ける。
履修上の注意
当該コースの学生の必修科目である。
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/
E-Mail :

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
がん専門共通科目	選択科目	0.5			987590 (987507)
講義題目	関連授業課目				
臨床検査、病理、放射線診断学	がんのベーシックサイエンス、臨床薬理学、臓器別がん治療各論、がん緩和治療				
担当教員名	履修推奨科目				
山本哲司、山本由佳、羽場礼次、串田吉生					
授業の概要					
<p>「がんの臨床検査」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんの診療や研究に必要な臨床検査項目を履修する。 <p>「がんの病理」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんの診療や研究に必要な病理学的知識を履修する。 <p>「がんの放射線診断学」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・staging および follow-up のための画像診断、腫瘍計測、ならびに治療効果判定について履修する。 					
授業の目的・達成目標					
<p>「がんの臨床検査」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各がん腫の発がんに伴う臨床検査の変動を理解する。 2. 適切な腫瘍マーカーの選択ならびに検査時期を理解する。 3. がんスクリーニング、ならびにフォローアップ時における臨床検査の意義を理解する。 <p>「がんの病理」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. がんの確定診断が細胞診ならびに生検により行われることを理解する。 2. 病理診断ががん患者の病期分類や治療にどのように用いられるのかを理解する。 3. 病理手技（細胞診、針吸引細胞診、生検）や標本の取り扱い（免疫染色法、染色体分析、PCR法、フローサイトメーター等）を理解する。 4. TNM 病期分類と分類の方法を理解する。 5. 病理診断を通じて治療の効果を判断する方法を理解する。 <p>「がんの放射線診断学」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レントゲン写真、CT、超音波、MRI、PET、PET-CT、内視鏡による画像診断等について理解する。 2. 放射線診断法を用いて、がんの診断、staging、フォローアップがなされることを理解する。 					
授業及び学習の方法					
当該コースの学生の必修科目である。					
成績評価の方法と基準					
講義の終わりに毎回レポート用紙を配布、講義内容あるいは講義担当教員の出題に解答したものを提出する。このレポート用紙1枚につき最大4点を賦与、学年末に集計して合計を得点とする。学則に従い、60点以上を持って合格とする。なお、単位の認定はがん専門共通科目を総合して行う。（4単位）					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> 1. がんの臨床検査 2. がんの病理 3. がんの放射線診断学 その他e-learning を利用					
教科書					
講義の際に関連文献の紹介を行う。また e-learning 教材は「中国・四国広域がんプロ養成プログラム」コンソーシアムのホームページからダウンロードできる。					
参考書					
後日通知する。					
オフィスアワー					
随時アポイントメントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
当該コースの学生の必修科目である。					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail :					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
がん専門共通科目	選択科目	2	通年		987590 (987508)
講義題目	関連授業課目				
臓器別がん治療各論	がんのベーシックサイエンス、臨床薬理学、臨床検査、病理、放射線診断学、がん緩和治療				
担当教員名	履修推奨科目				
門脇則光、正木 勉、鈴木康之、横見瀬裕保、山本哲司、星川広史、辻 晃仁、出口一志、金西賢治、紺谷桂一、三宅啓介、中條浩介、岡野圭一、杉元幹史、白杵尚志、藤原理朗、呉 哲彦、今滝 修					
授業の概要					
<p>1. 脳腫瘍の各論 脳腫瘍の内科的・外科的・放射線治療、ならびに集学的治療について履修する。</p> <p>2. 頭頸部腫瘍の各論 頭頸部腫瘍の内科的・外科的・放射線治療、ならびに集学的治療について履修する。</p> <p>3. 胸部腫瘍の各論 胸部腫瘍の内科的・外科的・放射線治療、ならびに集学的治療について履修する。</p> <p>4. 造血器腫瘍の各論 造血器腫瘍の内科的・放射線治療、ならびに集学的治療について履修する。</p> <p>5. 消化器腫瘍の各論① 食道がん、胃がん、大腸・直腸がんの内科的・外科的・放射線治療、ならびに集学的治療について履修する。</p> <p>6. 消化器腫瘍の各論② 胆嚢がん、胆道がん、膵臓がんの内科的・外科的、ならびに集学的治療について履修する。</p> <p>7. 消化器腫瘍の各論③ 肝臓がんの内科的・外科的、ならびに集学的治療について履修する。</p> <p>8. 乳腺腫瘍の各論 乳腺腫瘍の内科的・外科的・放射線治療、ならびに集学的治療について履修する。</p> <p>9. 内分泌腫瘍（甲状腺がんを含む）の各論 内分泌腫瘍の内科的・外科的・放射線治療、ならびに集学的治療について履修する。</p> <p>10. 泌尿器科腫瘍の各論 泌尿器科腫瘍の内科的・外科的・放射線治療、ならびに集学的治療について履修する。</p> <p>11. 婦人科腫瘍の各論 婦人科腫瘍の内科的・外科的・放射線治療、ならびに集学的治療について履修する。</p> <p>12. 骨軟部腫瘍の各論 骨軟部腫瘍の内科的・外科的・放射線治療、ならびに集学的治療について履修する。</p> <p>13. 皮膚腫瘍の各論 皮膚腫瘍の内科的・外科的・放射線治療、ならびに集学的治療について履修する。</p> <p>14. 原発不明がんの各論 原発不明がんの内科的・外科的・放射線治療、ならびに集学的治療について履修する。</p> <p>15. 口腔領域のがんの特徴と治療 口腔領域の外科的・放射線治療、ならびに集学的治療について履修する。</p>					
授業の目的・達成目標					
<p>1. 脳腫瘍の各論</p> <p>① 疫学、罹患率、死亡率を理解する。</p> <p>② 病因、病理、および腫瘍生物学を理解する。</p> <p>③ 臨床症状と徴候、ならびに診断に至る画像診断・生検法を理解する。</p> <p>④ 病期分類と予後因子を理解する。</p> <p>⑤ 原発性および転移性脳腫瘍の違いと治療法を理解する。</p> <p>⑥ 治療法（放射線療法、手術療法、ガンマーナイフ）を理解する。</p> <p>⑦ 治療後のフォローアップを理解する。</p> <p>⑧ 支持療法・緩和療法を理解する。</p> <p>2. 頭頸部腫瘍の各論</p> <p>① 疫学、罹患率、死亡率を理解する。</p> <p>② 病因、病理、および腫瘍生物学を理解する。</p> <p>③ 予防（禁酒・禁煙の効果）を理解する。</p> <p>④ 臨床症状と徴候、ならびに診断に至る画像診断・生検法を理解する。</p>					

- ⑤ 病期分類と予後因子を理解する。
 - ⑥ 治療法（放射線療法、手術療法、化学療法、臓器保存）を理解する。
 - ⑦ 治療後のフォローアップを理解する。
 - ⑧ 支持療法・緩和療法を理解する。
3. 胸部腫瘍の各論
- ① 疫学、罹患率、死亡率を理解する。
 - ② 病因、病理、および腫瘍生物学を理解する。
 - ③ 予防（禁煙・化学予防・アスベスト等）を理解する。
 - ④ 臨床症状と徴候、ならびに診断に至る画像診断・細胞診・生検法を理解する。
 - ⑤ 非小細胞癌ならびに小細胞癌、悪性中皮腫、胸腺腫・胸腺癌の分類と予後因子を理解する。
 - ⑥ 治療法（放射線療法、手術療法、化学療法、集学的治療法）を理解する。
 - ⑦ 治療後のフォローアップを理解する。
 - ⑧ 支持療法（特に胸水のマネージメント）・緩和療法を理解する。
4. 造血器腫瘍の各論
- ① 疫学、罹患率、死亡率を理解する。
 - ② 病因、病理、および腫瘍生物学（特に特定のがん遺伝子）を理解する。
 - ③ 診断法（末梢血液像、骨髓穿刺と生検、フローサイトメーターとフェノタイプ、染色体分析、FISH法、特定の遺伝子のPCR法等）ならびに疾患分類を理解する。
 - ④ 標準的治療法、救済療法、骨髓移植について理解する。
 - ⑤ 治療後のフォローアップを理解する。
 - ⑥ 支持療法（特に輸血）・緩和療法を理解する。
5. 消化器腫瘍の各論①
- ① 食道がん、胃がん、大腸・直腸がん、肛門がんの疫学、罹患率、死亡率を理解する。
 - ② 病因（大腸がんにおける遺伝性症候群、肛門がんにおけるHPV・コンジローマ等）、危険因子、病理、および腫瘍生物学を理解する。
 - ③ 臨床症状と徴候や検査所見・スクリーニング法、診断に至る画像診断・内視鏡手技・生検法を理解する。
 - ④ 治療法（放射線療法、手術療法、化学療法、集学的治療法）を理解する。
 - ⑤ 治癒切除後のフォローアップ・そのガイドラインを理解する。
 - ⑥ 支持療法（特に栄養管理）・緩和治療を理解する。
6. 消化器腫瘍の各論②
- ① 胆嚢がん、胆道がん、膵臓がんの疫学、罹患率、死亡率を理解する。
 - ② 病因、危険因子、病理、および腫瘍生物学を理解する。
 - ③ 臨床症状と徴候や検査所見、診断に至る画像診断・内視鏡手技（ERCP）・生検法を理解する。
 - ④ 治療法（放射線療法、手術療法、化学療法、集学的治療法）を理解する。
 - ⑤ 治癒切除後のフォローアップを理解する。
 - ⑥ 支持療法・緩和治療を理解する。
7. 消化器腫瘍の各論③
- ① 肝臓がんの疫学、罹患率、死亡率を理解する。
 - ② 病因（特に肝炎ウイルスやアルコールとの関係）、危険因子、病理、および腫瘍生物学を理解する。
 - ③ 臨床症状と徴候や検査所見、診断に至る画像診断・肝生検法を理解する。
 - ④ 治療法（アブレーション、肝動脈塞栓術、手術療法、化学療法、集学的治療法）を理解する。
 - ⑤ 治癒切除後のフォローアップを理解する。
 - ⑥ 支持療法・緩和治療を理解する。
8. 乳腺腫瘍の各論
- ① 疫学、罹患率、死亡率を理解する。
 - ② 病因（BRCA-①、BRCA-②、その他の遺伝性疾患）、病理、および腫瘍生物学を理解する。
 - ③ 化学予防（タモキシフェンやその他のSERMなど）を理解する。
 - ④ 臨床症状と徴候、ならびに診断に至る画像診断（特にマンモグラフィ）・細胞診・生検法を理解する。
 - ⑤ 分類と予後因子を理解する。
 - ⑥ 治療法（手術療法、放射線療法、化学療法、内分泌療法、集学的治療法）を理解する。
 - ⑦ 治療後のフォローアップを理解する。⑧. 支持療法（特にリンパ浮腫）・緩和療法を理解する。
9. 内分泌腫瘍（甲状腺がんを含む）の各論
- ① 疫学、罹患率、死亡率を理解する。
 - ② 病因（放射線
 - ③ 予防（特に遺伝子カウンセリング）を理解する。
 - ④ 臨床症状（特にホルモン産生に伴う症状）と徴候、ならびに診断に至る画像診断・針吸引細胞診・生検法を理解する。
 - ⑤ 分類と予後因子を理解する。
 - ⑥ 治療法（手術療法、放射線療法、化学療法、内分泌療法、集学的治療法）を理解する。

- ⑦ 治療後のフォローアップを理解する。
 - ⑧ 支持療法（特にホルモンの補充療法）・緩和療法を理解する。
10. 泌尿器科腫瘍の各論
- ① 疫学、罹患率、死亡率を理解する
 - ② 病因（遺伝的素因や家族歴）、病理、および腫瘍生物学を理解する。
 - ③ 予防（禁煙や化学予防）を理解する。
 - ④ 臨床症状と徴候、ならびに診断に至る画像診断・生検法を理解する。
 - ⑤ 病期分類と予後因子を理解する。
 - ⑥ 治療法（放射線療法、手術療法、化学療法、ホルモン療法、臓器保存）を理解する。
 - ⑦ 治療後のフォローアップを理解する。
 - ⑧ 支持療法・緩和療法を理解する。
11. 婦人科腫瘍の各論
- ① 疫学、罹患率、死亡率を理解する
 - ② 病因（BRCA①、BRCA②、HNPCC、HPV）、病理、および腫瘍生物学を理解する。またSTDとしての位置付けとその教育を理解する。
 - ③ 予防（禁煙や化学予防）を理解する。
 - ④ 臨床症状と徴候、ならびに診断に至る画像診断・細胞診・生検法を理解する。
 - ⑤ 病期分類と予後因子を理解する。
 - ⑥ 治療法（放射線療法、手術療法、化学療法、臓器保存）を理解する。
 - ⑦ 治療後のフォローアップを理解する。
 - ⑧ 支持療法・緩和療法を理解する。
12. 骨軟部腫瘍の各論
- ① 疫学、罹患率、死亡率を理解する
 - ② 病因（Li-Fraumeni 症候群、Gardner 症候群、Werner 症候群、Gorlin 症候群、①型神経線維腫症等）、病理、および腫瘍生物学を理解する。
 - ③ 臨床症状と徴候、ならびに診断に至る画像診断・生検法を理解する。
 - ④ 病期分類と予後因子を理解する。
 - ⑤ 治療法（放射線療法、手術療法、化学療法、四肢温存）を理解する。
 - ⑥ 治療後のフォローアップを理解する。
 - ⑦ 支持療法・緩和療法を理解する。
13. 皮膚腫瘍の各論
- ① 疫学、罹患率、死亡率を理解する
 - ② 病因（p①⑥遺伝子変異、CDKN②A、MTS-①、CDK④、FAMM 等）、病理、および腫瘍生物学を理解する。
 - ③ 予防（日光に対する対応）を理解する。
 - ④ 臨床症状と徴候、ならびに診断に至る画像診断・生検法を理解する。
 - ⑤ 病期分類と予後因子を理解する。
 - ⑥ 治療法（放射線療法、手術療法、化学療法、インターフェロン、皮膚移植）を理解する。
 - ⑦ 治療後のフォローアップを理解する。
 - ⑧ 支持療法・緩和療法を理解する。
14. 原発不明がんの各論
- ① 疫学、罹患率、死亡率を理解する
 - ② 病理および分類、腫瘍生物学を理解する。
 - ③ 臨床症状、診断に至る画像診断・生検法を理解する。
 - ④ 治療法（放射線療法、手術療法、化学療法）を理解する。
 - ⑤ 治療後のフォローアップを理解する。
 - ⑥ 支持療法・緩和療法を理解する。
15. 口腔領域のがんの特徴と治療
- ① 疫学、罹患率、死亡率を理解する
 - ② 病理および分類、腫瘍生物学を理解する。
 - ③ 臨床症状、診断に至る画像診断・生検法を理解する。
 - ④ 治療法（放射線療法、手術療法、化学療法）を理解する。
 - ⑤ 治療後のフォローアップを理解する。
 - ⑥ 支持療法・緩和療法を理解する。

授業及び学習の方法

当該コースの学生の必修科目（15コマ以上選択）である。

成績評価の方法と基準

講義の終わりに毎回レポート用紙を配布、講義内容あるいは講義担当教員の出題に解答したものを提出する。このレポート用紙1枚につき最大4点を賦与、学年末に集計して合計を得点とする。学期に依り、60点以上を持って合格とする。なお、単位の認定はがん専門共通科目を総合して行う。（4単位）

授業計画
<ol style="list-style-type: none"> 1. 頭頸部がん 2. 肺がん、そしてがん性胸膜炎・心膜炎 3. リンパ系腫瘍 4. 白血病 5. 造血幹細胞移植、GVHD と免疫抑制剤 6. 食道がん 7. 胃がん、がん性腹膜炎 8. 大腸がん 9. 胆管・膵がん 10. 肝がん 11. 乳がん 12. 泌尿器がん 13. 婦人科がん 14. 骨・軟部肉腫 15. 皮膚がん、漏出性皮膚障害に対する処置 16. 原発不明がん 17. 口腔領域がん <p>その他e-learning を利用</p>
教科書
講義の際に関連文献の紹介を行う。また e-learning 教材は「中国・四国広域がんプロ養成プログラム」コンソーシアムのホームページからダウンロードできる。
参考書
後日通知する。
オフィスアワー
随時アポイントメントにより質問の時間を設ける。
履修上の注意
当該コースの学生の必修科目である。
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/
E-Mail :

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
がん専門共通科目	選択科目	0.5	通年		987590 (987510)
講義題目	関連授業課目				
がん緩和治療	がんのベーシックサイエンス、臨床薬理学、臨床検査、病理、放射線診断学、臓器別がん治療各論				
担当教員名	履修推奨科目				
中村 祐、白神豪太郎、辻 晃仁、角 徳文、 中條浩介、臼杵尚志、松原修司、山上有紀、 今滝 修、安藤延男					
授業の概要					
緩和医療の定義、概念、基本姿勢を学び緩和医療の方法論についての知識を深める。					
授業の目的・達成目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 緩和医療の目的、概念を理解している。 2. 患者の苦痛を全人的苦痛として理解し適切な治療が行える。 3. 緩和ケアや終末期ケアをどのように実施するかを知っている。 4. チームとして緩和医療を行うことができる。 					
授業及び学習の方法					
当該コースの学生の必修科目（4コマ以上選択）である。					
成績評価の方法と基準					
講義の終わりに毎回レポート用紙を配布、講義内容あるいは講義担当教員の出題に解答したものを提出する。このレポート用紙1枚につき最大4点を賦与、学年末に集計して合計を得点とする。学則に従い、60点以上を持って合格とする。なお、単位の認定はがん専門共通科目を総合して行う。（4単位）					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 緩和医療学総論 2. 疼痛マネジメント薬物療法 3. 疼痛マネジメント薬物以外 4. 身体症状マネジメント 5. 精神腫瘍学 6. 家族・遺族ケアサバイバーシップ 7. Spiritual care 8. 在宅緩和ケアe-learning を利用 					
教科書					
講義の際に関連文献の紹介を行う。また e-learning 教材は「中国・四国広域がんプロ養成プログラム」コンソーシアムのホームページからダウンロードできる。					
参考書					
後日通知する。					
オフィスアワー					
随時アポイントメントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
当該コースの学生の必修科目である。					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail :					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
放射線治療法	選択科目	1	通年		987509
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
柴田 徹					
授業の概要					
放射線治療の対象となる各種悪性腫瘍に関して、放射線治療の適応、目的、方法、技術、線量効果関係、有害事象、治療成績について理解する。					
授業の目的・達成目標					
放射線治療技術（外部照射、小線源治療、重粒子線治療）について学ぶ。治療の対象となる代表的な悪性腫瘍について実践的な知識を習得する。放射線治療計画ガイドラインに基づき、治療計画の立案を行う。					
授業及び学習の方法					
放射線腫瘍学に関するセミナー形式の講義を行う。演習・実習ではダミー症例を用いて放射線治療計画の立案を行なう。必要に応じてレポート作成・発表を行い、議論を深める。					
成績評価の方法と基準					
講義への出席、演習、実習を通じて講義実習内容の理解度の把握を行い、総合的に成績評価を行う。					
授業計画					
放射線治療部内の治療設備の紹介、治療計画装置の取り扱い実習を8回行う。 脳腫瘍、頭頸部腫瘍、肺腫瘍、乳腺腫瘍、子宮癌、泌尿器腫瘍、消化器腫瘍、悪性リンパ腫などの各種疾患に対する治療計画、治療法の実際、治療成績を網羅した講義、演習を行う。（各疾患当り1コマの講義を行う）					
教科書					
参考書					
放射線治療計画ガイドライン2012（放射線専門医会編）専門医会のウェブサイトpdfが入手可能である。					
オフィスアワー					
随時アポイントメントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail :					

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
臨床腫瘍学	選択科目	2	通年		987511
講義題目	関連授業課目				
臨床腫瘍学総論	特になし				
担当教員名	履修推奨科目				
辻 晃仁	特に定めない				
授業の概要					
臨床腫瘍学の全体像についての講義を行う					
授業の目的・達成目標					
臨床医に必要な臨床腫瘍学の全体像について理解し説明ができる。					
授業及び学習の方法					
講義中心					
成績評価の方法と基準					
出席と試験					
授業計画					
第1回 腫瘍学総論 第2回 腫瘍内科学 第3回 がん薬物療法療法① 第4回 がん薬物療法療法② 第5回 がん薬物療法療法③ 第6回 がんのチーム医療 第7回 がんのリハビリテーション 第8回 チーム医療 第9回 バイオマーカーの探索 第10回 Interventional Radiology 第11回 サイコオンコロジー 第12回 Oncology Emergency 第13回 支持療法 第14回 臨床試験 第15回 新薬開発 第16回 医療連携					
教科書					
特になし					
参考書					
入門臨床腫瘍学【日本臨床腫瘍学会監修】篠原出版					
オフィスアワー					
随時アポイントメントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/hosp/shinryoka/syuyounaika/					
E-Mail : oncology@medkagawa-u.ac.jp					

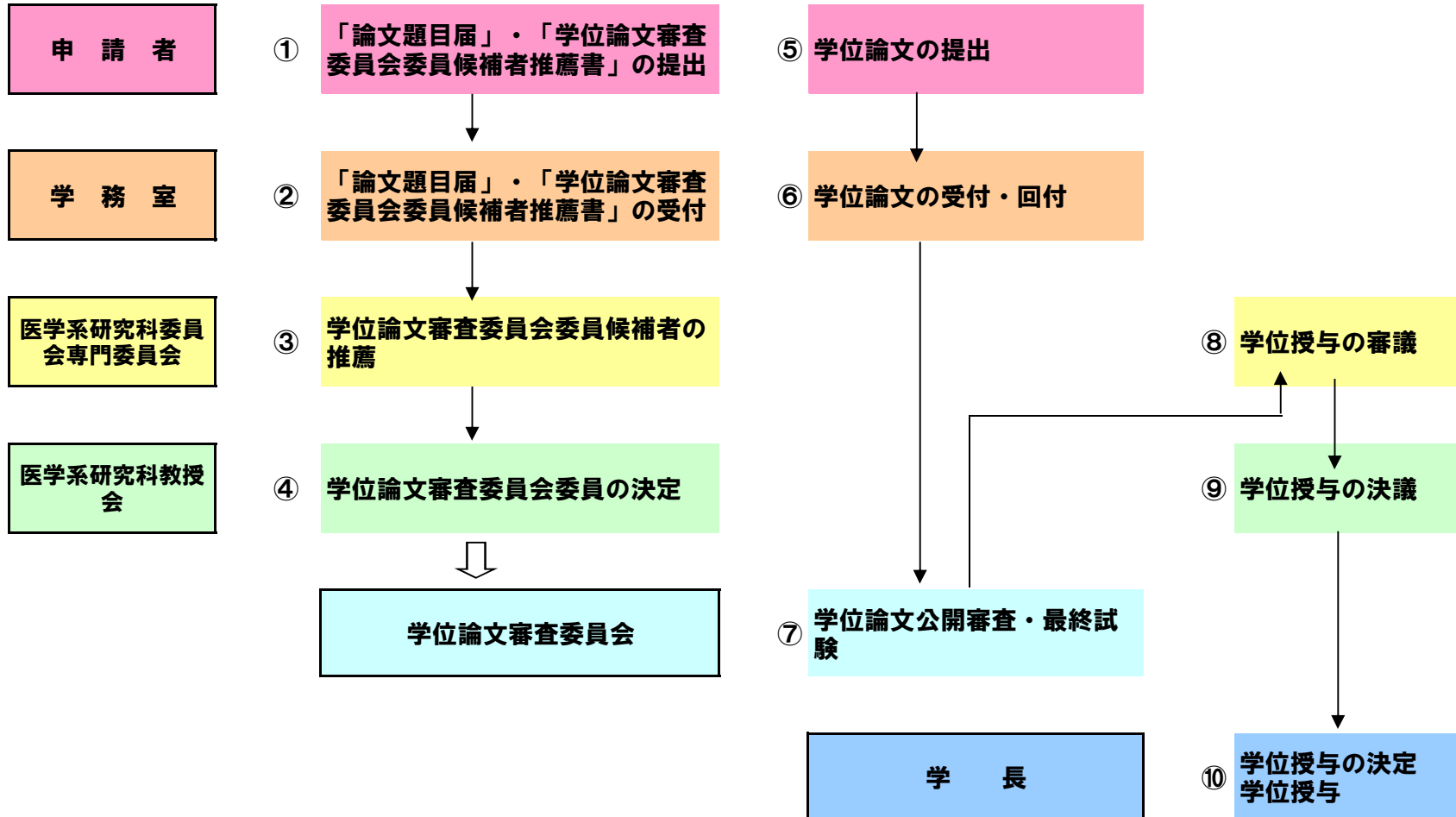
授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
放射線腫瘍学	選択科目	2	通年		987512
講義題目	関連授業科目				
担当教員名	履修推奨科目				
柴田 徹					
授業の概要					
放射線治療の基礎となる生物学的知識を深める目的で、講義・演習・実習を行う。					
授業の目的・達成目標					
<p>生体と放射線の物理学的な相互作用、分子損傷とDNA修復、細胞致死効果、酸素効果、細胞周期など分子レベルから細胞レベルまでの生物学的効果について理解する。</p> <p>悪性腫瘍や正常臓器の放射線感受性、臓器から個体レベルの放射線影響について理解する。</p>					
授業及び学習の方法					
放射線生物学に関するセミナー形式の講義を行う。必要に応じてレポート作成・発表を行い、議論を深める。					
成績評価の方法と基準					
講義への出席、発表・議論を通じた講義実習内容の理解度の把握を行い、総合的に成績評価を行う。					
授業計画					
<p>(1) 放射線の種類 (X線、電子線、粒子線など)、物理的相互作用</p> <p>(2) 放射線によるDNA損傷と修復機構の分子メカニズム</p> <p>(3) 細胞周期、低酸素、回復、再増殖現象等の線量修飾因子</p> <p>(4) 腫瘍の放射線感受性</p> <p>(5) 正常組織の急性反応、晩期反応</p> <p>以上の各主題を網羅した、講義、実習、演習を行う。</p> <p>全15回の講義により (3コマ) 以下の項目をカバーする。</p>					
教科書					
参考書					
放射線基礎医学 第12版 (編著: 青山喬) 金芳堂 ISBN4-7653-1559-2					
オフィスアワー					
随時アポイントメントにより質問の時間を設ける。					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail :					

課題研究

授業科目名	科目区分	単位数	開講時期等	時間割	授業コード
課題研究	必修科目	8	通年		987601
講義題目	関連授業課目				
担当教員名	履修推奨科目				
三木 崇範 外					
授業の概要					
<p>学位論文の研究指導では、各自に与えられた研究テーマに従って、研究の立案、遂行をへて、実験結果を出し、それを論文として完成させ、投稿しアクセプトを得るまでのプロセスを一貫して教授する。個別指導が主となり演習、実験・実習などが総合的に行われる。</p>					
授業の目的・達成目標					
<p>研究の立案から投稿・アクセプトまでの全プロセスを独力で行うことが出来る能力を修得する。</p>					
授業及び学習の方法					
<p>課題研究では、指導教員のもとで個別にきめ細かな研究指導が行われる。 研究の進行度や状況を鑑み、適切な指導を受ける。</p>					
成績評価の方法と基準					
<p>個々の状況を鑑みた総合評価。</p>					
授業計画					
<p>博士課程の後半（配当年次は3、4年次の通年・8単位）において、指導教員と相談の上、定められた年限で博士過程が修了できるように、計画性を以て指導が行われる。 授業計画として、60回分の授業を充当。</p>					
教科書					
<p>特別には定めない。</p>					
参考書					
<p>特別には定めない。</p>					
オフィスアワー					
<p>担当教員と直接アポイントメントを取る。</p>					
履修上の注意					
URL : http://www.med.kagawa-u.ac.jp/					
E-Mail : mikit@med.kagawa-u.ac.jp					

学位論文審査の流れ

課程博士



学生生活支援について

1 授業料免除

学業優秀と認められる者で、経済的理由により授業料を所定の期日までに納入することが困難な者は、願い出により選考の上、その期の授業料の全額又は半額を免除することがある。

2 独立行政法人日本学生支援機構（育英奨学事業）

人物、学業ともに優れ、かつ健康であって経済的理由により修学が困難な者に対して、選考の上、日本学生支援機構奨学規程に基づいて、次の奨学金が貸与される。

種 別	貸 与 月 額
第一種奨学金（無利子）	80,000 円、122,000 円、
第二種奨学金（有利子）	5 万円、8 万円、10 万円、13 万円、15 万円

3 学生教育研究災害障害保険制度

大学に学ぶ学生が被る種々の正課中及び課外活動中及び通学中の災害に対する被害救済の措置を目的とした制度。正課中及び課外活動中に生じた急激かつ偶然な外来の事故や、住居と学校施設等との間の通学、学校施設間相互の移動中に発生した事故によって、身体に傷害を被った場合に保険金が支払われる。本学では、この保険制度を採用し、入学者全員加入とし、各自で保険加入手続きを行うよう指導している。

4 大学院生総合保障制度

上記4の保険と同時に加入手続きを行ってもらい、在学中に偶発的な事故及び臨床実習中における他人への賠償責任事故・針刺し事故等感染事故を補償する制度。医学系研究科ではこの保険に加入することを勧めている。

5 健康管理

学生、教職員の保健管理業務を専門的に集中的に取り扱うことを目的として、専任の医師、保健師による保健管理センター医学部分室を設置している。定期健康診断の他に、心身の健康や精神面の相談。採用試験等必要な場合、願い出による健康診断書の発行を行っている。その他、救急薬品を常備し、簡単な応急処置も行っている。

6 学生生活相談

総務課学務室（管理棟1階）の窓口において、修学上の問題、学内の施設案内等、どんな小さいことでも相談にのりますので、一人で思い悩むことなく、気軽に相談してください。

7 特別待遇学生（特待生）制度

3・4年生対象に学業成績、人物共に特に優れた者に授業料免除を与える制度がある。

8 学会発表助成

国内及び海外における研究発表を行う場合の旅費の補助がある。

注意！ 連絡事項は基礎臨床研究棟1Fの大学院生用掲示板で行います。